

支配の中心)、アルゼンチンの約六分の一、パラグワイの全鐵道網、ウルグワイの三分の一であり、彼はボリビアの鐵道網に大なる影響をもつてゐたし、チリーにも少なからぬ影響をもつてゐた(29)。成程これらの報告はやゝ過大に評價してゐるかも知れない。それはアメリカ商務省の調査によつて立證されてゐないのだ。

(29) マイスネル『北アメリカの南アメリカ經濟侵略』〔獨文〕六八頁。

これと關聯してアメリカ資本の強力な武器であるところのこのトラストに論及する必要がある。その指導者の名前がアメリカ人でフアークハーといふところからこのトラストはフアークハー・トラストと呼ばれてゐた。このトラストは脊後に非常に眞劍な經濟團體が控へてゐた。スタンダード石油、鋼鐵及び肉類トラストがそれと關係をもつてゐた。その資本の構成から見ると、同トラストは國際的結合であつたが、その經濟に指導的に參加してゐたのはアメリカ人であつた。このトラストはシンヂケートの支持を受けてゐた、このシンヂケートに入つてゐた銀行は次の如くである、スベヤー・ブラザース、ヘンリー・シエラダー會社、バリー・エト・ド・ペーバ銀行、ソシエテ・ゼネラル(パリー)、スタラーエルト・ウント・リユーエンシュタイン、サー・アーネスト・キアツセル、クラインドボルト、ロバート・フレイミング會社、キュー・ダブ會社。このトラストにはドイツ銀行が若

干參加してをり、ニウヨーク・ナショナル・シティー銀行が非常に利害關係をもつてゐた。

同トラストはやゝ持株會社の形態で組織されてをり、これらの諸會社はブラジル、アルゼンチンボリビア、ウルグワイ及びパラグワイに存在してゐた。このやうな各會社はやゝ形式的には獨立の鐵道を統制してゐたし、これらの鐵道もまた屢々相互に關聯してゐた。フアークハーは六つの鐵道の經營に個人的に參加してをり、その他種々な結合にはトラストに所屬する鐵道の重役のうちの他の一般的な名前の重役も入ることができた。

トラストの勢力範圍は鐵道とばかり限つてゐなかつた。それは汽船會社(例へばアマゾン河の)、諸都市に於ける電車會社、電氣會社、鑛山を統制してをり、若干の大海港の波止場もこれに屬してゐた。トラストはまた大面積の土地の所有者である。トラストに屬するすべての會社は形式的には獨立不羈の結合として組織されてゐた。トラストは一九一五年まで存在してゐて、同年に所屬諸會社の破産の結果崩壊した。

アメリカのこれらの諸國の國債に對する投資は比較的少なかつた。國債は殆んど専らロンドン貨幣市場で發行された。一般にアメリカ投資の弱點は南アメリカに自國の銀行が存在しなかつたことである。合衆國のこれらの諸國との外國貿易でさへロンドンを通じて金融を受けてゐた。



見る通り、アメリカからこれらの諸國に對する資本輸出は本質に於て工業資本輸出の性質を帯びてゐた。貨幣貸付資本はアメリカ投資のうち極く僅かな部分を占めてゐた。こゝでは寧ろアメリカ工業資本が自己の活動に金融を與へるためにヨーロッパの貸付資本を吸収してゐたことを見ることのできるだらうし、フアークハー・トラストも正に、この見地から特徴付けることができるだらう。

極東、即ち日本、支那及びフィリッピンに於けるアメリカ投資は極く少なかつた。フィスクはこれを一億七千五百萬弗に等しいと考へてゐる（一億弗——日本及び支那、七千五百萬弗——フィリッピン）、吾々は個々の國に於けるこれらの資本額についてやゝ異つた報告をインガルスに見る。彼の報告によると一九一四年に百三十六のアメリカ會社が支那で活動してゐた。その上彼は一九一六年にはアメリカ人が支那に一千萬弗投資してゐたといふ意見を發表してゐる。もしさうだとすれば、フィスクが掲げた一億弗の大部分は日本に割當てられるのである。しかしアメリカ人が支那に投下したその絶對額から見れば第一どころの騒ぎではないが——イギリス資本は、ベツシの統計によると、一九一〇年に八千萬磅即ち約三億六千萬弗に等しかつた——それにも拘らずこゝではアメリカ資本の積極性が非常に著しかつた。アメリカ人はずつと前からその資本投下市場としての支那

の將來の役割を認識し始めてゐる。そのためには一八九七年アメリカ支那開拓會社の懲憑によつて支那外務省にアメリカ外交官が參與するに至つたことを想起すれば充分だ。領事も外交官も一しよになつて支那でアメリカ資本のために道を開いてゐる。その上非常に屢々その役目を變へてゐる。今日は國務省の役人かと思へば明日は銀行家や工業家の直接代理人となるといふ工合である。たとへばヴィリヤード・ストリートといふ人は奉天駐在アメリカ領事で、滿洲に於けるアメリカ外交の計劃實現に奔走してゐた人だか、その退職後は爾來既に銀行團の代表者と早變りしてゐる。

支那でアメリカ人は屢々他の帝國主義諸國の反對行動によつてぶつつぶれるやうな尨大な計劃に關係してゐる。鐵道王ハリマンはその鐵道計劃の實現に骨を折つてゐるが、この計劃は全領土を環狀を描いて包圍するだらう。そのために彼は日本人に屬する南滿洲鐵道の統制を獲取しようとする。その企圖が不成功の曉には、彼はシベリア横斷鐵道を公海に結合すべきこの鐵道と並行する他の鐵道を敷設しようとする。この計劃はハリマンの死によつて挫折したが、その後一九一〇年に國務長官ノックスが奉天鐵道國際化の企劃をもつて現れてゐる。この企劃はロシア及び日本政府の決定的反對行動にぶつかり、ぶちこわされてゐる。アメリカの支那鐵道投資總額は二千九百萬支那弗に等しく、これは支那鐵道に注ぎ込まれてゐる全外國資本の約二・六%に當つてゐる



(30) カンタロヴィッチ。後者の掲げてゐる數字は戦後の時代に關聯してゐるが、こゝでは大した變化を経なかつた。

アメリカの資本輸出のうちで支那國債への投資も或る意義を持つてゐる。戦前までに諸々の公債がその一部はニューヨーク取引所で發行されてゐる。

日本にはアメリカ資本が日露戦争時代に侵入し始めてゐる、この戦争中に専制政府發行の多額の公債がニューヨーク取引所で消化された。その總額は約一億弗に等しかつた。アメリカ資本は主として日本國債が占めてゐる。巨額の工業投資などはこゝでは見當らない。アメリカの電氣會社が同國の電氣業に参加してをり(31)、その上、電氣業でもまたその他の日本工業部門でもアメリカ資本と日本資本との協力といふことが確認される。アメリカ人は日本人と共に會社を組織する方を選ぶ。アメリカの輸出は往々特許權讓渡の形を取り、この場合企業は日本人によつて管理され、アメリカ人はたゞその重役團中に代表者を持つのみである。また日本の植民地朝鮮に於けるアメリカ資本の投下も有利なことを示してゐる、こゝには數個のアメリカ鑛業會社があつた、そのうち三つの會社が六百五十萬弗の資本を擁してゐた。

(31) 大館謙次『日本の合衆國との金融關係』一〇二頁。

アメリカの日本投資の概數を確定することはできなかつた。とにかく疑もないことは、一九一四年に於ける日本の總債務額十九億六千萬圓(32)のうち決定的部分はアメリカでなく、イギリスに割當てられてゐたことである。

(32) 同書一〇四頁。

ヨーロッパには、フィスクの統計によると、アメリカ資本が約三億五千萬弗あつた。この資本が國により、生産部門によりどう分配されてゐるかその全表を得ることができなかつた。こゝではアメリカ資本は主として工業資本によつて代表されてゐた。貸付資本の輸出は戦後の時代とは反對に殆んど見られない。

若干のトラストは戦前ヨーロッパで大いに積極性を示してゐる。たとへばスタンダード石油はルーマニアで多くの石油特許を獲取し、同國に大石油精製工場を設立した。ドイツではロックフェラーが獨米石油會社の活動資本の半額以上も所有してゐた。フランスではスタンダード石油がまた諸々の石油精製工場の所有者であつた、この石油精製工場はフランス政府が原料油及び精製油に對して種々な關稅を採用した後設立されたものである(33)。イギリスではアメリカ資本が海運業に關係



が深かつた。國際商船會社の活動資本の九三%はアメリカ人に屬してゐた(34)。

一七

(33) サルトリウス『國民經濟體系云々』一四九頁。

(34) インガルス『アメリカ人の富と收入』(Wealth and Income of the American People) 六七頁。

革命前のロシアでは、オールの統計によると、合衆國資本が一億一千八百萬留に等しかつた(概數で)。これはロシアに存在する外資總額の五・二%(35)に當つてゐた。

(35) オール『ロシアに於ける外國資本』一一九頁。

アメリカの資本輸出について吾々の簡単な叙述を要約して、吾々はその發達及び根本的傾向の性質、テムポについて次のやうに結論することが出来る。

一、戦争のすつと前から既にアメリカは資本輸出國となつてゐる(36)。この全期間の経過中アメリカ資本の外國投下は不斷に増加してゐる。合衆國の自大陸内に存在する投下資本總額は二十世紀初頭から戦争までに五倍も増加した。サルトリウス・フォン・ワルテルスハウゼンは戦前には著しい「資本」輸出増加を見なかつたと考へてゐるが誤謬である。彼は今世紀初頭に於けるアメリカの外國投下資本の絶對額を過大に評價し、従つてそれ以後の増大に氣が付かないのだ。

(36) バリー(論文集『外國信用』中にある前掲論文參照)はアメリカの資本輸出が戦争前既に甚だ大であつ

たと考へてゐる。これは彼にあつては移民の送金の演ずる役割の評價と關聯してゐる。彼は移民の送金をもつて賠償金にも比すべき資本輸出の特別な形態と考へてゐる。しかしさうすると資本輸出の概念はあらゆる専門語的明確さを失ひ、そして資本輸出と他の支拂差額の若干項目との間の相違がなくなつてしまふのである。しかしながら、この問題に關する彼の見地は全く正しくないとしても、戦争がアメリカを世界の債權者に變化したといふ彼の戦争の役割の特徴付けには、吾々の見解に従へば、あらゆる注意を要するのである。彼は書いてゐる。「合衆國は戦争がなくても長い間のうちには大型の債權者になつただらう。過去約百年間の發達はさう終らざるを得ないだらう。それに向つての用意は、他の場所ではどんなところでも不可能なほど廣汎であつたらう。……合衆國は何故に債權者となつたか、など、いふやうな問題の意味での問題など頭を碎いてはならない。恐らく第四局面から第六局面(バリーによる債權國發展の局面——メカニック)への移渡が行はれたそのテムポについては問題が起り得るだらう。實際は世界戦争若しくはせいぜいその前半(合衆國がドイツの敵陣營に移るまで)が發達を促進したのだ、しかしいふところの問題はたゞその促進にあるのだ。恰も發展の或る線が不意に中斷されて、他の線が始まつたといふやうな種類の觀念は全く放棄しなければならぬ。寧ろ問題は次のやうに提出されなければならない、即ち合衆國は世界戦争のすつと前にはまだ主として債權者ではなかつたのだが、かういふ状態はどうして作り出されてゐたかよ。」

二、輸出は主として工業資本の輸出といふ形態で行はれた。輸出は地理上次のやうに分布してゐた。アメリカ資本投下の基本的領域はアメリカ大陸の諸國であつた。これらの諸國のうち若干の國(メキシコ、中央アメリカ)ではアメリカ資本が戦前既に支配的地位に達してゐた。

三、アメリカの資本輸出にも拘らず、それと同時にヨーロッパに對するアメリカの負債が増大し

### 三 アメリカ合衆國の資本輸出

一七



た。これは第一に急速に發達するアメリカ國民經濟の巨大な資本需要、さらに合衆國支拂差額の獨特な構成によつて條件付けられてゐた。アメリカの資本輸入は主として貸付資本の形態を取つて行はれた。アメリカ資本は輸入資本の利子と輸出資本の工業利潤との差額といふ形で儲けてゐた。

## 二 世界戦争とアメリカの資本輸出

アメリカは戦争中及び戦争直後に自國の戦前負債の著しい部分から解放されたばかりでなく、なほ百十億弗以上の資本をも輸出した。同一期間中に合衆國の金保有も十一億三千九百萬弗増加した(37)。

(37) ボックス、前掲書七〇頁。

アメリカ資本の母國への環流が一九一四年の末に始まり、一九一五年にも始つた。一九一五年の前半には約五億弗の鐵道株式及び社債が發行された。ユー・エス・ステイール・コーポレーションはその計算書の中で五千三百萬弗の株券が外國所有者によつて賣り出されたことを報告した(33)。またアメリカ鐵道の種々な形態の社債券について外國人の所有が變更されたといふこともある。一九一五年一月三十一日には外國人が總額二十七億五百萬弗(概數)に當るこれらの社債券を持つてゐたが、一九一七年一月三十一日には僅かに十一億八千六百萬弗(同じく概數)しか持つてゐなかつた

(39)。見る通り二倍以上の減少である。ユー・エス・ステイール・コーポレーションについて言へば、吾々はそれと似た結果を得るのである。一九一四年三月三十一日には平株の二五・二九%、優先株の三・六九%が外國人の所有であつた。一九一七年三月三十一日にそれに照應する數字は九・七二%と四・二一%であつた(40)。全體としてアメリカの負債は二十億弗から減少した。

(38) アレキサンダー・ノース『戦時のアメリカ金融』一〇三頁。

(39) 『經濟雜誌』一九一八年十二卷『アメリカ有價證券の影響』。

(40) 同書。

全戦争年度を通じて殆んど全アメリカ資本輸出は戦争に金融を與へる目的のために役立つた。しかしこれらの年でさへ中立國への輸出は停止しなかつた、丁度聯合國への投資が戦債の性質を帯びてゐたばかりでなかつたやうに。一九一五年の十一月にノールウェーが五百萬弗、一九一五年三月にはスウェーデンが一千萬弗、同年五月にはアルゼンチンが五千萬弗の借款を調達し、一九一六年五月には七千五百萬弗のカナダの債券がアメリカで消化された。十月及び十一月初にはフランスの五都市(たとへばポルドー、リオン及びマルセイユ)のために總額一億一千萬弗の債券が發行された(41)。

(41) インガル、前掲書三八頁。

### 三 アメリカ合衆國の資本輸出



聯合國への金融といふ見地から見てこの期間を二つの部分に、即ちアメリカが戦争に参加する迄と参加した後との二つの部分に分ける必要がある。合衆國の中立時代には聯合國の債務はモルガンの指導の下にアメリカ銀行家によつて行はれた。一九一五年十月に初めてかういふ債券が五億弗だけイギリスとフランスのために發行された。この債券は消化されるまでにはやゝ難色がないわけではなかつたが、この債券の後に他の債券、即ちフランスのために一億弗及びイギリスのために二億五千萬弗といふ債券が続いた。二つとも一九一六年のうちに消化されてしまつた。かくて戦時アメリカ貨幣市場で發行された外債總額十五億二千萬弗のうち三分の二以上といふものはたゞフランスとイギリスだけに割當てられてゐるのだ。

これと關聯して、この二ヶ年間のうちに信用條件がどう變化したかを述べなければならぬ。最初の債務は「利子」五%であり、次のは五・五%であつた。その上最初の債務は少しの保証もなしに發行されたが、次回のはアメリカ及び他のヨーロッパ外の有價證券を擔保として發行された(42)。

(42) ノース、前掲書一三九頁。

アメリカの参戦後、即ち一九一七年二月以後アメリカ大藏省は交戦國政府の直接的金融に移つて行つた。この目的のために多くの内債が發行された、これは聯合國への融資のために必要な手段を

大藏省に與へたのである。聯合國は融資を得た代りに合衆國政府にその債務を棒引いた。これらの債券は専ら聯合國がアメリカで軍需品購入時の融資の目的に役立つた。

アメリカ大藏省は種々な會議の規定に基いて戦争終了までにイギリス政府に對して全部で七十九億七千七百萬弗といふ金額を貸付けた。その外平和克復後一九二〇年十一月三十日まで二十億六千二百萬弗の信用を與へた。この金額中には二十億二千百萬弗に上るアメリカ政府によつて掛で賣り出された軍需品の過剰分をも附加しなければならぬ。全體でこの全クレディットは百三億三千八百萬弗といふ巨額をなしてゐるのである(43)。

(43) ジョーンズ、『合衆國と戦債』(The United States and the War Debts)。

見る通り、サルトリウスの豫言は適中した。合衆國はその以前の負債の半額から解放されて戦争から出て來たばかりでなく、大債權者、世界の金融中心地となつたのだ。何がそのヨーロッパの金融關係にこの變化を起す可能性をアメリカに與へたか？ この場合、何よりも先づ、合衆國の工業の發展、その帝國主義國家への轉化に表現されてゐるところの一般的原因を把握しなければならぬ。この原因の敘述は吾々の論文の範圍外にある、しかしかりにその原因が戦争によつて惹き起され、それに條件付けられてゐたところの諸々の特殊事情と關係がなかつたとしても、かゝる變化



の完成にはたゞ一つの一般的原因だけでは不充分であつたらう。この特殊原因とは一體何であつたか？

この變化に當つて最も重要な役割を演じたのは合衆國の輸出の巨大な發達であつて、吾々が見た通り、常にそれは貿易差額受取超過の特徴をもつてゐた。一九一三年には輸出超過額は六億三千三百萬弗であつた(44)。最近三ヶ年(一九一一年—一三年)の平均は五億七千五百萬弗に等しかつた。戰爭年度には貿易差額受取超過が不斷に増加した。一九一五年には輸入以上の輸出超過額は十億一千五百萬弗(概數)、一九一六年には三十億九千萬弗、一九一七年には三十二億八千萬弗、一九一八年には三十一億一千八百萬弗、最後に一九一九年には四億一千萬弗であつた(45)。全體で全期間に於ける〔輸出〕超過額は約百十億弗強といふ巨額に達したのだ。全く當然のことだが、この場合既に知つた前世紀末葉の若干の相貌を無限に大きな規模で繰り返さなければならぬ。當時アメリカは貿易差額受取超過が激増したおかげで初めて國際資本市場に一大要素として立ち現れたのである。

(44) コーリングス『合衆國の外國貿易』(獨文)世界雜誌一九二六年一月。  
(45) コーリングス、同書七一頁。

その上アメリカは將來の債權者として本位貨の減價をやつてのけた。アメリカはその負債を弗で支拂つたのだが、その弗の眞實の價値は戦前よりも低かつたのだ。その上更に合衆國に有利な一つの事情が附加へられた。輸出品の價格は輸入品の價格よりも急速に騰貴した。かくて一九一九年には次のやうな表を掲げることができるだらう(46)。

年	輸出		輸入	
	數量	價額	數量	價額
一九一三	100	100	100	100
一九一九	141	317	135	318

(46) ロープルバツハ『外國貿易と投資』アメリカ社會學雜誌一九二八年七月より借用。

こんな風に金額と商品數量とをぢかに比較することはやゝ亂暴な話だが、それにも拘らずこの表は輸出額と輸入額の相互運動について或る近似的觀念を與へてゐる。

數字は一九一三年を一〇〇としてゐる。

商品輸出が激増し、貿易差額受取超過が激増したが、それと同時に支拂差額のうち戦前は普通貿易差額受取超過分を相殺してゐたところの諸々の項目がなくなつた。これに屬してゐたのは二億弗

三 アメリカ合衆國の資本輸出



の旅行者の支拂金、一億七千五百萬弗の移民の送金、三千五百萬弗の運賃及びその他より小さい差額項目である。

輸出入數量の變化と關聯したこれらの諸モーメントと並んで、アメリカを世界資本市場にかくも飛躍的に登場させることができたのは、既に戦時中にアメリカには諸外國の自由な貨幣手段が蓄積され始めたといふ事情である。戦争まで世界貨幣市場でロンドンが演じてゐた役割は戦争中にニューヨークに移つてしまつた。また諸々の中立國と太平洋に面せる諸國との相互貿易の金融は戦時には主としてニューヨークで行はれ、ロンドンでは行はれなかつた。

### 三 戦後に於けるアメリカの投資

合衆國の外國投資の動態といふ見地から見て戦後の全歴史は二つの時期に分れる。第一は戦争直後の最初の二三年、それに一九二一年の恐慌に始まり吾々の時代まで續いてゐる時期。これらの時期はその資本輸出の絶對額の運動についても、また國別或は投資別による資本輸出の分配といふ見地から見てもそれぞれ特色をもつてゐる。なほ第二期の埒内にある一九〇四年（ドーズ案採用）にはアメリカの資本輸出の方向にやゝ變化が生じたことを指摘しなければならぬ。

第一期はアメリカの大藏省がヨーロッパに依然として金融を續けてゐたといふ特徴をもつてゐる

平和克復後アメリカ大藏省はヨーロッパ諸政府に三十二億六千萬弗といふ巨額の貸付を行つた。この種の貸付は一九二〇年に停止した。その上この戦後最初の年度には全世界の對合衆國負債の借換部分が增大したことが認められる。インガルスはこの額を二十三億弗と計算してゐる。この負債の壓倒的部分はヨーロッパに割當てられてをり、それは主として對外貿易に對する信用授與といふ基礎の上で生じた。これらの年（一九一九年及び一九二〇年）に於けるアメリカの長期投資について言へば、それは次のやうな状態にある。ウインクレルの統計によると(47)、一九一九年にアメリカ人は六億二千萬弗、一九二〇年には五億七千六百萬弗に上る資本額を輸出した。この數字はアメリカ商務省の數字とやゝ違つてゐる。アメリカ商務省はその毎年發表される合衆國支拂差額中で當該年度につき次の數字を掲げてゐる(48)。一九一九年には五億六千二百萬弗、一九二〇年には五億四千萬弗。すべてこれらの計算は非常に條件付けられてをり、甚だ大きな證明を必要とするといふことを述べなければならない。それはまだ一度も修正されないだらう。たとへば一九二五年の差額中で同省は上に掲げた數字を著しく凌駕した數字即ち一九一九年には九億七千萬弗、一九二〇年には十四億四千五百萬弗といふ數字を掲げてゐる。

(47) ウインクレル、前掲書。

### 三 アメリカ合衆國の資本輸出



(48) 『一九二六年に於ける合衆國の國際支拂の差額』フォールによる。商務省出版。

吾々はこれらの金額が國により大陸によりどう分配されてゐるかについての報告を得ることができなかつた。やゝ不正確な報告ならばインガルス統計の見地から與へることが出来る(49)。尤もそれはより長期に亘つてゐるが。彼は一九一六年と一九二〇年とのアメリカ(商業)投資の分配を示す表を掲げてゐる。

アメリカの對外(商業)投資 (單位百萬弗)

	一九一六年	一九二〇年
南アメリカ	二八五	五三五
北アメリカ	七	九
キューバ	四三五	五五五
カナダ	八〇〇	一、四五〇
メキシコ	七五〇	八〇〇
ヨーロッパ	六四〇	五四五
南アフリカ	—	一五

合計……………二、九七七

(49) インガルス、前掲書七一頁。

三、九九三

尤もこの數字は投資の一部のみを含み、また繰返して言ふが、長期に亘つてゐるが(なほ一九一九年及び一九二〇年は前時期と多くの共通した特徴を持つてゐることを忘れてはならない)、それにも拘らず見掛け上は全體としてアメリカの對外投資の正しい相貌を傳へてゐる。この表はアメリカ資本の積極性がこの時代にも先づ第一にアメリカ大陸諸國に向けられてゐることを立證してゐる。しかもこの場合發展のテムボから見て第一位を占めてゐるのは南アメリカである。ヨーロッパ投資の減少は吾國〔サヴェート同盟〕に於けるアメリカ企業の國營化とドイツに於ける損失とに關聯してゐる。

これらの年のうちにアメリカ人は信用授與について非常な手控をした。債券は主として充分優良な保證が存在する場合にのみ發行され、その信用能力が非常に高いと評價されるやうな國にのみ發行された。一九一九年にアメリカで發行されたのはイギリス、カナダ、スイス、スカンディナヴィアの債券があつた。中央及び東ヨーロッパの諸國はニューヨーク市場で信用を利用しなかつた。たゞ一九二〇年三月ベルシアが國務省の正しき存在のために政治的顧慮(サヴェート・ロシアとの戦争

三 アメリカ合衆國の資本輸出



及び封鎖時代)から五千萬弗の借款を調達してゐる(50)。

(50) ライプニッツ『アメリカの國際資本移動』(獨文)一〇四頁。

一九二一年の初頭からアメリカの對外投資が不斷に増加し始め、それは一九二三年に停止した。この年にはルール占領とヨーロッパに於ける政治的危機及び經濟恐慌の尖鋭化のために資本輸出の總額は激減した。

吾々は次表中にウインクレルの數字も商務省の數字も掲げる、恐らくウインクレルの統計はより正しいだらう、と言ふのはウインクレルの數字には商務省の眼界外に残されてゐる種々な投資も加算されてゐるからである。

一九二一—一九二八年に於ける合衆國資本輸出の増加(單位百萬弗)(51)

年	ウインクレル	商務省
一九二一	六三六	六三一
一九二二	八七〇	六八二
一九二三	五四四	四二四
一九二四	一、五八九	九三八

一九二五	二、二〇六	一、〇八五
一九二六	一、八九三	一、二三五
一九二七	二、〇七三	一、三七六
一九二八	二、〇九六	一、二八九

(51) ウインクレルの數字は前掲書及び『外國に於ける弗』から、商務省の數字は『商業報告』一九二九年一月二十一日から取つた。

吾々は既に前に述べたが、一九二四年から合衆國の對外投資總額に於けるヨーロッパの比重が減少し始めてゐる。それ故に最近時の最初の年間に於ける國別及び大陸別によるアメリカ輸出の分配がどう計算されてゐるかを確認することは興味あることである。吾々が掲げる表は一九二一年及び一九二二年(合算されてゐる)に於ける輸出の分配を示してゐる(52)。

國	百萬弗	%
ヨーロッパ	三九五・八	二八・四
南及び中央アメリカ	四七五・五	三二・七
北アメリカ	四三八・七	三九・二
三 合衆國の資本輸出		



自己の領土……………七〇五  
海洋諸國……………二四・四

四・六  
七・六

(52) オイレンブルグ『戦後の國際資本形成』世界雜誌(獨文)一七二三年六月。

見る通り、輸出の方向が徐々に少しづゝ變つてゐる。第一位に立つてゐるのがアメリカ大陸諸國で、輸出の六〇%以上を吸収してゐる。しかしヨーロッパは今日戦前よりも著しく大きな役割を演じてゐる。その上ヨーロッパ向輸出はその絶對額が増加したばかりでなく(二年間のうちにアメリカ人は戦前の全時期よりも多くの資本をヨーロッパに輸出した)、他の大陸中に占めるヨーロッパの地位をも向上したのである(53)。

(53) これと關聯して一九二一年(恐慌)が合衆國の對外投資の性質にどう反映したかを指摘することは興味あることだ。一九二一年の輸出總額は一九二〇年よりも高かつたとはいへ、外國の工業證券に對する投資は一九二一年に於ては前年度に比べて減少した。『一九二一年には何よりも先づキューバ及びヨーロッパの發行及び小額だがカナダ・ゴレーシヨンの債券發行を行つたが、その外國工業債券發行の著しい減少は一般的工業不況を反映してゐた。』(『聯邦準備報告』一九二三年二月一六二頁)。

ヨーロッパ諸國のうちで首位を占めてゐるのはフランスである(ついでながらこれも亦この年をドーズ案採用後の時期からやゝ區別するのである)、その割合から言へばアメリカの全ヨーロッパ資

本輸出の約半分を占めてゐる。一般にアメリカの金融上の利益はフランスと關係が極めて深い。それはアメリカ銀行の支店の増加によつて示されてゐる。

一九一九年にも一九二〇年にも中央及び東ヨーロッパは殆んどアメリカの長期投資を要求してゐない。

アメリカ諸國やヨーロッパと並んで、戦前は、吾々が見た通り、甚だ關係が淺かつた海洋諸國の地圖に注意を拂はなければならない。こゝではその割合が最大部分を占めるのは蘭領印度であつてこの一國だけで一九二一年には一億弗の負債をアメリカから受けてゐる。

一九二三年は輸出額の激減を招來してゐる。これはその資料がどう絶對的輸出額を算出しようとするとは關係なしにあらゆる資料が證明するところである。ウインクレルの統計によると、この年に於けるアメリカ投資の總額は五億四千四百萬弗に等しい。このうち一億四千四百萬弗は舊負債の借換に割當てられてゐる。そこで新投資は四億弗に等しい。

この總額の大半はニューヨーク取引所に於ける外國政府の公債發行が占めてゐる。その上ヨーロッパの占める割合は多くなく、オーストリア及びルーマニアを除いて、中央及び東ヨーロッパの諸國は全然なかつた。なほルーマニアは舊負債の借換と僅か一千五百萬弗の借款を受けたに過ぎない。

三 アメリカ合衆國の資本輸出



その他の諸國のうちで新たに注意を惹いてゐるのは蘭領印度であつて、同國は五千萬弗の負債をアメリカで整へた。この國は戦後同國の護謨栽培に對するアメリカの利益と關係して合衆國から著しく着目されてゐる。同國の護謨栽培に對するアメリカ投資總額は一九二四年の統計によると一千四百萬弗に等しかつた(54)。

(54) ダン、前掲書一六三頁。

一九二三年の末にアメリカの對外投資は八十一億七千五百萬弗といふ巨額に達し、その國別分配状態は次のやうであつた。

ヨーロッパ	一、三〇〇
カナダ	二、五〇〇
キューバ	一、三六〇
メキシコ	一、〇三三
中央アメリカ	一、四八
南アメリカ	一、三三〇
支那、日本及びフィリッピン	四四〇

その他.....一七五

見る通り、一九二三年の末に第一位を占めてゐるのはカナダとその他のアメリカ大陸諸國である。全體として吾々が戦前の時期について確認したところのアメリカ對外投資の地理的分布に關する發展傾向はドーズ案採用前の時期についても正しいことを示してゐる。アメリカの投資はこれらの年にも第一に自大陸の諸國に向けられてゐる。

カナダでは既に一九二三年にアメリカの投資がイギリスを凌駕してゐる。イギリスの投資は一九一三年に比べて殆んど増加しなかつた。アメリカの投資は、甚だ嚴格な統計によると(55)、一九二三年に二十四億七千四百萬弗に等しく、イギリスは——二十億九千萬弗に等しかつた。

(55) 一九二八年六月四日の『商業報告』にある前掲論文。

吾々は少し前で言及したが、言葉の本來の意味で即ち一九二一年から開始した全上向的發展の範圍内では、ドーズ案採用前の時期をドーズ案採用後の時期から區別しなければならぬ。さう分割する理由はアメリカの投資市場としてのヨーロッパの役割が増大して來たことである。しかもヨーロッパはその發展のテムポの點で他の大陸に優つてをり、一九二五年にはカナダを凌駕して、アメリカ資本の輸入額の點で首位を占めてゐる。ヨーロッパの領域内ではまた各國の演ずる役割が變化

三 アメリカ合衆國の資本輸出



してゐる。ドイツがその首位を占めてゐるのだ。

吾々は左にウインクレルの統計に基づいて作つた表を掲げる。商務省の報告はその数字の絶対量の點では後者と違つてゐるが、アメリカ投下資本の分配についてはほゞ同じやうな相貌を與へてゐる。吾々は前述の考慮からこれらの年にもウインクレルの数字を利用し、必要な場合には合衆國の官廳統計をもつて補ふことにする。

國別アメリカ投資の分配 (單位百萬弗)

國	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年
ヨーロッパ	一、四八八	三、三六一	三、五九七	四、三三七	四、七九八
カナダ	二、八八九	三、一三四	三、五五八	三、九三三	四、一三〇
中央アメリカ	二、五七六	二、六六五	二、七八九	二、九二四	二、九五四
南アメリカ	一、三三八	一、五三五	一、九七三	二、三四六	二、五二三
海洋諸國	四八五	六五七	七三三	七三六	八五一
其他の諸國	一八三	一九三	二三五	三六三	三七五
合計	九、三六九	一一、五三五	一二、八五五	一四、五〇〇	一五、六〇一

アメリカの對外投資は一九二六年から始つて毎年平均約十五億弗つゞ増加してゐる。これは戦前イギリスが毎年約九億弗づゝ資本輸出を増加したがその増加の約一倍半を超えてゐる。

殆んど全國家團が一齊にアメリカ投資を増加してゐるのに、メキシコばかりは停止状態にあつたアメリカ大陸諸國のうち首位を占めてゐるのはカナダで、アメリカ資本投下の絶対額の點ではあらゆる殘餘の諸國を凌駕してゐる。成程増大のテムポの點では南アメリカが優つてゐる。吾々が一九二三年前の諸年度について確認した傾向は現在も存續してゐる。イギリスの投資は増加してゐな

す。

吾々が見た通り、一九二三年にイギリス投資が二十億九千萬弗に等しかつたとすれば、一九二七年及び一九二八年にはそれぞれ二十一億一千七百萬及び二十一億一千萬弗に等しかつた、これは合衆國商務省の統計だが、カナダの資料と合致しない(56)。

(56) 『國際商業及び支拂差額一九一三—一九二七年の覺書』國際聯盟ヂェネーヴ一九二八年。

一九一〇年にはカナダ全債券發行高の八一%はロンドンの諸銀行が引受けた。戦後はニウヨークがカナダ全債券發行高の半分から三分の二まで吸収した。たとへば一九二六年にはカナダの全債券發行高のうち二億六千九百萬弗はアメリカで消化された(57)。

三 アメリカ合衆國の資本輸出



一五  
(57) 『銀行雜誌』一九二八年十月、『ニウヨークとロンドンとの世界に於ける金融ヘゲモニー獲取闘争』——  
フレイミング博士。

アメリカ人はその資金をカナダの工業企業に注ぎ込んだり、自己の會社をそこに組織したりしてゐる。一九二五年末にはカナダに約七百のアメリカ系會社があつた(58)。そのなかにはカナダの會社も入つてゐるかも知れないし、アメリカの會社の直接支店も入つてゐるかも知れない。アメリカ會社の支店中には大アメリカ會社たとへばフォード、ヂェネラル・モーターズ會社、インタナショナル・ハーヴェスター會社等が入つてゐる。

(58) デーヴィス『對外投資』五二頁。なほこゝには種々な資料の統計が掲げられてゐる。

既に一九二〇年にはアメリカの投資が殆んどあらゆるカナダの工業部門でイギリスを凌駕してゐた、殊に數部門は既に當時著しくアメリカ人の掌中にあつた。これに屬するものは銅工業、化學工業、自動車工業、染色工業その他若干の工業である。一九二四年の統計によると、カナダ工業に投下された全資本額のうち三一%はアメリカ人に屬し、イギリス人に屬するものは僅かに一〇%であつた。成程鐵道や銀行や保險會社ではイギリス資本がアメリカより多かつた。また土地所有もイギリス人がアメリカ人を凌駕してゐる。カナダ國民經濟のこれらの部門ではイギリス人が最近まで引

續き指導的地位を確保してゐる(59)。

(59) 『商業報告』一九二四年十一月三日。

カナダにアメリカ資本を引きつける理由は地理的に近接してゐるといふこと以外に次のやうなものがある。それは何よりも先づ關稅、殊にカナダが他の自治領で利用してゐる關稅免除である。後の事情は合衆國の自動車工業と特に關係がある。關稅と並んでアメリカの對カナダ資本輸出は動力資源が比較的低廉で豊富なことによつて條件付けられてゐる。

アメリカ大陸の他の諸國も亦巨額の合衆國資本を吸収してゐる。元來ヨーロッパへの投資が激増するにも拘らず、アメリカ資本の基本的分量は今日、戦前と同様に、アメリカ大陸に吸収されてゐるのである。外國投資額百六十億弗のうち約百億弗は兩アメリカに存在してゐる、この額は總額の約三分ノ二に相當する。しかもこの百億弗のうち大半はラテン・アメリカに割當てられてゐるのだ。

吾々はこれらの資本がラテン・アメリカの個々の國々にどう分配されてゐるかを示す表を掲げる。後者の範圍内では、中央アメリカを南アメリカから區別しなければならぬ。それはこれらの國と合衆國との間の關係の型と關聯してゐる。中央アメリカの殆んど全部の國は多かれ少なかれ合衆國



の植民地である、ところがこのことは、パナマ以南に位する地域には合衆國が充分勢力的に侵入してゐるがそれにも拘らず、南アメリカについてはいふことができない。

中央アメリカに對するアメリカの投資 (單位百萬弗)(60)

國	一九二七年	國	一九二七年
キューバ	一、四〇〇	サルバドル	三三
メキシコ	一、二八八	パナマ	三二
コスタリカ	四	ハイチ	三八
ホンデュラス	四〇	サン・ドミンゴ	三八
グワテマラ	三七	ニカラグワヤ	三〇
合計	二、五五三		

(60) この數字はウィンクレルの數字とやゝ違つてゐる。しかしそれはこの地方に於けるアメリカ資本の分配についてかなり正確な姿容を傳へてゐる。この表は『經濟ディーンスト』一九二八年八月十日から借用。

戦前のアメリカ投資はその中央アメリカの投資の最大額がメキシコに割當てられてゐるが、これに反して最近キューバが首位を占めてゐる。こゝではアメリカの資本の基本的分量が砂糖工業

に集中されてゐる。商務省の資料によると、一九二四年キューバ工業に投下された總額十二億六千萬弗のうち七億五千萬弗は砂糖工業に投下された(61)。インガルス統計だと、一九二〇年にはこの部門に於けるアメリカ資本は三億七千五百万弗に等しかつた。勿論商務省の統計とインガルスの統計とは違つた方法で作られてゐるから、この兩者を比較することは甚だ困難である。「だが」いづれの場合にせよ増加、非常な増加であることは疑もない。この數字を戦争直前の年の統計と比較すると驚くべきものがある。一九一〇年にはまだキューバの砂糖工業にアメリカ資本は六千五百万弗といふ比較的少額しか關係してゐなかつた。

(61) ダンの數字、前掲書二二〇頁。

このキューバ砂糖工業に對する投資は合衆國にとつて甚だ大きい利益を代表してゐる。砂糖は合衆國では甚だ重要な消費對象であり輸入對象である。砂糖は合衆國が輸入する商品のうち價額の點では第一位を占めてをり、一九二四年のその輸入量は戦前輸入平均の二倍も大であつた(62)。

(62) コーリングス『世界經濟』一九二六年中の前掲論文。中央アメリカは種々な植物性生産物(ココア、珈琲、バナナ等々)の供給地として合衆國にとつて甚だ大きい意義を持つてゐる。アメリカ人がこゝで主として栽培園農場に自己の資本を投下してゐるといふ事情がこれと關係してゐる。こゝから中央アメリカの共和國に於ける聯合果實會社(The United Fruits Co.)の役割が出て来る。これらの諸國の若干のものは本質

三 アメリカ合衆國の資本輸出



に於てアメリカの植民地である。以下のホンデユラスの例を参照。

またキューバ國民經濟のその他の部門にもアメリカ資本は甚だ關係が深い。吾々はあまり多くの表を掲げて本論文を悩したくない、しかし合衆國のキューバ經濟に對する利害關係の程度を示すも一つの數字を掲げることが出来る。鐵道にはアメリカ人が一億一千萬弗投資した。

メキシコについては、吾々は前に既に、こゝではアメリカ投資がこの期間に殆んど少しも増加しなかつたといふことについて言及した。いかにも『經濟ディーンスト』は別なことを言つてゐるかのやうである。かりにこれを信ずるとすれば、アメリカの投資は一九二二年から一九二七年までに四億八千八百萬弗増加したことになる。しかしこれは戦前の資本を低く、即ち八億弗と評價してゐるのだ。

他の中央アメリカ諸共和國はそこに投下されてゐる合衆國資本の額からいふとキューバやメキシコに著しく劣つてゐる。しかしこれらの共和國はあまり大國ではないから、その經濟生活を向上するためには比較的少額の資本で澤山なのである。これらの年の間にアメリカ人はこれらの國々の經濟に深く侵入した。中央アメリカのこれらの部分に於けるアメリカの投資と言へば、それは著しい部分が一九一四年迄或は戦争年度中に作り上げられたものを維持することであるに過ぎないのだから、その戦後の發展について詳しく觸れない。しかしながらこの地方でアメリカ大工業團體が演じてゐる役割を特徴付けるためには次のやうな事實をあげることが出来る。ホンデユラス一國だけで『聯合果實會社』の資本が一九二三年に二千四百萬弗に等しかつた。一九二七年にはこの共和國に於けるアメリカ資本の總額が四千萬弗と計算されたことを忘れてはならない。

アメリカの南アメリカ投資は隆々として發展してゐる。そこでは合衆國の投資が一九二二—一九二八年の間に十倍も、即ち一億七千九百萬弗(63)から二十一億六千七百萬弗に増加した(64)。しかもそれは絶對量の點ではイギリスに劣つてゐる(『ル・ヨーロッパ・ノヴェール』L. Europe Novelle から借りると、イギリスの投下資本は一九二八年に四十一億九千三百萬弗に等しかつた)、しかしなほその増加のテムポの點ではイギリス資本を著しく凌駕してゐる、後者はその戦前の分量に比べると殆んど増加しなかつた。

(63) 戦前南アメリカに輸出されたアメリカ資本量の過小評價の可能性について前述したことを参照せよ。

(64) 吾々は與へられた場合ウィンクレルの數字とはやゝ違ふが『ル・ヨーロッパ・ノヴェール』の數字を掲げる。なぜならばそれは同時に個々の共和國別のアメリカ資本の分配を示してゐるからである。『ル・ヨーロッパ・ノヴェール』一九二八年十二月十五日『合衆國の南アメリカ投資』。

しかしこれらの年の間にこの大陸に於けるアメリカ資本が増大したばかりでなく、同時に個々の

### 三 アメリカ合衆國の資本輸出



國別による分配もまた變つて來た。戦前まではブラジルが合衆國資本投下市場として最も重要な役割を演じてゐた、現在はチリーがさうである——尤もチリーに投下されたアメリカ資本の絶対額から見るとアルゼンチンに劣つてゐるが。

増加のデムボの點ではヴェネゼエラとコロムビアが第一位を占めてゐる。それはこれらの國に於ける石油工業の發達と關聯してゐる。ブラヂル、アルゼンチン及びパラグワイを除いて、殘餘のあらゆる國々でアメリカの投資はイギリスを凌駕してゐた。尤も前二國は南アメリカの經濟的政治的生活上最も重要な役割を演じてゐる。こゝではアメリカ人がヨーロッパ人の決定的反抗に遭つてゐる。これは勿論また商業競争上にも現れてゐる。

吾々は以下に一九二九年に於ける南アメリカの個々の國別によるイギリス及びアメリカ資本の分配を示す表を掲げる(單位百萬弗)(65)。

國	イギリス	北アメリカ
アルゼンチン	二、〇一〇	五〇一
ブラヂル	一、三三六	四三二
チリー	三二八	四八三

ウルグワイ	二〇六	九〇
ペルー	一〇〇	一六九
ヴェネゼエラ	八	一七三
コロムビア	四〇	一八三
ポリヴィア	四三	九
パラグワイ	三三	一八
エクワドル	一九	二、二六七
合計	四、一五三	二、二六七

(65) 『ル・ヨーロッパ・ノヴェール』前掲論文。

吾々がこれらの諸國の國民經濟の個々の部門によつてのアメリカ資本の分配について前に述べたことは現在もやはり正しい。合衆國投資の重心は戦前もさうであつたやうに採掘工業に、栽培園農場に、そして種々な種類の交通にある。精工業にはその利害關係が著しくない。

アメリカ企業とこれら共和國の經濟との間の相互關係は戦前同様今日もこみ入つてゐる。たとへば吾々が先に引用した論文の筆者はこの點について次のやうに書いてゐる。『北アメリカ資本は常に

三 アメリカ合衆國の資本輸出



どこでもその外國的性資を保つてゐる。北アメリカ資本が負債の形態を取つたり、株式参加の形態を取つて現れるところであるばかりでなく、なほラテン・アメリカで活動してゐる北アメリカ企業が土着企業と密接に關係してゐるところでもさうである。それは合衆國に指導權がある獨立企業であるか、または北アメリカ企業の支店であるかどうかだ(66)。

(66) 『經濟ディーンスト』前掲論文。

吾々はアメリカの在外資本の運動の主要舞臺を研究する任務をもつてゐる。この見地から見ても關係の深いのはアメリカ大陸の次はヨーロッパである。

こゝには合衆國投資の三つの中心地がある、即ちドイツ、中央及び東ヨーロッパ及び北ヨーロッパこれである。フランスその他のローマ系國家(67)の演ずる役割は小さい。フランスの比重がかう低下したのはフランスの借款をニューヨーク取引所で成立させることに對する國務省の否定的態度と特に關聯してゐる。なほこのことはニューヨーク取引所で發行されたフランス債券の買方にアメリカ銀行家を参加させなかつたのである。ヨーロッパ諸國家のうちで最も重要な役割を演じてゐるのはドイツであつて、同國は一九二八年に合計三億八千八百萬弗のアメリカ資本を輸入した。これはアメリカが同年ヨーロッパに投下した資本總額の三八%に當つてゐる(68)。ドイツの負債總額は一九

二七年の半に大約五十億マルクに等しかつたが、そのうち合衆國に割當てられてゐたのは二十八億五千萬マルクといふ巨大な數字である(69)。クチンスキーの統計によると(70)、ドイツは一九二四年から一九二七年の末に至る三年間に三百七十口の外債を整へた。このうち七十口はアメリカで發行され、しかもこの七十口の負債は十億三千九百萬弗の巨額に上つてゐる。これはドイツ貨幣で換算すると四十億マルク以上に當つてをり、『商業年鑑』の數字を著しく凌駕してゐる。ドイツ國民經濟への信用授與の點でアメリカの比重を特色付けるためには次のことを指摘しなければならない。上述の負債は一般にドイツが三百七十口全部の債券を發行してその結果得た金額(十五億四千六百萬弗)の三分の二に當つてゐること。

(67) イタリーを除いて、それらの國債は大部分ニューヨーク取引所で發行されてゐる。

(68) ワインクレル『外國に於ける弗』。

(69) 『ドイツ商業年鑑』。

(70) クチンスキー論文集『外國投資』中の『アメリカのドイツ貸付』(獨文)。

ドイツ國民經濟へアメリカが信用を與へることはドーズ案採用直後始つてゐる。なほまだドーズ案の批准過程中にも個々のドイツ工業團體はアメリカの資本市場に登場してゐる。一九二四年の七月と十月との間にライン・ウエストファールン石炭シンデケート、北ドイツ・ロイド及び化學工業



が合衆國で信用を受けてゐる。尤もこれらの信用は主として短期のものであつた。

ドーズ案採用後最初の二三ヶ月のうちには第一級の保證を得ることを知つてゐた最大の團體のみがニューヨークで借款を整へた(71)。次第に益々多くの會社がアメリカで信用を得始めてゐる。現在ではアメリカ資本が投下されてゐないやうな國民經濟部門は一つもない。しかもドイツ債務者の種々な團體の外債のうちで占めるアメリカの割合は信用組織が最高である。これらの年のうちにドイツが起債した外債總額のうち八二%はアメリカに割當てられてをり、工業團體に對する當該數字は六八%に等しい(72)。

(71) たとへばこの見地から『經濟ディーンスト』一九二五年三月二十日中の興味ある論文『アメリカのドイツ金融』を参照せよ。同所にはドイツ債券がアメリカで始めて公然と發行されたその表がある。その中にはクルップ、テッセン、シーメンズ、ハルスクといふやうな會社の債券も入り得る。

(72) クチンスキー、前掲書。

ドイツ國民經濟に對するアメリカ資本の種々な形態の金融及び信用授與以外にドイツに對する充分多額のアメリカ資本の直接輸出を確認することができる。諸々のアメリカ大會社はドイツにその支店をもつてゐる(73)。多くの會ではドイツ系企業が現在ではアメリカ人の掌中にある。

(73) たとへばダンが前掲書一四五頁に掲げてゐる表を参照。

他の中央ヨーロッパ諸國のうち多額のアメリカ資本を輸入してゐるのはオーストリアである。アメリカ人がオーストリア經濟にもつてゐる充分深い利害關係を示すものとして役立つのはオーストリア金融機關とアメリカ銀行家との關係である。オーストリアの三大銀行(一般オーストリア土地信用銀行、マーカー銀行、オーストリア商工業信用銀行)はアメリカ資本の強力な影響下にある(74)。

(74) エドワーズ、前掲書。

アメリカの對ヨーロッパ諸國資本輸出といふ見地から見て、イギリスはやゝ孤立してゐる。何よりも先づ吾々が他のどの土地にでも見ることでできる同じアメリカ資本侵入過程はこゝにも存在してゐる。この過程はイギリス會社に對する金融及び信用授與の形でも行はれてゐるし、また直接アメリカ會社を組織するといふ形でも行はれてゐる。

三十以上のイギリス大會社の株券が一九二七年と一九二八年とにアメリカの兩取引所(株式取引所及びカーポート市場)で發行された(75)。イギリス會社の株券はニューヨークで活動してゐた外國資本總額の三分の一に當つてゐる。近年はまた諸々の舊イギリス會社がアメリカ人の掌中に移りつゝあることが看取される。この點について大きい積極性を現してゐるのは動力生産に従事するアメ



リカ會社である。アメリカの大コンツェルンである動力、燈光利用コーポレーション(Tillits Power and Light Corporation)がイギリス會社であるロンドン及び郊外トラスト會社(London and Counties Trust Ltd.)の株券の統制権を得たことについて殆んど全ヨーロッパ新聞が報道を回避したことは決して新しいことではない(76)。後者自身はロンドンとその郊外及び約九百のイギリス及びスコットランドの諸都市に動力と光を供給するところの諸々の電氣會社の持株會社である。

(75) 『エコノミスト』一九二九年三月二日『イギリス擔保上のアメリカの利益』。

(76) 『商工業新聞』一九二九年四月七日、また『エコノミスト』一九二九年六月八日『イギリスの擔保をアメリカが買ふ』。

アメリカ人がイギリス會社を乗取るといふ見地から見ても興味あることはイギリスのジェネラル・エレクトリックとそのアメリカの株主との間の周知の闘争である。ジェネラル・エレクトリックの社長は、大多數の株券をイギリス人の掌中に收めやうとして、イギリス臣民のみが所有し得るやうな新株の發行を決定した。この方策はアメリカ人側の斷乎たる反對に出つくわした、アメリカ人は自己の利益を擁護するための委員會を組織した。闘争は數ヶ月續いたがアメリカ人の勝利でけりがついた(77)。

(77) 『工業雜誌』一九二九年三月十三日。また一九二九年六月十五日の『エコノミスト』。前に引用した論文

の續き、會社の表、金融統制の可能性に對して採用された方策を参照。

イギリスに於けるアメリカ投資の興味ある形態は金融會社即ち英米金融會社(Finance Company of Great Britain and America)の設立である。この會社創立にはモンド及びニウヨーク・チェーズ・ナショナル銀行(Chase National Bank of New York)によつて指導されてゐる化學工業コンツェルンが參加した。この會社の任務はイギリス工業に金融を與へんがためにアメリカ資本を吸收することである(78)。

(78) 『エコノミスト』一九二八年四月二十一日『英米金融會社』。

このアメリカ資本のイギリス國民經濟侵入過程は他のヨーロッパ諸國に起つてゐる類似過程と少しも區別する所がないのであるが、吾々はこれと並んでイギリスの世界資本市場に於ける地位と關聯して甚だ特色ある現象を目撃するのである。アメリカ人は株を買占めるといふ方法でイギリス人によつて他の諸國に設立された會社から彼等を驅逐してゐる。外國で活躍してゐる諸々の古いイギリス大會社はこれらの年のうちにアメリカ人の掌中に移つた。殊にアメリカ人の利害關係が深いのはその主たる活動領域が南アメリカであるところの會社だ。たとへば南アメリカで活動してゐるリバー・プレート・テレホン會社(The River Plate Telephone)がアメリカの國際電話電信會社



(International Telephone and Telegraph Company)の掌中に移つたことはこの點を示してゐる。成程これと並んで反對の現象も確認できる。「エコノミスト」紙はアメリカの國際ニッケル會社がイギリス人及びカナダ人に奪れたことを報道してゐる(79)。最近はまだアメリカ人が南アメリカにも目を付け出した。

(79) 『エコノミスト』一九二九年三月二日。

しかしイギリス人は最近まで殆んど専らロンドン市場に救済を求めてゐたやうな自治領でアメリカ人の積極性が益々増加してゐるを見て大いに憂慮してゐる。一九二六年にオーストラリアは七千五百萬弗の借款をアメリカで整へた。これは同年ニューヨーク取引所で整へられた最大の借款の一つであつた。同年にオーストラリアの一州(新南ウェールズ)がアメリカで五千萬弗の借款を整へた(80)。大英帝國の金融的經濟的統一性を脅威するこれらすべての事實——これらの領土に對するイギリスの資本輸出が帝國の統一のためにどんな役割を演じてゐるかは忘れてはならない(81)——がイギリス經濟雜誌の非常ににがり切つた結論を生み出してゐるのも不思議ではない。たとへば『エコノミスト』もこれらの借款にはづつとしてをられず次のやうに書いてゐる。『最近開明困難となりつゝある事實は寧ろ次の點に歸するのである、即ち若し諸自治領が吾々に無理にも信じ込ませや

うとする程それ程金融上獨立してゐるならば、彼等の第二義的な必要を充すためには「植民地公債法」によつてロンドン貨幣市場が彼等に與へてゐるところの特權の全部を無視してまでもアメリカに向はなければならぬことは敢て奇とするに足らないのである(82)。

(80) 『商業及び金融クロニクル』一九二七年五月七日二、六八六頁。

(81) 論文集『世界經濟の成長』中のパリーの論文『國際資本移動とその經濟的意義』。彼はこの點について次のやうに書いてゐる、『多くの自治領、何よりも先づカナダ、南アメリカ及びオーストラリアは専ら或は主として利子が安いといふので「イギリス」帝國と經濟的に關係してゐるのである、彼等はこれによつてその貨幣的要求をステイで充すことができる。』一〇九頁。

(82) 『エコノミスト』一九二七年六月二十五日。

ローマ系國家は、吾々が先に確認したやうに、つい最近まで比較的小額のアメリカ資本を吸収してゐたが、これらの國家のうち重要な役割を演じてゐるのはイタリアである。何よりも先づアメリカで發行された幾多の國債及び地方債を擧げなければならぬ。そのうちには一億弗のイタリア國債がある。アメリカ資本家は水力電氣工業で大いにその積極性を發揮してゐる。諸々の大水力發電所がアメリカ信用の助けを求めた。しかもこれらの信用のうちの若干のものは二千萬弗に達してゐる。アメリカ人は多額の資本をイタリアの汽船業、化學工業、自動車工場に投下した。ヒアト會社はモルガンの銀行家統制を通じて一千萬弗の借款を勝ち得た。最後にアメリカ人は同國の大銀行機關と



關係を確立した(83)。

(83) 『ル・アヴ・ニーン』(L. Avenir) 一九二九年一月二十九日。

アメリカの對ヨーロッパ資本輸出上大きい役割を演じてゐるのは彼等によつて特に創設された金融コンツェルンである。後者はドーズ案採用直後發生してゐる。最初このコンツェルンはアメリカ及びイギリス資本の利益の結合で、その任務はヨーロッパ大陸の商工業會社に金融を與へることである。その外この金融組織は公債をアメリカで發行するといふ任務も持つてゐる。

このコンツェルンの十年間の成果として一九二六年にベンガル信用銀行を國際化するためにシンヂケートが設立された。このシンヂケートにはアメリカ及びヨーロッパの大銀行が参加した。

英米資本の大同團結の一つはいはゆるABCトラスト或は米・英・大陸コーポレーション(American, British and Continental Corporation)である、これは一九二六年の春設立され、ヨーロッパ大陸の利益も亦關係してゐた。

一九二六年からアメリカ人はイギリス人の仲介から解放され始めてゐる。彼等は各國の資本家と直接關係を結び、このトラストと共にこれと類似の金融組織——その任務は當該國との衝に當る——の設立に移つてゐる。この點についてアメリカ人が最大の積極性を發揮してゐるところはドイツ

であつて、そこではこれらの金融機關が最も多數設立された。

左に掲げる表はこれらの組織の數、各國銀行のこれへの参加とその活動資本とを示してゐる(84)。

組織の種類	組織の數	株式資本			總數		
		(單位百萬弗)	アメリカ	ドイツ		イギリス	
アメリカ	ヨーロッパ	一七四・四五	一六	一一	九	一六	五三
アメリカ	ドイツ	一五二・〇〇	一一	一〇	一	一	三三
アメリカ	地方	三四七・八〇	三	一	一	四	八

(84) 『經濟ディーンスト』一九二七年十一月十一日、論文『國際金融設立』。これからこの金融團體に關する報告を借用してゐる。

吾々はアメリカの資本投下の重要な領域ヨーロッパとアメリカ大陸とを考察した。その他の諸國のうち支那と日本が興味がある。アメリカ資本の輸出先としてよりは寧ろ合衆國の將來の投資上彼等の演ずるだらう役割が興味を惹くのである。

支那ではアメリカ投資は、外國貿易の關係範圍が著しく増加してゐるにも拘らず、戦前の規模に比べて激増しなかつた。アメリカの對支輸出は一九一四年六月に終る年度には二千五百萬弗に等しかつた。一九二四年の當該數は一億二千四百五十萬弗であつた(85)。



(85) ダン、前掲書。

一聯のアメリカ會社は支那にその支店や支局を持つてゐる、けれどもアメリカ人が最大の積極性を發揮してゐるのは海運業の領域である。戦後合衆國の指導と創意の下に形成された新しいシンヂケートは一九二四年迄は何の活動も示さなかつた(86)。

(86) 洵渾半『合衆國の支那貿易』三一三頁。

一九二九年に新聞は支那領土に於ける合衆國の金融的發展の強化とその南京政府との關係について報道した。一九二九年の初に南京政府は金融顧問としてアメリカカメラを招聘した。

前に吾々が引用した著書の日本人の著者は一九二二年に於けるアメリカの日本投資額を二億六千八百萬弗と評價した(87)。しかも彼は日本で活動してゐるアメリカ會社の資本を一億弗と推算した戦前と同様に今日もアメリカ人は日本の電氣會社と瓦斯會社に多額の資本を投下してゐる。

(87) 大館讓治、前掲書一〇三頁。

#### 四 投資形態によるアメリカ資本の分布

投資形態によるアメリカ資本の分布について吾々の報告はかなり不充分である、しかしそれにも拘らずこの點からアメリカの「資本」輸出を特徴付けてゐるところの若干の傾向を確認する可能性

を與へてゐる。

商務省の統計によると(88)、一九二四年の末個々の投資形態(公債及び工業債券)によるアメリカ資本は次の通り分布してゐた。

一九二四年末に於けるアメリカ對外投資 (單位百萬弗)	
國	公債 外國證券及び直接投資
カナダ及びニウ・ハランド	1,060
ラテン・アメリカ	3,100
ヨーロッパ	400
アジア及び海洋諸國	350
合計	5,350

(88) 『世界經濟雜誌』中の前掲コーリングスの論文。

アメリカ人は自大陸では大部分の資本を工業に投下してゐる、しかるにヨーロッパでは公債の投資が著大な役割を演じてゐる。一九二四年にヨーロッパに於けるアメリカ資本はその壓倒的部分が貸付資本として存在してゐた。

#### 三 アメリカ合衆國の資本輸出



商務省がその一九二五年の『國際支拂差額』中に掲げてゐる數字、そして四年間（一九二二—一九二五年を含む）の外國證券發行運動を示してゐる數字は、異つた様相を與へてゐる。それは工業投資の役割を過小に評價してゐる。このことは恐らく次のことによつて説明されるだらう、即ち第一にその數字は直接投資を過小評價してをり、その上公債の範疇中には當該政府によつて保證された工業證券をも包含させてゐる（89）。

（89）『キアン』による一九二五年のアメリカ國際支拂差額』商務省出版。

エドワーズの言を信ずるとすると（90）、この工業投資の壓倒的部分はアメリカ工業會社の直接投資なのである、彼は外國會社の證券を買ふ工業投資の運命はあまり思はしくないだらうと考へてゐる。彼の統計は一九二五年の半で終つてゐることも言つておかなければならない。また彼の直接投資の比重の評價は少し前に指摘したところの工業投資の増加に對する商務省の過小評價を吾々に益々はつきりさしてくれる。

（90）エドワーズ、前掲書二一四及び二一六頁。

この直接投資は普通若干の局面を通過してゐる。最初アメリカの會社は外國に販賣支店を設置する、その上外國に完成品組立所を設ける。最後の段階は同所で後者の個々の部分を生産すること、

最後に、生産を全體として外國に移すことである（91）。これらの局面が最後まで行はれることはあまりない。

（91）『社會經濟的勞働者概観』一九二八年九月。論文『合衆國資本輸出の矛盾』。

現在アメリカの大トラストの殆んど全部が外國にその支店をもつてゐる。この點について最大の積極性を發揮してゐるのは石油獨占である。ニューヨーク・スタンダード石油會社一個でその諸外國會社に約三億七千五百萬弗投資した。合衆國石油トラストはメキシコ採掘石油の七〇%、ヴェネゼエラの四〇%、ペルーの八一%、コロンビアの殆んど全生産を統制してゐる。同トラストはトリニダット、モッスル、ルーマニア、ベルシャ及び蘭領印度といふやうな國の採掘石油に多くの持分をもつてゐる。

最近自動車トラストの世界的擴大が強化された。このことははつきりと觀測されて來たところの國內市場の狹隘化の見透しと密接に結び付いてゐる。フォードは世界いたるところにその會社を設立してゐる。フォードは日に二百二十五臺製造する工場をヨークハムに設立し、インドに、シンガポールに（92）、ヨーロッパ（イギリス、ドイツ）及びアメリカ諸國に設立してゐる。カナダには形式上獨立の、種々なる自治領にその支店をもつフォード會社がある。このことは帝國內關稅保護を



利用する可能性がアメリカの對カナダ資本輸出上どんな役割を演じてゐるかをあますところなくはつきり示してゐる(93)。フォードの商賣敵ヂェネラル・モーターズ會社も最も種々な國及び大陸にその支店を持つてゐて、少なからぬ積極性を發揮してゐる。

(92) 『商工業雜誌』及び前に引用した『社會經濟的勞働者概観』中のブクシュバンの論文『アメリカ自動車工業の世界的發展』。

(93) 同書参照。

金屬トラスト、鋼鐵トラスト、國際ハーヴェスター・コーポレーション等はその支店、支局の網で全世界を取り巻いてしまつた(94)。しかもこれらの支店支局は合衆國で加工した未完成品を精製する會社であるか、または完成品を生産する會社かである。後者の型の會社を設立する場合にその決定的動機となるのは普通關稅制度が有利なこと、交通費及び賃銀支拂が節約されることである。

(94) 後進國に於けるこれらの會社は非常に屢々土着人口の廣汎な層をその農奴または奴隷に化してゐる。たとへばこれについてダンは彼の或る論文中で次のやうに書いてゐる。『外國に於けるアメリカの鑛山投資家或は護謨會社はできるだけ安い價格で勞働力を得やうと當然の努力を拂つてゐる。その結果たとへばリベリイでは火石栽培園會社(The Firestone Plantation Company)が現在植民地奴隷制度なるものを作り出してゐる。これは土着民にとつて最も露骨なヨーロッパ帝國主義國家の植民地支配すらよりもつと著しく慘酷なことを示してゐる。キューバでも、ドミニカン共和國でもアメリカの經濟的侵略の結果數千の農民は土地からおつばらはれた。彼等は大砂糖會社及びその所有者(普通そこに住んでゐない)の近代的農奴Deons

と化した。『アメリカ政治科學アカデミー年報』一九二八年七月、ダン『外國投資と帝國主義』。

この直接投資はアメリカの對外投資の毎年の運動上充分大きな役割を演じてゐる。残念ながら吾々は全年度に亘つて統計をもつてゐないが、しかし手許にある統計はありました次の様相を與へてゐる。一九二六年に直接投資は二億四千萬弗の金額に達し、一九二七年には二億五千七百萬弗であつた。それが全アメリカ投資の場合には、同一統計によると、當該年度にそれぞれ十一億三千五百萬及び十三億七千六百萬弗に等しかつたが、手数料及びその他の項目を差引くと、十億二百萬弗及び十二億三千萬弗に等しかつた(95)。従つてこの種の投資はこれらの年に於ける輸出資本總額の約五分の一から六分の一を占めてゐたのである。成程吾々が先に掲げた數字はこの種の輸出をやゝ過小評價したり、過大評價したりしてゐる。またこの數字の中には個人的所有者によつて買占められ、アメリカ取引所に登記されなかつた外國證券もふくまれてゐる、従つて輸出貸付資本の一部も含まれてゐる。だが他面に於て數種の工業資本輸出が他の支拂差額の項目として通つてゐる。

(95) 『一九一三年乃至一九二七年の國際商業と支拂差額の覺書』國際聯盟チエネーヴ一九二八年。

近年、一九一六年以來(96)種々な種類のアメリカ資本輸出の分配に諸々の變化が生じた。何よりも先づ工業證券に對する投資の意義が増大した。一九二八年の公債に對する投資は六億六千九百萬



弗私債に對するものは十三億五千四百萬弗に等しかつた。尤も工業證券に對する投資もまたその著しい部分が貸付資本の輸出であり、この見地から見ても、あらゆる種類の公債に對する投資と大して變らないことは忘れてはならない。第二に、ウインクレルが掲げてゐる表を一寸見たゞけでもアメリカ取引所で發行されたヨーロッパの債券のうちで工業證券が途方もなく優越してゐることが目に入る。しかもヨーロッパがこの點では他のあらゆる大陸を凌駕してゐた。一九二八年にアメリカで發行されたヨーロッパの公債或はウインクレルが言ふ政治的證券は二億七千八百萬弗に、『商業的』證券は八億四百萬弗に等しかつた。これと同じ傾向は特にヨーロッパに位する部分についてあらゆる觀察者が確認してゐる。たとへば一九二四年乃至一九二六年の三年間に於けるドイツ國民經濟の金融は次のやうに進化した。

合衆國に於けるドイツ證券發行

年或は半年	商業的證券	公債	合計
一九二四	10,000,000	110,000,000	120,000,000
一九二五前半	35,500,000	18,000,000	53,500,000
一九二五後半	89,700,000	86,150,000	175,850,000

一九二六前半	88,433,200	521,300,000	1,209,733,200
一九二六後半	110,031,000	50,700,000	1,607,341,100
合計	333,134,200	317,150,000	650,284,200

(96) 『商業報告』一九二八年十月一日、『外國會社擔保に對するアメリカの投資』。

アメリカ資本の個々の工業投資種類間の分配については或る號の『商業報告』の論文が若干の觀念を與へてゐる。この論文は三十五種の工業投資のうち九種の投資がアメリカ資本總額の八八%を占めてゐたことを示してゐる。それはあらゆる種類の社會的利用企業、鐵道、銀行、砂糖會社、鑛山及び石油會社、鐵採掘業、汽船業及び化學工業であつた。吾々はその重要性の度合に従つて排列してゐる。

最後に、アメリカの對外投資の進化を特徴付ける第三のモーメントとして、外國企業株券の買入増加をあげる必要がある。一九二七年の第一四半期には全商業的發券の三分の二が株券の買入れであつた(97)。アメリカ資本輸出に於けるこの最後の傾向がどれだけ激烈であるか今のところ判定困難である。

(97) ボール・デッケンズ『公然とニューヨークで申込まれた外國資本發行』『商業報告』一九二九年四月二十九日



以上で吾々は個々の投資形態間のアメリカ資本の分配についてどんな変化が生じつゝあるかを示す充分明瞭な畫面を得たわけである。公債投資の重要性は減少し、あらゆる種類の『商業的』證券の比重が増加してゐる、だが後者のうちでも種々な外國工業、商業及び銀行業の株券に對するアメリカ人の利益は強化されてゐることを觀測することができる。

まだ一九二七年頃には『スタテイスツ』紙は、アメリカとイギリスとの資本輸出の特徴を比較しながら、アメリカ投資の型が當該國の國民經濟としつくり融合せず、關係が薄いことについて書くことができた、近年認められて來た傾向はこの見地から見て著しい變化を示してゐる。それはアメリカの資本輸出にアメリカ人が一層深く侵入してゐることを立證してゐる。

五 その支拂差額から見た戦後のアメリカ資本輸出(98)

アメリカの資本輸出を研究する場合に生じて來る中心的問題の一つはアメリカとその長期投資の數字中に含まれてゐるところのその他の諸國との間の現實の信用關係を窮明することである。この問題は合衆國とヨーロッパとの相互負債の差額を確認することゝ大體一致する。それらの間の關係の型が合衆國と他の大陸との關係と違つてゐる限りさうである。この問題を決定するためにはアメ

リカと外部世界との多種多様な經濟關係の總和の様相を與へるところの合衆國の支拂差額を分析する必要がある。

(98) この論文を書き終つた後既に吾々は一九二八年の商務省の支拂差額を手にした。後者の數字は吾々がここに掲げてゐる數字とやゝ異つてゐる。しかしその場合吾々が確認する傾向には少しの變化も認めないのであるから、本論文にある數字はそのままにしておいてもよいと思ふ。

戦後の時期に於けるアメリカ資本輸出の増加を特徴付ける數字は様相の一部を吾々にうかゞはせるに過ぎない。國際資本運動は種々な方向に向つて行く諸過程によつて複雑となり、資本輸出は種々な輸入項目と對立してゐる。たゞ支拂差額の種々な項目を比較して得るその總決算のみが或る程度まで合衆國に對する外國の負債増加を示すのである。

何よりも先づ、アメリカ證券に對する外國人の長期投資の上になんか變化が生じたかを考察しやう。この投資は多額に達してをり、不斷の増加を示してゐる。商務省の統計によるとこの運動は次のやうである(99)。

(單位百萬弗)

年	一九二一年	一九二二年
三	アメリカ合衆國の資本輸出	三三三



一九二三	四三	一九二五	四二
一九二四	三九	一九二六	三九
(99) 『差額云々』、一九二六年商務省。			

もつと最近(一九二七年)の差額報告によると、外國人の對アメリカ新投資は一九二六年に六億六千八百萬弗、一九二七年には九億一千九百萬弗に等しかつた(100)。後の金額は十六億四千八百萬弗といふアメリカの對外投資(同じ商務省の統計による)に對立する。一九二六年には在米外國資本は三十億弗の額に達してゐた(101)。

(100) 『差額云々』、一九二七年。  
 (101) 『差額云々』、一九二六年一五頁。

この外國資本、第一にヨーロッパ資本の對立運動は大體戰前の舊關係の復活である。イギリスやオランダの金利生活者は新にアメリカ證券に投資し始めてゐる。しかしそれと共にかういふ外國投資の加速的増加は若干の一時的原因によつても條件付けられてゐる。多額のヨーロッパ資本が取引所投機の大繁榮と關係して最近アメリカに輸入され、多大の利潤をもたらした。最後に次のやうな事情が或る役目を果してゐる。外國人がアメリカの貨幣市場でその債券を發行した結果得る金額

の一部、しかも實現され得ない金額の一部をアメリカ證券に投資する。本質的にはこの投資は、外部形式から見ると長期であるが、それにも拘らず長期投資ではない。

外國人は純粹なアメリカ證券を買ふと同時に合衆國で發行された外國證券にも投資する。この外國資本の運動を特徴付ける數字は手許にない。しかしこの場合吾々は銀行業フラウン兄弟會社に屬する充分有力な社員スペアー(Charles F. Spear)の證言を用ひることができる。たとへば彼はこの點について次のやうに言つてゐる。『ヨーロッパは外國公債券ニウヨーク市場(foreign government market)で現在アメリカの競争者である。ニウヨークに於けるその買付は今のところ視野に入る發行の總額に等しい。本年來ニウヨークでなされた外國筋の注文はイギリス、オランダ、スイス、ドイツ及びスカンデナビア諸國から發行の著しい部分を買ふといふ電報命令の性質を帯びてゐた。そして最近爲替相場九四ポイントで發行されたベルギー安定化七分利付債券が二日のうちに三ポイント方も騰貴した時、ロンドンでは債券に對するその割當を著しく超過してゐるところの豫約を充たさうとしてやゝ高い價格を申し出た』(102)。

(102) ハリナン『アメリカの對ヨーロッパ投資』四七頁。この書の卷末に附録としてモルガン銀行の株主レフィングウェル(Lefingwell)の面白い談話が完載されてゐる。彼は次のやうな前提を公言してゐる、即ち戦後のヨーロッパの投資總額プラス戦前の投資の殘額はアメリカの戦後の對ヨーロッパ資本輸出に等しいと。

三 アメリカ合衆國の資本輸出



またエドワーズの前掲論文六九頁を参照。彼の言葉によると、一九二三年に初めてヨーロッパ人はアメリカの取引所で上場されてゐる証券を買つた。その額二億五千萬弗。これらの証券の大部分はヨーロッパ系のものであつた。また論文集『社會政策協會の態度』百七十五巻中の國際資本交通の問題を参照。著者はアメリカで發行されたドイツ証券の僅かな部分がその上フランス人に買ひ取られたと考へてゐる。

またアメリカの資本輸出を研究する場合に減價した本位貨からの逃避が持つ意義を忘れてはならない。しかしこの場合にも亦資本輸出の概念中に含まれない甚だ有利な他の關係が生じて來た。頗る多額のアメリカ本位貨〔弗〕がヨーロッパ人によつて買付けられた。これはやゝ誇張して言へばアメリカ證券に對するヨーロッパ人の無利子投資と見ることが出来る。

アメリカの外國資本輸入は上記の諸項目ばかりとは限つてゐない。それはまた負債支拂の形態を取つても行はれるし、アメリカ人の手にある自國證券の期間前買戻しの形態を取つても行はれる。吾々は近年これらの項目が増加してゐるのを見てゐる。殘念ながら吾々の手許にはたゞ一九二六年及び一九二七年についての期間前買戻しを示す數字しかない。左に掲げる表は外國人が毎年アメリカに償還する負債額を示してゐる。

外國人の負債償還 (單位百萬弗)

一九二一年.....三五五 一九二二年.....七八

一九二三年.....三三 一九二五年.....一四〇  
一九二四年.....四五 一九二六年.....四七〇

この統計は一九二六年の支拂差額から借用したものである。一九二七年の差額はやゝ異つた數字を示してゐる。それは右に掲げた數字とは完全に比較されないから、吾々はそれを個々に示さう。一九二六年の支拂差額は三億二千二百萬弗、一九二七年のは三億四百萬弗に等しかつた。一九二七年に對して一九二六年の數字は殘額においてやゝ少いが、それはこの場合吾々はアメリカ人の掌中にある有價證券の期限前買戻しについて個々の報告をもつてゐるからであると言ひ得る。一九二六年には外國人が自國證券を買戻した金額が三億三千七百萬弗、一九二七年には四億六千三百萬弗であつた。純粹な資本輸出を示す數字を得るためには吾々は全輸入項目を輸出項目と比較しなければならぬ。この目的のために商務省の統計を利用しやう。

年	全輸出額	全輸入額	輸出(一)または輸入(十)超過
一九二一年.....	一,〇九二	三〇三	(一)七八九
一九二二年.....	九六三	三三五	(一)六六八
一九二三年.....	四二七	五三六	(十)一〇九
三 アメリカ合衆國の資本輸出			
三五			



一九二四	九〇九	三六七	(一)五三三
一九二五	一,〇一〇	五七八	(一)四三三
一九二六	一,一三七	八三三	(一)五三三
一九二六年と一九二七年のためには別に一九二七年の差額を利用する。			
年	輸出	輸入	輸出または輸入超過
一九二六	一,九三一	一,三三七	(一)六〇四
一九二七	二,一三七	一,六六六	(一)六七一

見る通り、資本運動を示す多種多様なあらゆる項目の總決算はその總數からはつきりと區別された純輸出額を示してゐる。商務省の統計によると總數が一九二六年には十一億三千五百萬弗、一九二七年には十三億七千六百萬弗に當り、ウインケレルの統計によるとそれぞれ十八億九千二百萬弗及び二十億七千二百萬弗に當つてゐたことを想起せよ。あらゆるアメリカの百萬長者を考へ慣れてゐる普通のヨーロッパ人の目にはこの頗るつゞまじやかな數字は理解するに充分困難であつて、従つて最初の反動が生じたのである。若し戦後最初の年度のうちは公衆の間にアメリカ資本輸出額に關して過大評價が支配してゐたとすれば、最近には正反對な性質の見解で買かれた論説がヨーロッパ

及びアメリカの諸新聞に現れつゝある(103)。

(103) たとへばこの見地から『歴史の潮流』一九二八年十一月中のニッテイの特色ある論文『アメリカの對ヨーロッパ貸付の危険』を参照。

一九二七年十一月十日號の『エコノミスト』中の『イギリスとアメリカの貿易差額と外國投資』は一九二〇年乃至一九二六年のイギリスの純資本輸出が當該年度のアメリカの輸出よりも多かつたことを示してゐる。

アメリカの資本輸出を補ふ種々な輸入項目と並んで、資本輸出のもう一つの源泉はまたアメリカ人がその以前の投資に對して受取るところの利子である。この項目は年々ひつきりなしに増加を示してゐる。

アメリカ人が外國人から受取る利子(單位百萬弗)	
一九二一年	八〇
一九二二年	一三二
一九二三年	四七
一九二四年	四六四
一九二五年	五二五
一九二六年	六八八

この數字は連帶債務に對する利子も含んでゐる。一九二七年の差額はその以前の投資に對してアメリカ人が受取るこの二種の収入を別々に示してゐる。それは次の通りである。

三 アメリカ合衆國の資本輸出



(單位百萬弗)

	一九二六年	一九二七年
私債に對する利子と手数料……………	四六七	五二四
戰債に對する利子……………	一六〇	一六〇
合計……………	六三七	六八四

外國人から利子として受取る金額、そして資本の純輸出額を増加し始めてゐる金額のかういふ増大は現代アメリカ資本主義の進化に於ける寄生的性質を充分はつきり説明してゐる。パリー(104)は合衆國の支拂差額の問題を専門的に研究してゐるが、彼はその諸々の論文でこのモーメントに論及してゐる。そして不得要領な答をしてゐるが、それにも拘らず全體としてアメリカが金利生活者國家へ轉化しつつある傾向のあることは確認してゐる。

(104) 『オーストリア國民經濟』一九二八年六月三十日中のクロットコフ博士の論文『アメリカ資本輸出の源泉』参照。後者は合衆國の海外收入がその純資本輸出を超えて増加してゐることに基礎を置いて次のことを立證してゐる、即ち純資本輸出を合衆國の國內蓄積から作り出すためにはその貿易差額の受取超過分を八億弗だけ増加しなければならぬ、受取超過が一億弗減少する場合或は輸出超過が全く盡きる場合にはアメリカは資本を輸入しなければならぬ。  
『經濟の雜誌』一九二八年十月二十三日中にあるパリー『合衆國は金利生活者國家への途上にあるか?』及

び前に引用した『外國信用』中の彼の論文参照。

だが一般に利子として受取る金額の増加は全く當然だと言はなければならない。しかもこの項目の意義は資本輸出の増加と共に増大するだらう。吾々はこれと同じ現象を資本を輸出する他の富裕な國の進化に見る。ホブソンはその資本輸出に關する著書中で、イギリスでは七十年代の末葉以來外國から得る收入が新外國投資額を著しく高めてゐることを示してゐる(105)。

(105) ホブソン『資本輸出』一七六、一七七頁。

支拂差額の全項目を分析すると吾々はもつと寄生的性質を得るのである。吾々の目的のためには流動的支拂の總計を資本運動の總計に比較すれば充分だらう。改めて商務省の年報の助けを借りやう。以前の場合と同様に二つの表を掲げる——一つは一九二一年から一九二六年までのものであり、他は一九二六年と一九二七年のものである。

	一九二一年	一九二二年	一九二三年	一九二四年	一九二五年	一九二六年
流動的支拂の貸(+)借(-)超過額……………	(一)六一	(一)三〇	(一)三八	(一)三〇	(一)四九	(一)一三
資本運動の貸(+)借(-)超過額……………	(一)七九	(一)六六	(一)一〇九	(一)五三	(一)四三	(一)五三
各年に行はれた全部の貸(+)借(-)超過額……………	(一)三六	(一)五八	(一)二九	(一)三二	(一)三	(一)五九
三 アメリカ合衆國の資本輸出						三三



流動的支拂の貸方超過額……………	一九二六年	一九二七年
資本運動の借方超過額……………	(十) 五	(十) 六五
全支拂差額尻……………	(一) 六〇四	(一) 六七一
	(一) 五五五	(一) 六

全流動的項目の受取超過は資本輸出から生ずる支拂超過を償ふに足りない。數年間のマイナス符號をもつた不利な残額を得るのだ、これは商務省の視野に入らないところの現象を示してゐる。勿論この残額の或る部分は計算上のあらゆる錯誤と關係してゐる、しかしそれが何時も存在するといふことはこれを専ら錯誤や過大評價で以つて説明することの可能性を排除するものだ。

支拂差額の決済は資本輸入の土臺の上で行はれるといふことは明かなことだ。このことは合衆國の短期負債の増加が示してゐる。これらの年のうちにアメリカ銀行の外國人預金が殖えてゐる。このことは合衆國貨幣市場のあらゆる觀察者によつて確認されてゐる。成程この支拂差額の支拂超過額の未決済はまた一九一九年と一九二〇年にも特徴的であつた受取超過の未決済と關係してゐるかも知れない。パリはこの受取超過を商務省の統計に基いて二十億弗以上の金額と評價してゐる。若し彼の説明を採用すると、一九二一年後の合衆國の支拂差額の構成がはつきりして來る。彼の言

葉によると(106)、これらの年の間に合衆國に對する殘餘の世界の巨大な固定的短期負債は清算を行つてゐる。これに對して吾々は戦後最初の時期について述べたとき注意してをいた。

(106) 『外國信用』中の前掲論文二六〇頁。

合衆國の短期負債の増加は諸々の原因と關係してをり、その原因の一部は外國人の對アメリカ長期投資を惹き起すと同様な一時的事情によつて條件付けられてゐる。これに屬してゐるのは何よりも先づ本位貨の不安定な國の資本逃避である。たとへばフランス一國だけでフラン低落の時代に約五十億フラン(フランスの報告によると約百億フラン)の資本額が輸出された。これらの資本は次第に本國へ環流するのである。その外、外國人は自國證券をアメリカ取引所で發行した結果受取るところの貨幣の一部をそれが實現されるまでアメリカの銀行に預けておく。最後に、この預金額中大きい役割を演ずるのはこれらの國の發券銀行の準備金(これは規制を受ける本位貨の中に流れ込むだらう)である。しかしこれらの一時的原因は國際貨幣市場の再建と共に消え去ることであつて、合衆國の短期負債の増加を完全に説明することはできない。

資本市場としてのアメリカの比重が増加するに従つて、そこから不可避的に外國の自由な貨幣手段(遊資)が生じて來るだらう。それは長期や短期の預金を求めるだらう。これはロンドンについ

三 アメリカ合衆國の資本輸出



でも特徴的なことである。しかもかういふ短期負債の増加は當該國の力の表示として役立つことができる。ハルムズはこれに刺戟されてロンドンについて次のやうに書いてゐる。『ロンドンに國際資本が生じてゐる結果、イギリスの金融力は事實上その資本に相當する力より以上に著しく強力である。またそのためにさうでない場合にはあきらめなければならぬだらうやうな種々の収入がイギリスに生じてゐる』(107)。

(107) ハルムズ『國民經濟と世界經濟』〔獨文〕二二三頁。

吾々の見解によると、同志ヴァルガは彼の或る演説中でこの資本の二面的活動に正しい説明を與へてゐる。彼は言つてゐる、『合衆國はイギリスと共に世界の銀行家となりつゝある。世界の銀行家であり得るためには、たゞその得意先から貨幣を得ればそれでよい。その貨幣は最も多様な形態を取ることが出来る。またヒルファディングが彼の「金融資本」中で銀行資本と産業資本との結合について書いたその過程は或る意味では合衆國と殘餘の世界との間に國際的に生じてゐる。北アメリカ合衆國は貸付資本を得て、それを金融資本とし、産業資本として南アメリカに、カナダに、等々といふ工合に地球の種々な領域に投下してゐる。アメリカの純資本輸出は一九二七年の勘定尻によると七億弗以上ではない(それはイギリスの資本輸出よりもあまり多くない)。しかし合衆國の資本

輸出の經濟的意義ははるかに大きい。といふのは本來の輸出額七億弗以外に合衆國は彼が預つてゐる外國の短期資本から更に何億弗も輸出するからである。』

(108) 『コムニステキエスキ・インタナショナル』一九二九年十八號三四頁。同志ヴァルガの經濟情勢に關する演説。またホブソンの資本輸出中の交差投資の原因に關する同氏の演説參照一九九頁。

吾々が見た通り、支拂差額の點から見ると、アメリカの資本輸出額について廣汎な民衆を支配してゐるところの端初的觀念のその修正は強調しなければならない。しかしそれと共に反對の極を見落してはならない。最近ヨーロッパ及びアメリカの諸新聞に現れた諸々の論説は正にこの缺陷に惱まされてゐるのだ。吾々は既にこの點を示してゐるニツテイの論文に言及した。

支拂差額の分析はこの普遍的觀念の不正を確認するばかりでなく——同時にそれは支拂差額によつて現されてゐる經濟過程の無限の複雑さを示してゐる。國際資本運動に於ける合衆國の比重及びこれについてのその發展可能性を評價するためには支拂差額の領域に入りこまなければならぬ。支拂差額の數字欄はたゞ合衆國々民經濟上に發達しつゝあるヨリ奥深い諸關係を反映してゐるに過ぎない。しかしこれを論ずることは本論文の課題に入つてゐない。吾々はたゞ合衆國の國民收入、財産、年々の蓄積の土臺の上でその資本輸出について若干の報告を掲げることが必要と考へ



る。

アメリカの年々の對外投資は現在ではその年々の蓄積の一〇%に當り、イギリスは——戦前まで約五〇%に當り、フランス——三五——四〇%、ドイツ——約五%である。これを國民收入と比較すると次の關係を得る。戦前までイギリスの年投資は國民收入の八%に當り、フランスは——五%、ドイツは——一%、アメリカは現在——一・二%である。在外アメリカ資本の總額は、同著者の統計によると、一九二七年には合衆國の全國民財産の三・一%に當つてゐた。戦前の當該數はイギリス——二八・五%、フランス——一五・三%、ドイツ——六・二——七・四%である(109)。

(109) ハイス『吾々の收入、貯蓄及び富に對する對外債權の關係』『アナリスト』一九二八年二月三十日参照。

この數字はなほ合衆國が如何に巨大な「資本輸出」可能性を持つてゐるかを示してゐる。然り、資本輸出の發展上決定的意義をもつのは結局國內の資本蓄積額であらう。しかもこの場合合衆國はその絶對量から見ても、またその資本輸出に對する關係から見ても首位を占めてゐるのである。勿論合衆國にとつて國內市場の意義はヨーロッパにとつてのそれよりも頗る大きい。しかしながら國內市場の著大な擴張可能性は現在では激減したのである。

資本主義的發展の論理は益々合衆國をしてその限界領域にぶちつけるだらう。しかもその擴大に

於て最後の場所は決して資本輸出にはないであらう。それ故に支拂差額の甚だ皮相なる分析に基いて國際資本市場に於ける合衆國の役割について何か性急な結論を下すならばそれは誤りであらう。合衆國の對外投資の意義の激減は將來全く意外な事實をもたらすに違ひない。

## 六 結論

一、アメリカ資本輸出の發達上に於ける戦争の役割に關して一時普及してゐた觀念から解放される必要がある。戦争はたゞ戦前の合衆國經濟に存在してゐたその傾向の活動を促進したに過ぎない合衆國の國民經濟的發達もその支拂差額の構成も共に合衆國の「大型債權者」への變化が戦前最後の十五年間に行はれたことを示してゐる。戦争の役割の問題よりも理論的に興味あるのは何故アメリカはその資本輸出増加の潜在的可能性を戦前に實現しなかつたか、その原因を研究することである。

二、戦争は諸々の極めて有利な事情が存在してゐたおかげで合衆國の資本輸出の増加を促進したこれに屬してゐるのは、何よりも先づ、貿易差額受取超過の途方ない増加と、移民の送金とか旅行者の支拂とか運賃とかいふ諸々の支拂項目が合衆國の支拂差額から消えうせたことである。かゝる加へて合衆國に有利な輸入品の價格運動である。輸入品の價格は輸出品の價格よりも徐々に騰貴



した。また弗の購買力の低下もアメリカの戦前負債の清算過程を幾分容易化した。これらの原因と並んで、また戦時アメリカに外國の自由な貨幣手段が蓄積されたことも或る意義をもつてゐた。

三、對外投資の動態といふ見地から見ると、合衆國の戦後の全歴史を二つの時期に分けなければならぬ。第一に戦争直後の最初の二三年と更に一九二一年の恐慌に始まり現在まで續いてゐるところの時期。第二期の領分内では一九二四年（ドーズ案採用）は資本輸出の方向にやゝ變化をもたらした。これはヨーロッパに對する信用授與の増加と關聯してゐる。

四、第一期は戦争の直接の繼續である。これを現してゐるのはアメリカ財務省によつて行はれたヨーロッパ諸政府への信用授與である。これは僅かに一九二〇年で終つてゐる。またこの時期を特徴付けてゐるのは全世界の對合衆國負債の借換部分の激増である。一九二三年に始めて資本輸出の増加が起つたが、これが第二期全體を通じて行はれてゐる。この時期の終末には輸出が毎年約十五億弗といふ巨額に達してゐる。一九二八年と一九二九年には明かにアメリカの景氣昇進と關聯した一時的事情によつて收縮が起つた。恐慌に先行する投機的繁榮は普通資本輸出の收縮を惹き起すものである。この恐慌と關聯してその後に来る不況は不可避免的に輸出額を増加する。

五、合衆國の資本輸出にとつて特徴的なのは自「アメリカ」大陸の役割である。これは戦後の時期については正しいが、戦前については——さうでない。外國に投資した百六十億弗のうち約百億弗は兩アメリカに存在してゐる。しかし一九二四年以來アメリカ資本の増加のテムポの點ではヨーロッパが殘餘の大陸を凌駕してゐる。ヨーロッパ諸國のうちではドイツが合衆國の資本輸出上最も重要な役割を演じてゐる。一九二八年にヨーロッパで吸収されたアメリカ資本の總額の三六％はドイツに割當てられてゐる。

六、資本輸出の見地から見ると、合衆國とイギリスとの關係はやゝ一種獨特にこみ入つてゐる。これはイギリスの世界經濟に於ける特殊な役割とその國際資本市場に於ける地位とに關聯してゐる。アメリカ人は外國にあるイギリス人の會社を買収する。彼等はその活動領域が南アメリカにあるところのイギリス會社については特別の關心を拂ふ。最近アメリカ投資上大きい役割を演じ始めてゐるのは自治領である。

アメリカ人はオーストラリアで、ニュージーランドで大いに積極性を發揮してゐる。カナダでは勿論のことである。こゝではイギリスの投資が殆んど靜止状態にあるときアメリカの投資は法外に増加した。

七、戦後は、戦前の時期と反對に、アメリカ資本輸出上貸付資本が大きい役割を演じてゐる。こ



の場合この見地から見て輸出の地理學を考慮する必要がある。ラテン・アメリカにとつてより特徴的なのは産業資本の輸出であり、ヨーロッパにとつては貸付資本の輸出である。ところが最近貸付資本の輸出減少が起つてをり、それは合衆國で發行された外國會社の社債及び株券の増加に反映してゐる。この同じ傾向はまたアメリカの對ヨーロッパ輸出に當てはめても正しいことが示されてゐる。

八、戦後のあらゆる年度に起つてゐるのだが、アメリカの資本輸出と並んでまた大部分ヨーロッパ系の資本がアメリカに輸入されてゐる。この事情はアメリカの純資本輸出額を激減させてゐる。資本輸入は一部一時的な原因によつて惹き起され、だが一部は戦前の舊信用關係の再興である。文献中には次のやうな前提を發見することかできる、即ち對ヨーロッパ資本輸出は大部分反對の輸入によつて償はれた、しかも甚だ屢々アメリカで發行されたヨーロッパの債券はヨーロッパ人によつて買取られ、或は何らかの方法でヨーロッパに歸着したと。この考へを立證することは殆んど不可能だが、しかもなほ疑を容れないことはアメリカの對ヨーロッパ純資本輸出額が發券數額より著しく低いことである。

九、最近アメリカの純資本輸出は外國から受取るところの舊負債に對する利子よりも小額である

ことを示してゐる。この事情の經濟的意義は充分雄辯である。これはアメリカの金利生活者國家への轉化過程、アメリカ資本主義の寄生的要素の増加を特徴付けてゐる。かういふ資本及び利子運動の差額はより大なる帝國主義國家の一群による全世界の搾取の表現である。イギリスもまた舊負債に對する利子額は前世紀の七十年代の中頃から資本輸出額を凌駕してゐる。

十、最近全年度間の合衆國の支拂差額を分析する場合、吾々はバランスされない巨額の残高を得るのである。これは疑もなく、一方では、差額を組立てる場合に生ずるあらゆる錯誤と誤算の結果であり、他方では、資本の國際的決濟の領域に於ける或る運動を示してゐる。文献と商務省とはこの残高を合衆國の短期負債増加に關聯させてゐる。合衆國の短期負債の増大は一部はヨーロッパの最近の發達の特殊性と關聯する一時的性質の原因によつて惹き起された。しかしそれと共に短期負債の増加は國際貨幣市場に於けるアメリカの新らしい役割を表現してゐるのである。アメリカの資本輸出の増加は不可避的にこの支拂差額の項目の増加を導くだらうし、惹き起しもするだらう。

十一、資本輸出のあらゆる見透しを評價して、純資本輸出よりも寧ろ合衆國がこの點について持つてゐるところの潜在的可能性を評價する必要がある。資本輸出を國民的富、國民收入及び年々の蓄積とに比較する場合、吾々は他の帝國主義諸國よりもアメリカにとつて有利な標識を得るのであ



る。この事情は國內市場の役割の減少と結び付いて資本輸出の見透しを決定する場合に決定的である。來るべき年度には資本輸出の減少より寧ろ資本輸出の増加を考慮しなければならない。

#### 四 アメリカ合衆國に於ける農民恐慌

ゴルフインケル

「ゴルフインケル『アメリカ合衆國に於ける農民恐慌』世界經濟と世界政治一九三〇年第三、四、五號」

##### 一 一般的注意

戦後世界資本主義恐慌の一般的土臺の上で世界農業恐慌の諸要素は特に鮮やかに進み出してゐるといふのは若し主要資本主義諸國の工業動態についてはやはりやゝ的確に循環性發展形態を認めることができ、その發展の形態に於ては繼續的不況の諸局面が小活況や上昇さへの一時的時期と交替してゐるとすれば、世界農業の戦後全時期の状態は殆んど永久的不況の段階と特徴付けることができるからである。たゞこの時期には農業が經驗してゐる不況の尖鋭さの程度に若干の動搖を認めることができる、然し高度な、乃至たとへ良好な景氣のモーメントさへも見付けることは困難である。やゝ例外なのは、世界農業恐慌に取つて好景氣が純粹な偶發的事態——一九二四年の不作及びヨ一

四 アメリカ合衆國に於ける農民恐慌



ロッパ工業の状態に於ける前進的移變（ドーズ案の採用、正貨の安定、ドイツ工業の擴大等々の諸モーメントの影響を受けて醸成された、かの一九二四、二五年だけである。

こゝでは世界農業の範圍に於ける資本主義の戦後經濟的諸矛盾の特別な尖鋭化を條件付けた諸原因の詳細な分析には立ち入らないで、たゞ次の事實、即ち農業は戦時及び戦後の時期の影響を受けて純粹に構成的性質の最も深刻な變化を遂げて來たところの、世界資本主義經濟の一部門であつたことを指摘するに止めよう。穀物及び酪業生産物の世界生産中心地の再分配（移動）、世界穀物市場に於ける決定的要素としての東ヨーロッパの没落、若き隔洋諸國——第一にカナダ、アルゼンチン及びオーストリア、並びにアメリカ合衆國——の新土地の農業用土地への編入の未曾有の急テムポ——すべてこれらのことは不可避的に世界農業に非常に多くの攪亂を惹き起さざるを得なかつた。ヨーロッパ經濟の復興期、國內資源の成長を犠牲とするヨーロッパの穀物自給の相對的發達はその歸結としてカナダ、アメリカ合衆國及びアルゼンチンの間の戦時及び戦争直後の時期に獲取したところの彼等の地位を確保するための世界穀物市場に於ける、鬭争の未曾有の尖鋭化を齎らした。尖鋭な競争及び價格下落はその直接の結果として隔洋諸國の農業の不振の病的過程の發端を齎らした。この過程の病狀の程度、恐慌の尖鋭さは各個々の國に於ける基礎的な政治的・經濟的諸要因の具體

的結合に依據して、各國各様に規定された。相當な農業部門をまだ保存してゐたヨーロッパの工業國は關稅政策の助けでヨリ高い關稅障壁を設けて、安い隔洋穀物の壓迫から自國を保護したり、または國內の農業生産に刺戟を與へる様に向けられた夫々の立法的手段（輸出プレミアム、製粉業に於ける自國穀物の義務的比率に關するドイツの法律等）に訴へたりして來襲した恐慌と戦はうとした。しかしながら、穀物を輸出する隔洋諸國にとつては關稅政策と言ふ手段を用ひて世界市場の自然と鬭ふと言ふ道は最初から全く通行止めであつたことは明かだ。なぜならば問題は國內市場の保護にあつたのではなく、如何にして國外市場を維持するかにあつたからだ。重苦しい困難からの活路のための他の道行か又は隔洋諸國の農業がたとへ相對的安定でもよいからよつて以て發見する事ができる様な、新條件を作り出すかそのいづれかの必要に迫られたのである。

この根本的に變化した世界經濟情勢に適應する難業苦業の道、この多少安定せる均衡の新しい諸條件の探求は世界穀物市場で角逐してゐる三重要國の各々に於て——アメリカ合衆國、カナダ及びアルゼンチンに於て——それぞれ全く異つた仕方で行はれてゐる。カナダ及びアルゼンチンはその生産費の一層の切下げといふ助けをかりて、交通條件の改善及び農業用機械の充用強化によつて自由な處女地を農業經營に繰入れる方法で以つて難關を突破しようと希求してゐる。商品生産の一單



位當り生産費の切下げは作付單位の豊度を低下するといふ犠牲を支拂つてまでも達成されてゐる。カナダ、殊にアルゼンチンの農業労働者の賃銀額がアメリカ合衆國よりも比較的低いこと、同じくカナダ及びアルゼンチンの農業はアメリカ合衆國に比べて賃銀労働を使用する量が少く、しかもそれは同時により低い物價水準の下に於てであるといふこと——すべてこれらの要因はカナダ及びアルゼンチンの農業に、土着農民の生活水準の低下といふ犠牲を拂つて、彼等の存在條件を一般に劣悪化することにより世界農業恐慌の全重壓を堪える可能性を與へてゐる。恐慌は慢性的症狀の現象となりその尖鋭さの一部を失つてゐる、尤も事實上存在する矛盾は以前の通り解決の出来ない問題として取り残されてゐるが。

アメリカ合衆國の農業は別の、非常な複雑な状態にある。北アメリカ工業發展の急速なテムポは工業商品價格の高い水準を維持するための諸前提を作り出したところの、高い關稅障壁によつて保護された國內市場の條件に於て始めて可能であつたのである。アメリカ労働者の比較的高い賃銀額と同じく鐵道運賃の途方もなく高い水準はこれによつて著しく條件付けられてゐる。アメリカの農民は彼が買入れる生産用及び消費用の生産物にアメリカの國內市場の高い價格を支拂ふことを餘儀なくされ、彼が輸出する商品に對してはカナダやアルゼンチンの農民よりも高い等價を受取ることを

を期待し得ないのだ。更に巨額の高利貸及び銀行負債の、インフレーション戰爭時代から遺産として残されたアメリカ農民の重荷を付け加へなければならぬ。地價騰貴時代は穀物價格の暴落の後ひたむきな低落運動と代つた。しかしこの事情は今日までも農民の豫算表を強く壓迫してゐるところの借地料の分量にそれ相當の低下を齎らすといふ風には反映しなかつた。

アメリカ合衆國に於ける農民問題の途方もない尖鋭さは農民人口數の相對的減少のみならず、絶對的減少のひたむきな過程に、農民割當地の價値の下落に及び恐慌状態によつて刺戟されたアメリカ農業の資本主義化及び工業化の強度な過程に現れてゐる。

社會的・政治的領域では戦後の時期は農業生産物價格の低い水準を維持することに利益を持つてゐるところの大工業資本に對するアメリカ農民の鬭争といふ標識の下を通過しつゝある。農民の要求は歸するところ農業輸出品に對する輸出プレミアムの制定、租稅負擔及び信用條件の輕減であり輸入工業品の關稅引下げであり、農産品の現輸入稅の引上げであり、新關稅の採用である。しかるにアメリカ合衆國に於ける政治的力關係は、小農民ブルジョアジイが組織された大工業資本側から殆ど全く本質的讓歩を期待し得ないやうな關係なのである。この點を雄辯に確證するものは國內市場に於ける農業價格の一定水準及び輸出プレミアムの制立を豫定してゐたところの、所謂ムク・ナ



リー・ホーゲン案をめぐる多年に亘る闘争の結果である。フーヴァーが提案し、一九二九年に上下兩院が容認した農民の國家信用擴張に關する法律は大獨占資本の利益の丸寫しであつた。農民代表が獲取し得た全てのことは、市場價格安定の目的で農民協同組合組織に信用を與へるための五億弗の特殊な信用基金の形成に歸着した。農民の農業生産物の輸入税引上げの要求に對して抜け目のない工業は工業生産物輸入税の一層の引上げの要求を以つて答へたのである。

アメリカ農業の問題の詳細な分析は現在特殊な意義を持つてゐる。一面において、それはアメリカ農業發展の最新段階、即ち土地耕作の機械的形態や、資本主義的諸關係や、工業と農業との間の相互關係の急進的變化やの農場浸透の急速なテムポによつて特徴づけられてゐる段階、の特質を闡明しなければならぬ、他面に於て、この分析はよつて以てアメリカ農業にとつての國內市場の意義を不斷に強め、それと共に農産物世界市場に於けるアメリカ合衆國の比重を間斷なく變化してゐるところの、構成的變化の深さを明かにしなければならぬ。アメリカ合衆國に於ける農民問題は、ヨーロッパ資本とアメリカ資本の相反する利害が其處で交流し錯綜してゐるところの、關節である。最近までヨーロッパに對する孤立政策は専らアメリカ工業資本の利益を反映してゐた。あらゆる階層のアメリカの農業ブルジョアジー及びそれと結びついてゐて、ヨーロッパへの農業生産物

輸出に金融を興へることに從事してゐる金融寡頭政治は、ヨーロッパに對する共和主義的政策に明らかに反對の立場に立つてゐた。ところが、最近年にはアメリカ經濟に全く新しい過程が觀られた。アメリカ合衆國に於ける工業經濟及び資本蓄積の暴風雨的テムポは工業生産物販賣のための外國市場の問題及びアメリカ資本の海外投下新領域の問題を甚だ鋭く提出してゐる。その巨大な且つ獨占的な國內市場に依據しつゝ、アメリカ合衆國の獨占資本は國際市場でヨーロッパ資本主義と競争的闘争を強行せんとする斷乎たる努力を示してゐるばかりでなく、ヨーロッパ自體でも強固な地位を獲取せんとする斷乎たる努力を示してゐる。現在アメリカ資本主義の外交政策を壟斷するものは専ら大工業及び金融資本の利益である。農民の利益は第二の舞臺に退いた。それと共に近き將來に於ける新段階到來が認められる——即ちアメリカ農民が外國販賣市場に於けるその壓力を弱め急速に擴大しつゝある國內市場の供給に自己を局限し始める段階の到來が。その時は農民の農業關稅引上げのための闘争といふ問題は、甚だ尖鋭に現れるであらう。アメリカの資本主義的經濟の諸條件に於てはこれは不可避免的に内的矛盾の一層強い尖鋭化を喚起するに違ひない。

## 二 アメリカ農業の一般的動態

アメリカ合衆國農業の一般的發展の特質に入る前に、アメリカ農業の一般的狀態について述べる



ことは、必然的不可避的ではあるが、若干の圖式主義に陥ることを意味することを認めなければならぬ。個々の農業部門の動態及び靜態は非常に異つてゐるから、全てのアメリカ農業に對する一般的動態と言ふ様なことについて語ることは殆んど不可能である。小麦地區の經濟は隣の玉蜀黍地區の經濟状態から甚だ異つてゐる。前者は世界小麦市場の狀態と世界の價格水準とに完全に依存してゐる。これに反して、玉蜀黍地區は殆んど全く國內市場への供給のために働いてをり、アメリカ養豚業の基本的土臺である。これと同様な差異を吾々は高度に發達した酪業、經濟を持つ東部地區の狀態と南方の棉花及び煙草栽培地區の狀態と急速に發達しつゝある園藝を持つ最東部諸國の狀態に見る。しかしながら經濟形態及び農業の個々の部門の經濟狀態はかやうに千差萬別であるにもかゝらず、發展の一般的傾向を見出さなければならぬ、その傾向は急速に發達しつゝある工業、國內市場農業生産の機械化工業化の間斷なき成長といふ諸條件によつて與へられてゐるのだ。この根本的要因に比較すれば、個々の地區の經濟狀態の差異はたゞアメリカ農業の種々なる部門がアメリカ經濟に於ける新しい諸要因に適應してゐる所の、その形態の差異にのみ歸着されねばならない。だから吾々も基本的傾向と動力とを深く分析することに止め、たゞ必要な場合には農業の個々の部門についてのヨリ詳細な表象を與へる權利を保留する意向である。

次の數字はアメリカ經濟に於ける根本的變化、農業と工業との間の相互關係について最も一般的な表象を與へることができる、それは一八八〇乃至一九二五年の期間に於ける都市、農村地方及び農場の人口の平行的發展を示してゐる。

	單位百萬	一八八〇年	一八九〇年	一九〇〇年	一九一〇年	一九二〇年	一九二五年
アメリカ合衆國總人口	.....	五〇・二	六二・九	七六・〇	九二・〇	一〇五・七	一二五・四
アメリカ都市人口	.....	一四・四	二二・三	三〇・四	四三・二	五四・三	六三・八
アメリカ合衆國農村人口	.....	三五・八	四〇・六	四五・六	四九・八	五二・四	五三・六
農村人口の比率	.....	七一・四	六四・六	六〇・〇	五四・二	四八・六	四五・六
農家人口	.....	——	——	——	三一・一	三一・六	三九・〇
總人口に對する農家人口の比率	——	——	——	——	三九・八	三九・九	三五・一
農村人口に對する比率	.....	——	——	——	六四・四	六一・五	五五・一
農場數(單位千)	.....	四、〇〇八・九	四、五六四・六	五、七三七・四	六、三六一・五	六、四四八・三	六、三七一・六

合衆國人口の急速な一般的増大といふ土臺の上でその強度の點で前代未聞の都會化過程が行はれてゐる。一八八〇年には全人口の二八・六%が都會に住んでをり、一九二五年にはその比率が五四・

四 アメリカ合衆國に於ける農民恐慌



四%に増加したが、一九二九年までには恐らく五八—五九%に達するだらう。この都會人口の増大と平行して農村に住む人口 (rural population) の比率は減少してをり、更に一層急速なテムボで農民人口数は減少してゐる。一九一〇年に農家人口は全農村住民の六四・四%をなしてゐた、一九二五年にはこの比率が五五・一%に低下した。一九一〇年から一九二〇年迄の期間に農家人口は初めその数の絶對的低下を示した、農場数はやはり非常に僅かではあるが増加を續けてゐる(一九一〇—一九一〇年には農場数の増加が約一一%に當つてゐたが、一九一〇—一九二〇年には僅か一・三%であつた)一九二〇—一九二五年の五年間には農家人口の絶對数が激減した(三千百十萬人から二千九百萬人へ)、この時に初めて農場の數的減少が見出される。

農場が占める面積について言へば、この問題に關して手許にある統計は一九二〇—一九二五年の時期についてアメリカの農業史上これを以つて蒿矢とするところの疑もない事實——即ちその絶對的減少の事實を確認してゐる。一八八〇—一九二五年間の農場面積の動態は次の特徴ある發展を示してゐる。

百萬エーカー	全農場土地面積	開墾地	未開墾地
一八八〇年	..... 五三六・一	三八四・八	一五一・三
一八九〇年	..... 六二二・二	.....	.....
一九〇〇年	..... 八三八・六	四一四・五	四二四・一
一九一〇年	..... 八七六・八	四七八・五	四〇〇・三
一九二〇年	..... 九五五・九	五〇三・一	四五二・八
一九二五年	..... 九四三・三	五〇五・(1)	四三九・三

(1) 一九二五年の農業調査には開墾地の面積を示す圖表がない、しかしそれに殆んど相當するものは植物栽培 (Farm Crops) が占める土地の合計——三億九千五百五十萬エーカーである。

新土地獲取過程及びそれを農業用土地に採用することは今世紀の當初から、即ちアメリカ合衆國工業の急速な發展の時代の當初から既に著しく緩慢なテムボを持つてゐる。未開墾地を犠牲とする耕地の擴大はやはり一九〇〇—一九一〇年の十年間には非常に著しいものがあつた、即ち全部で六千四百萬エーカー、または殆んど一六%の擴大である。次の十年にも農場の占める開墾地の面積擴大は二千四百六十萬エーカー或は五%増加した、だが一九二〇—一九二五年の五ヶ年間は農民の土地面積は減少し、しかも開墾地は大して擴張されなかつた。アメリカ農業の加速度的發展は一定の限界に到達したのだ、この限界はアメリカ農業が近々のうちにはとても飛び越せさうもない

四 アメリカ合衆國に於ける農民恐慌



ものである。

若しこの一般的材料から進んで植物栽培の占める作付面積について一層詳細な統計を見、作付面積の運動と人口増加のテムボとを比較すると、吾々は次の様な特徴ある数字を得るのである。これはアメリカ合衆國に於ける農業問題の若干の特質に對して明るい光明を投じてゐる。

年	植物栽培作付面積		穀物作付面積		農場平均面積 (エーカー)
	百萬エーカー	前調査と比較してその變化(%)	百萬エーカー	變化(%)	
一八九〇	—	—	一四〇・四	一八・二	一三六・五
一九〇〇	二八三・一	—	一八五・〇	三二・八	一四六・二
一九一〇	三二二・二	九・九	一九二・四	三・五	一三六・一
一九二〇	三三八・五	二・〇	三二九・〇	一四・四	一四八・二
一九二五	三九四・五	一・一	一八六・三	一四・五	一四三・一

一九二〇——一九二五年の間に於ける農場の占める開墾地の總面積がやゝ——既に吾々は前に注意した様に、極めて僅かではあるが——擴大したと言ふ土臺の上で植物栽培の占める作付面積はやゝ減少してをり、しかも穀物の作付面積は極めて猛烈に(一四・五%)減少してゐる。一八九〇——

一九〇〇年の十ヶ年間に穀物の作付面積は一億四千四十萬エーカーから一億八千五百萬エーカーに即ち全體で三一・八%も増加した。この時代はアメリカ農業の發展が、アメリカ穀物生産の著しく且益々増大する部分を吸集した世界穀物市場の景氣好轉によつて刺戟された時であつた。カナダ殊にアルゼンチンの世界市場への登場と關聯して、またロシア穀物輸出の強化と關聯して今世紀の當初に成熟したところの恐慌はアメリカ農業に手酷い打撃を與へた。低い物價水準が影響して穀物の作付面積の擴張過程は停止させられた。一九〇〇——一九一〇年の期間に僅かに三・五%(前十年間の三一・八%に對して)の擴張が行はれたに過ぎない。

帝國主義戦争の時代は新たにアメリカ穀物輸出にとつて世界市場に好條件を作り出した。一九二〇年にはアメリカ合衆國の穀物作付が一九一〇年の水準に比較して一四・四%だけ新たに増大してゐる、これは右の事情によつて説明されるのである。しかしこの事情は一時的に達せられた繁榮の果敢さを條件付けた。一九二〇年から一九二五年に至る間に前十年間に得たすべてのものが目茶苦茶にされた。一九二五年の人口調査の統計はこの年の穀物作付面積の總數が一億八千六百三十萬エーカーなることを示してゐるが、これは一九一〇年の水準以下に低落したことを意味してゐるのだ。最新のアメリカ農業史は、アメリカ農業の一層の擴大能力が今のところたゞ世界穀物市場の情

四 アメリカ合衆國に於ける農民恐慌



勢に完全に且つ専ら依存してゐることを最も斷乎として立證してゐる。たゞ世界價格の高い時期にだけ作付面積が急速に且つ著しい規模で擴大され得るのだ。不況はアメリカ農民をして否應なしに作付面積を縮小させてゐる。

しかしながら同時に國の急速な都會化過程と工業の發展とはアメリカ國內市場の強度な發展を可能にした。殆んど今世紀の初頭までは作付面積の増大が人口増大を追越してゐた。一九〇〇年から反對の過程が始まつてゐる——即ち人口増加が作付面積殊に穀物の作付面積の擴大のテムポを追越してゐる。國內市場が牧畜や酪業に従事する農民ばかりでなく、純粹の穀物農場にとつても益々大なる意義を得てゐる。アメリカ商務省の『商業年鑑』に掲げられた次の統計は上述のことを明瞭に説明することができる。

人口一人當りエーカー數

年	開墾地	植物栽培 作付面積	穀物作 付面積
一八七〇	四・九〇	—	—
一八八〇	五・六八	—	二・三七
一八九〇	五・六三	—	二・三三

一九〇〇	五・四五	三・七三	二・四三
一九一〇	五・二〇	三・三八	二・〇八
一九二〇	四・七六	三・三〇	二・〇七
一九二五	四・三六	二・九九	一・六三

アメリカ合衆國人口一人當り農場の開墾地エーカー數は一八九〇年以來不斷の低下を示してゐる。植物栽培の作付面積は一九〇〇年の三・七三エーカーから一九二五年の二・九九エーカーに低下した、それは二〇%の低下を意味してゐる。更に一層の鋭さを示すものは穀物作付面積の（人口一人當り）相對的減少で——それは二・四三エーカーから一・六二エーカーへ、即ち三九%の減少である。これは農業總生産物の著大な部分が國內市場の需要を充すために使用されなければならぬことを意味してゐる。一九二八年のアメリカ農務省の計算によると、農業生産物の價額に對するアメリカの農業輸出の比重は一九二八年に一五%と決定されてゐる、しかるに同一統計によると戦前はこの比率が約二七%を成してゐたのである。以下では吾々は上述の數字とはいくらか違つてゐるが吾々自身の計算を掲げる。

吾々は上記の研究の結果を次の様に短く定式化することができる。アメリカ農業の急速な擴大期



は既に二十世紀の初頭に終末を告げてゐる。アメリカ經濟の内部構造が工業の比重の決定的な激しい増大に影響されて變化して以來、アメリカ合衆國の農業は事物の自然的成行きに従つて益々國內市場に依存するに至つてゐる、それと共に以前農業はそれに従事する人口數の點でも、また合衆國の總輸出に對する農業生産物の輸出の比重の點でも指導的役割を演じてゐたのだが、その農業が背後に引き下つてしまつてゐる。正にこの事情こそ農民の利益が經濟政策に與へる影響を益々少くして、經濟政策は共和黨の掌中で大獨占工業の權力を強化するための手段となつてゐることを説明するものである。

しかしながら現在作り出された状態を把握するためには、先づ農業生産物の世界市場に於ける合衆國の地位に影響してそれを變化させたところの諸要因について一層詳細な概念を持たねばならず、それと共にアメリカ農業の個々の重要部門に對する世界市場の意義を特徴付けなければならぬ。しかる後始めて吾々は農民問題の現状の具體的分析に進み得るし、近き將來に於ける合衆國の農業の發展のあらゆる見透しをも示し得るのである。

三 世界農業市場に於けるアメリカ合衆國

戦前及び戦後に於けるアメリカ農業にとつての外國市場の意義は吾々が作成した次の表によつて

一見明瞭に説明されてゐる。それは一九一〇——一九一四年の戦前五ヶ年間及び一九二〇——一九二八年の期間の農業總生産及び總輸出の平行的發展を擧げてゐる。表はアメリカの一九二八年の『統計拔萃』及び一九二八年の『商業年鑑』の諸統計によつて作成した。

合衆國の農業總生産價額に對する農業輸出の比重

年	生産 (單位百萬弗)	輸出	輸出の%	物價指數 (一九三三年=100)	農業物價指數
一九一〇—一九一四(平均)	七、五三三	一、〇三三・七	一三・七	九八・二	一〇〇・〇
一九一三	七、八六六	一、四三三・三	一四・五	一〇〇・〇	一〇〇・〇
一九一九	一七、六七七	四、〇九八・〇	二四・六	二〇六・四	三三〇・八
一九二〇	一四、八一	三、四五二・三	二五・三	二二六・二	二二二・九
一九二二	一一、三二一	一、八四四・四	一六・八	一四八・八	一三三・三
一九二四	一一、三二九	二、一〇〇・一	一七・三	一四九・七	一四三・四
一九二五	一三、〇三四	二、一三六・二	一六・四	一五八・七	一五八・一
一九二六	一三、九八五	一、八六六・七	一四・〇	一五一・〇	一四三・二
一九二七(3)	一三、一五五	一、八八四・七	一四・三	一四六・八	一四三・五

四 アメリカ合衆國に於ける農民恐慌



一九二八(4)…………… 一三、三七八 一、八六三・二 一四・〇 一五〇・三 一五〇・三

(2) 經濟年度。

(3) 色々な資料から取った暫定數(一九一三年—一〇〇)

(4) 植物性生産物、牧畜生産物——家畜飼育用生産物の價額が計算されてゐる。

一九一九年及び一九二〇年に於ける生産額及び輸出額の巨大な數字は物理的數量の事實上の増大を反映するものでなくして、主として戦争及び戦後の震撼の結果として生じた例外的な價格昂騰の現れである。しかしながらこれは生産物についても非常に當つてゐる。吾々が算出した比較率は、戦後二ケ年間に——一九一九年及び一九二〇年——は世界市場、即ち根本的にはヨーロッパ工業國の市場に向けられたところの農業生産物の部分がすば抜けて擴大してゐることを示してゐる。一九一九年には輸出が一九一〇年から一九一四年に至る五ケ年間の一三・七%に對して生産物價額の二四・六%を占めてゐた。翌年は既に世界市場には價格水準の激落が近づきつゝある最初の徴候が認められ、輸出もやゝ減退し始めたのだが、それでもなほ生産に對する後者の比重は二三・三%と言ふ高水準を保つてゐたのである。戦時及び戦後の最初の一年から一九二一年の恐慌に至る期間については、その作り出された状態を次の様に定式化すればよいだらう。世界市場の高い價格水準によつて刺戟された合衆國農業生産の擴大はその直接の結果として生産増大の全量に對してそれ相當の輸

出の増大を齎らし、また部分的にはそれ以上でさへあつた。この期間には國內消費が決定的な構成的變化を遂げたのである。牧畜生産物と、より集約的な植物栽培(園藝)の生産物との消費が擴大し、それと同時に粗放的植物栽培の生産物の消費が減少した。アメリカ合衆國はその穀物生産の増大に相應した程度よりもはるかに大きな程度でヨーロッパへの穀物供給をひきうけることができなかつた。穀物の世界低價格時代は一九二〇——一九二一年の恐慌後に現れ、現在までも續いてゐるが、これがアメリカの輸出に尖鋭な打撃を與へてこれを戦争直後とほゞ同様な限界にまで低下させた。吾々は前に掲げた數字から、近年合衆國が一九一〇年から一九一四年に至る五ケ年間と同じ生産部分(約七分の一)を世界市場に持ち出してゐることを知る。吾々が前に掲げたアメリカの農業生産に於ける輸出の割合が二七%だと言ふ(アメリカ農務省)評價は前世紀の九十年代にとつてのみ正しい。一九〇〇——一九一四年の間に工業發展が急速なテムポで行はれた結果この割合は非常に低下した。この期間の生産額の多少正確な計算が缺けてゐるので、この問題を一層充分に理解することができない。

合衆國の農業輸出は一九二〇——一九二一年の恐慌後の期間に生産額よりも著しい激減に見舞われた。けれども生産に對する輸出總額が最近ほゞ戦前の水準を取り戻したからと言つても、このこと



から、アメリカ農業が彼等が近年失つてゐたところの基本的生産要素間の均衡を新たに見出したのだとか、この均衡は近き将来にはその決定的安定の確立にまで導くに違ひないだらうなどと言ふ様な誤つた結論を下してはいけない。カナダ（小麦）、アルゼンチン（小麦、玉蜀黍、牧畜生産物）及びオーストラリア（小麦、牧畜生産物）側の競争の尖鋭化に表現されてゐるところの根本的に變化した世界市場の状態は合衆國農業輸出の組織自體に深刻な構成的變化を惹き起したのである。若し國內市場ばかりでなく外國市場の變化した環境へのアメリカ農業の適應過程に一般的な公式化を與へるなら、次の様に言はなければならぬだらう。即ち世界市場でもアメリカ經濟内でも平行して行はれた構成的變化の結果、合衆國は低い（農民にとつては滅亡的な）價格水準といふ條件の下で初めてその戦前の状態を維持することができ、そしてそれは見掛けだけは戦前状態への復歸だが事實はこの輸出の個々の要素に充分猛烈な再編成が行はれたことを意味すると。吾々は表の上に反映された全期間に於ける價格水準の變化を同一場所に掲げて於いた。こゝで吾々に殘されてゐることは、アメリカ農業輸出の構成上の根本的變化を明かにすることである。吾々は自然的數量の輸出統計を掲げないで價格單位の輸出統計を取る、なぜならばかくしてのみアメリカ農業輸出の種々雑多な要素を比較對照するためにそれらを一つの經濟的分母の下に持ち來ることが出来るからである。

この統計は一九二九年の『商業年鑑』から借りたものである。

一九一〇—一九二七年のアメリカ農業輸出の構成（單位百萬弗）

年	穀物	植物性生産物及び果實	牧畜生産物	酪業生産種々なる植物性及び卵及び牧畜生産物	棉花	技術的栽培物	煙草
一九一〇—一九一四	一四七・三	三五・八	一五・八	六・三	九八・七	五五・九	四四・八
一九一三	一九七・四	四〇・五	一五八・八	六・九	一一・二	五七・五	五三・九
一九一九	九三・九	一七・三	一〇七・五	一六・五	四〇・五	一、一三七・四	三六〇・〇
一九二四	四三・八	一七・一	二七・五	三五・七	一三・三	九五〇・六	一六四・一
一九二五	三二・八	一三・一	二七・三	三一・一	一四七・三	一、〇五九・八	一五三・八
一九二六	三五・七	一三・六	二八・二	二六・八	一一・一	八四・四	一三六・九
一九二七	四三・八	一四・六	一八・六	二五・三	一三・四	八三・三	一三九・七
一九二八	三五・七	一五・〇	一八・九	二四・七	一一・四	九三〇・〇	一四・五

この表は色々な點で興味がある。第一に吾々は、穀物の輸出が戦後第一年に比較して減退を示してゐるが、それにもかゝらず依然として充分に高水準を保つてゐることを見る。一九一九年にはその状態が次の様であつた、即ちアメリカの輸出總額が一九一〇年乃至一九一四年に比較して五四

四 アメリカ合衆國に於ける農民恐慌



％も一般に増加したが(5)、その時穀物輸出の増加は一六三％と決定されてをり、しかも價格で表した(價格指數二四一)穀物輸出は全農業輸出の二九五％の増加に比較して五三五％の増加であつた。だが一九二七年の最近五ケ年間も基礎の上で穀物輸出にとつて極めて有利な年であつて、その數量的表現はやはり一九一〇—一九一四年に比して一〇％の増加を示してをり、しかも價額は四三％も増加してゐる。このことは、正に穀物輸出の領域で合衆國の世界市場に對する依存の程度が戦前の状態よりも著しく増大したことを意味してゐるのだ。國內市場の消費増加は一時牧畜生産物の生産と輸出との領域だけに著しく現れた。アメリカ牧畜生産の生産總額が戦前五ケ年間に比べて最近約二倍も増加した(戦前の三十六億弗に對して七十八億—八十億弗)にもかゝらず、一九二五年の輸出額は一九一〇—一九一四年よりも全部で二〇％高かつたに過ぎない。この場合戦争及び戦後の攪亂期と關聯してアメリカの牧畜生産物輸出が一九一九年に穀物輸出と同じく高率の増大を、即ち數量に於いて一六三％價額に於いて五七〇％の増大を示してゐることを注意する必要がある。一九二七年及び一九二八年には事實上牧畜生産物輸出の物理的數量は八％減少した。なほ合衆國農業輸出の殘餘の大項目のうち果實及び蔬菜の輸出が頭抜けて急速に増加してゐることを示さなければならぬ。(一九二七年に物理的數量で一九五％、價格で三二一〇％の増加)。植物性工業原料

——棉花及び煙草——の輸出について言へば、國內消費が戦前に比べて一層猛烈であるにもかゝらず、その輸出額は依然として莫大であるといふことを注意する必要がある。アメリカの棉花業及び煙草業は従前通り世界市場、従つてまた世界の景氣進行に強く依存してゐる。一九二八年の棉花輸出はその數量から言へば一九〇九—一九一三年の水準を約七〇％も上廻つてゐた。煙草輸出は戦前五ケ年の數量を三〇％も凌駕してゐた。

(5) 計算は總指數を組立て、それによつて輸出の物理的數量を比較するといふ土臺の上で行はれた。

既に吾々は前のところでアメリカ農業の分化性があまりにも一般化した結論を許さないこと、この個々の部門の状態をより正しく分析するためにはこの分析をいくらか詳細にやらなければならぬといふ事情を示す機會を持つた。それ故に吾々はアメリカ農業の個々の部門にとつての輸出の意義をより詳細に究明し、この状態を決定してゐる基本的要因をできるだけ簡單に述べる必要があると思ふ。吾々は最も重要な部門だけに止める。

小麦 次表で吾々は合衆國小麥經濟の戦前、戦後の状態を特徴付ける根本的經濟指數を集めた。數字はアメリカ農務省の年報から取つた。

合衆國の小麥經濟の發達(一八九〇年から一九二八年まで)

#### 四 アメリカ合衆國に於ける農民恐慌



年	作付面積 百萬エーカー	生産 百萬ブッシェル	生産者が 得る價格 一ブッシェル	シカゴ價格 當リセント	一エーカー の生産價格 弗及仙	純輸出 百萬ブッシェル	生産に對する 輸出の比率 %
一八九〇……三四・〇		三七八・一	八三・三	八九	九・三五	一〇九・一	二八・八
一九〇〇……五一・四		六〇三・七	六三・〇	六六	七・七七	三三〇・七	三六・六
一九一〇……四七・七		六三三・一	八八・三	一〇三	一三・二八	七〇・二	一一・〇
一九一三……五〇・二		七六三・四	七九・四	九三	一三・二六	一四六・三	一九・二
一九一九……五七・七		九七〇・〇	二四・九	二七六	二七・四八	二六・七	三・四
一九二〇……六一・二		八三三・〇	一四三・七	一九八	一九・五六	三三・六	三七・五
一九二五……五三・五		六六六・四	一四・六	一六	一八・三三	九三・七	一三・七
一九二六……五三・三		八三三・〇	一一九・八	一四〇	一七・六八	二六〇・〇	二四・八
一九二七……五八・八		八七八・四	一一二・八	—	—	二〇三・〇	—
一九二八……五七・七		九七二	九七・二	—	—	—	—

一八九〇年と一九〇〇年との間の十年間は小麥作付面積が非常に擴大した時期であつた。この十年は作付面積の増加の強度から云つて前世紀の七十年代の激増を思はせるものがある。これは西部

で新土地を急速に耕作に引き入れた時代であつた。しかしながらこれは價格下落を招き、その結果次の十年間には少しの増加も見られなかつたばかりか、小麥耕地の非常に急速な縮少が行はれた。東部諸州は低い價格水準に適應できないで酪業、部分的には牧畜の強大な發展といふ方向に向ふ止むなきに至つた。同じ原因から小麥輸出は激減した。なぜならば東部諸州ばかりが大西洋諸港を通じて小麥輸出に参加することができる様に鐵道運輸條件ができてゐたからである。西部諸州が大平洋諸港を通じて小麥を輸出したのではとても高い費用がかかるのである。西部諸州の小麥輸出は東アジアに輸出する場合にのみ決定的意義を持つことができる。しかしそこではカナダの小麥輸出（バンクーヴァ港）の競争が激々と感じられるのである。

戦争及び戦後の時期は小麥生産に新しい刺戟を與へた。一九一九年には作付面積及び生産が記録的水準に達し、これは戦前戦後の全合衆國史上曾てその例を見ないものである。一九二二—二三年には低い價格水準と關聯して作付面積が十九世紀初頭の數にまで低下した。輸出はその生産に對して一九二〇年には三七・八%、一九二一年には三二・六%に當つてゐたが、一九二二年には二二・六%、一九二三年には一六・五%にまで低下してゐる。たゞ價格水準が上向き始めた一九二四年から吾々はまた輸出の増加を見る、それは一九二五年——合衆國に於ける不作の年——に阻まれてしま



つたのである。一九二六年から始まつて最近の數年間に合衆國に小麥耕地が新たに増大してゐるのを見る。一九二七年には作付面積が一九二四年の五千八百八十萬エーカー及び一九二五年の五千二百三十萬エーカーに比べて五千八百八十萬エーカーに上つた。だが一九二八年にはそれが再び若干低下した(五千七百七十萬エーカー)。この場合最も特徴的なことは、この増加が低價格又は低落しつゝある價格の條件の下に於てさへ起つたといふ事情である。この一見理解し難い現象は土地耕作技術上の巨大な躍進によつて説明される、これは近年農業生産の強大な機械化の結果として合衆國に見られたところである。農業生産のより高い技術的基礎への移渡は既に以前收益のなかつた多くの小麥地方に於ける生産物の一單位の生産費を低下させることができ、それはより一層増大するための新しい經濟的前提を作り出したのである。吾々は後で合衆國農業に發生した技術的變化の特徴、即ち勞働生産性の増大、生産費の低下についてより詳細に論及する。こゝではたゞこの過程がやつと發展段階にあることだけを指摘しておく。これはある地方では均衡の新たな諸條件を作り出してゐると共に、他の地方では既に築かれてゐた全支柱をぐらつかしてゐる。前者にも後者にも資本主義經濟の矛盾性がつきりと現はれてゐる。アメリカ農業が新條件に適應する過程によつて作り出された矛盾はまた現在のアメリカ農業恐慌の重要な内容である。

殘餘の穀物 吾々はあらゆる殘餘の穀物の状態をも同様に比較的詳細に分析する可能性を持たない。だからやゝ急いで觀察するが、それで満足しやう。

四つの穀物——ライ麥、玉蜀黍、大麥及び燕麥——のうち、戦前まで或る重要性を持つてゐるのが玉蜀黍及び大麥の輸出である。燕麥の輸出上の役割は比較的重要でなかつたし、ライ麥の輸出は問題でなかつた。量的關係から見て、これらすべての穀物の輸出は一九〇九——一九一三年の戦前五ヶ年には小麥輸出の半分よりやゝ少なく、一方玉蜀黍の輸出の比重は壓倒的であつた。(小麥の一億三百二十萬ブッシェルに比して五千三百三十萬ブッシェル)。玉蜀黍の輸出は三千八百七十萬ブッシェルに達したが、アメリカ玉蜀黍生産に於けるこの輸出の重要性は取るに足らぬものであつた(一・四%)。燕麥については、輸出の割合はもつと少く(〇・四%)、大麥の輸出は生産の四・四%に當つてゐるが、ライ麥は二・五%であつた。記録的な一九二二年にはこれらの四つの穀物輸出は二億五千七百萬ブッシェルといふ數に達し、殆んど小麥の輸出額(二億六千二百二十萬ブッシェル)に匹敵した。右の年度には玉蜀黍生産の五・八%、燕麥の一・八%、大麥の一八・六%及び非常に發達したライ麥國內生産の約半額(四八・六%)が國外市場に投げ出された。價格下落は最近年の玉蜀黍の輸出を戦前の水準にまで低下させた。一九二六年には僅か全生産の〇・七%が國外市場に投げ出された



に過ぎない。燕麥について言へば、その輸出割合が全生産の一・二％に當つてゐた。これに反して、大麥及びライ麥の輸出は非常な安定を示した、このことは戦争まで世界市場のこの領域を牛耳つてゐた東ヨーロッパの（この生産物についての）輸出能力の減退に直接な關係を持つてゐる。最近數年間に大麥生産の一〇——一五％を下らない部分とライ麥の約四〇——五〇％が外國に輸出された。一九二四年には全ライ麥生産の七六・七％、一九二五年には二七・七％、一九二六年には五三・二％が輸出されたが、一九二七年には約六〇％も輸出された。ライ麥生産は世界市場の状態と世界の價格水準とに完全に依存してゐる。これに反して飼料用穀物——玉蜀黍、燕麥及びいくらか少ない程度で大麥——は全然國內市場の供給を目當てにしてゐる。これらの穀物は自國の牧畜、家禽業及び酪業の基礎である。

技術的栽培物 吾々は基本的な工業用原料生産物のうち、アメリカ棉花業の状態についてより詳細に論及しやう。棉花の收穫價額は一二—一三億弗と決定することができ、これは、全農業生産額の約一〇％に當つてゐる。棉花輸出のアメリカの農業輸出價額に於ける比重について言へば、戦前五ヶ年間に對して五三％あまりと決定し得るだらう。成程、戦後棉花の輸出の割合はいくらも減少した、しかし依然としてそれは四四—四五％と言ふ巨大な數字を現はしてゐる。イギリス資本の全努

力があらゆる方策でインドやイギリスのアフリカ植民地やイギリス資本の利益範圍内にある諸國（南アメリカ）に於ける棉花生産の増大を刺戟してゐるにもかゝらず、小麥世界市場は従前通りアメリカ資本の統制下にあるのだ。

アメリカ棉花業の動態を特徴付ける基本的統計は次の通りである（次頁の表を参照）。

棉花業について吾々は輸出數量の安定性の下で國內消費の着實な増大といふ畫面を持つてゐる。一九二六年までの棉花作付の増大はアメリカの紡績業の着實な發達の結果としての世界價格水準の上昇によつて刺戟されたのである。この消費は一八八六年から一八九五年に至る十年間の平均二百四十七萬三千捆であり、次の五年間即ち一八九五年乃至一九〇〇年には三百四十五萬五千捆に増加し、一九一三年に至つて五百九十四萬三千捆といふ水準に達したが、一九二四年乃至一九二八年の間には七百萬捆強に増加した。一八九六年乃至一九〇〇年にはまだ國內市場では皆で國內棉花生産の約三分ノ一しか消費しなかつたが、現在は國內市場が生産の五〇％を消費してゐる。しかし若しこの過程が世界市場の影響からの決定的解放を意味するともいふならば、やはり次のことは斷乎として強調しなければならない、即ち世界市場の權力が現在でもアメリカの農民に棉花業者の運命を決定する重要な決定的要因であること、この状態はなほ非常に長い時期に亘つて不可避的に保持



されること。棉花生産者が受取る価格はニウヨーク棉花取引所の相場に最も密接に依存してをり、ニウヨーク棉花取引所はまた世界資本主義經濟の景氣バロメーターの些細な變動にも反應するのである。一九二六年に於ける國內消費の巨大な増加はヨーロッパ消費の相對的局限性の結果生じた價格激落からアメリカ棉花業を救済するものではなかつた。

合衆國棉花經濟の動態（一八九六年乃至一九二七年）

年	作付面積 百萬ヘクタール	一エーカー の收穫度 英ポンド	生産 百萬担(棚五 〇〇ポンド)	農場 價格 一英ポンド 當りセント	ニウヨ ク價格 一英ポ ンド當り	輸出 百萬担	生産に 對する 輸出の 比率
一八六一—一九〇〇	二四・四	一九三・三	一〇・〇	七一	七六	六・八	六八・〇
一九〇一—一九〇五	二七・九	一八四・八	一〇・八	九〇	一〇・四	七一	六五・七
一九〇六—一九一〇	三一・四	一〇〇・三	一一・八	一一三	一二・五	七八	六六・一
一九一一—一九一五	三五・一	一九三・〇	一四・〇	一〇二	一一・五	八・六	六一・四
一九一六—一九二〇	三九・九	一六三・二	一一・八	二四・九	二七・六	五・六	四七・五
一九二一—一九二五	三七・六	一四六・四	一一・五	二二・二	二四・三	六・七	五八・三
一九二六—一九二七	四七・一	一八二・六	一七・六	一〇・九	一五・二	一一・二	六三・六

一九二七	四〇・一	一五四・五	一二・八	一九・六	—	七八	六一・七
一九二八	四五・三	一五一・八	一四・三	一八・〇	—	—	—

それ故にアメリカ棉花業はヨーロッパ資本との利害關係が特に目立つて交錯する點なのである。アメリカの民主黨は南方の農民棉花業者と彼等に金融の便を與へる銀行資本とに著しい程度で依據してゐるのであるが、同黨の全外交政策は著しく棉花輸出の利益によつて支配されてゐる。殊にはつきりこのことが示されてゐるのは、民主黨の選舉綱領の條項であつて、そこには國際負債問題、即ち賠償金問題とまたアメリカの對ヨーロッパ資本輸出の問題との解決方法が見受けられた。アメリカへのヨーロッパ負債の決済のヨリ寛大な條件及びヨーロッパ市場に對するより『自由主義的』な信用政策とは戰爭の攪亂からヨーロッパ工業を一層急速なテムボで再建させることを助けねばならなかつた。これに反して、この問題に關する共和黨の政策はヨーロッパの金融に強い壓迫を加へてヨーロッパの精工業の世界市場に於ける競争能力を殺滅しやうと努める。だからアメリカの對ヨーロッパ資本輸出は二重の影響を持つてゐる。それが貸付資本の性質を持つ限り、アメリカの資本輸出は貨幣市場の安定を助け、アメリカの食料品及び工業原料に對するヨーロッパ市場の購買力の擴大を可能にする。だがアメリカの對ヨーロッパ資本輸出の著しい部分がヨーロッパ工業の決定的部

四 アメリカ合衆國に於ける農民恐慌



門への金融に向けられてゐる限り、この輸出はヨーロッパ精工業に對するアメリカの資本の統制の擴大といふ最後の目的をもたなければならぬだらう。このヨーロッパ精工業のアメリカ工業資本による融資はアメリカの農業輸出の利益によつて決定されず、アメリカ工業輸出の利益と工業資本の國際的利益によつて決定されるだらう。

最近二三十年間のアメリカ合衆國經濟發達史はアメリカ金融資本の政策が農業輸出ではなく工業輸出の利益に適應しやうとするひたむきな、鋭く表現された傾向を示してゐる。同國の支拂差額の構成は戰後急速に變化し、工業の輸出超過とアメリカ金融資本が外國に融通した資本の利子として世界の隅々から來る莫大な利子とがその中で支配的意義を得た。アメリカが外國から輸入した生産的消費の對象（レール、蒸氣機關、機械）への支拂やヨーロッパから輸入した資本を使用するに要する支拂のための重要な源泉が農業輸出の超過分にあつたといふ日はとうの昔過ぎてしまつた。同國農業輸出の貿易差額に於ける比重は明かに減少への傾向を示してをり、しかも工業輸出の重要性は非常な速度で増加してゐる。これに反して、アメリカの工業が急速なテムポで發展したことが、また國內市場が急速なテムポで擴大したことはアメリカの農業的食料及び原料生産物輸入の著しく促進的な發展過程を條件付けたのである。この過程を説明するために吾々は次の表を掲げる、これは

アメリカの農業生産物の輸入動態とこの輸出入の輸出入總額に於ける比重を示してゐる。

合衆國の農業生産物外國貿易

年	輸出		輸入		木材品	
	百萬弗	總輸出に對する%	百萬弗	總輸入に對する%	輸出 百萬弗	輸入 百萬弗
一八五七—一八六一	二二五・七	八一・一	一一三・〇	三八・二	一〇〇	六・九
一八六七—一八七一	二五〇・七	七六・九	一七九・八	四三・三	一一・八	一四・八
一八七二—一八八二	五九一・四	八〇・四	三六六・四	五〇・四	一七・六	二二・〇
一八八七—一八九一	五七三・三	七四・七	三六七・〇	四三・三	二六・〇	三九・六
一八九七—一九〇一	八二七・六	六五・九	三六六・六	五〇・二	四六・〇	五三・三
一九〇七—一九一一	九七五・四	五三・九	六三四・六	四五・二	八八・八	一三七・一
一九二二—一九二六	一、二五六・五	四五・一	九三四・七	五〇・一	九三・一	一八五・四
一九二七—一九三一	二、八五九・六	四三・七	二、九七三・七	五六・一	一三〇・三	三六〇・六
一九三二—一九三六	二、四七二・四	四〇・七	二、一六八・八	四八・四	一六九・五	五三六・五
一九二六—	一、八九一・八	四〇・七	一、九一八・三	四三・〇	一六二・七	八四八・五

四 アメリカ合衆國に於ける農民恐慌



一九二七	一九〇七・九	三九・二	一、九六・二	四八	一七三・九	六三・一
一九二八	一、八八・〇	三六・八	—	—	—	—

南北戦争の前夜、一八五七—一八六一年には合衆國はヨーロッパ、正しく言へばイギリス資本主義の本質に於て典型的な農業背景國であつた。合衆國はイギリスに農業食料品を供給し、有利な投下を求めるイギリスの餘剰資本にとつてすばらしい領域として役立つてゐた。南北戦争終息後始つた急速な工業化過程、殊に前世紀の九十年代の末葉から世界戦争開始に至るまでの期間は、農業輸出額の絶對量が二倍以上も増加したにもかゝらず、農業輸出の比重を一八七七—一八八一年の五ヶ年間平均八〇・四%から一九二二—一九二六年の平均四五・一%に低下させた。同期中に農業生産物の輸入は二億六千六百萬弗から九億二千四百萬弗に増加したが、これは約三倍半の増加を意味してゐる。戦時及び戦後アメリカ經濟の構成的變化の結果、状態は一層鋭く變化した。一九二六—一九二八年には農業輸出の割合が四〇%またはそれ以下にも低下し、初めてこの輸出額が農業輸入額以下に落ち込んだ。アメリカ合衆國は全世界から農業的工業原料及び若干の食料生産物の輸出が向けられて來る中心點をなしてゐる。同國はマライ半島の護謨、日本の生糸、玫瑰の砂糖、ブラジルの珈琲等々の重要な市場となつてゐる。合衆國の貿易差額の事實上の受取超過は現在工業輸

出が與へてゐるのだ。

アメリカ農業の世界市場に於ける地位と言ふ問題に答へるためには、戦前戦後の世界市場に於ける合衆國の役割についての統計をも掲げなければならない。紙幅に制限があるからこゝでは小麥及び棉花世界市場の領域に於ける重要なモーメントだけに限る。

世界小麥市場に於けるアメリカ合衆國の意義を特徴付ける根本的特徴は最も壓縮された形態で次の表に歸着する。

世界の小麦市場に於ける合衆國の比重

一九〇六一 一三年平均	一九二七年	一九二八年
----------------	-------	-------

世界生産	一九〇六一 一三年平均	一九二七年	一九二八年
億磅	一、〇三六・六	一、二七一・五	一、三五五・二
一九〇九—一三年に對する%	一〇〇・〇	一二三・九	一二一・九
合衆國の生産			
億磅	一八七・八	三三九・一	三四五・七
一九〇九—一三年に對する%	一〇〇・〇	一七三・三	一三〇・八

四 アメリカ合衆國に於ける農民恐慌



生産の割合

世界生産に對する合衆國(%) 一八・三

三〇・四

一九・六

世界の輸出(6)

億磅..... 一四・八

一九四・一

二〇〇・二

一九〇九—一三年に對する%..... 100

合衆國の輸出

億磅..... 一四・五

四八・八

二六・二

一九〇九—一三年に對する%..... 100

合衆國の輸出割合

世界輸出に對する(%)..... 100

三三・六

一三・一

(6) 穀粉を除いて穀物輸出のみ。

かくて吾々は、アメリカ合衆國に於ける小麦生産の増大がどの世界經濟よりも最も急速であり、正にそれ故に合衆國の世界生産に於ける比重の増加が起つたことを知るのである。しかし既に最近

はこれについて非常に重要な修正が行はれた。一九二八年には世界小麦生産に對する合衆國の割合は一九二七年の二〇・一%に比べて一九・六%に低落した、なぜならば最近の世界生産の擴大テムボはアメリカ合衆國のそれよりも急速だつたからである。しかし最近世界小麦輸出が増加し、その水準は戦後五ヶ年に比べて著しく高いにもかゝらず、アメリカ合衆國は戦前及び戦後第一年に到達した限界を保持することができなかつたが、それにしてもなほ小麦輸出者としてのその重要性を著しく高めることができたのである。この世界市場に於けるアメリカの地位の強化は可成り高い犠牲——小麦經濟の利潤率の低下——によつて購はれたのである。

世界棉花市場に於ける合衆國の役割は次の表に掲げられた統計がこれを説明してゐる。これらの數字は小麦輸出について前に示されたと同様なモーメントを特徴付け、且つ發生した變化の一見明瞭な圖表を與へてゐる。

世界棉花市場に於ける合衆國の比重

一九〇九—  
一三年平均

一九二七年

一九二八年

世界生産

億磅..... 四七・六

五一・五

五五・〇

四 アメリカ合衆國に於ける農民恐慌



一九〇九—一三年に對する%	100.0		
合衆國の生産			
億磅.....	二八.三	二八.一	三.四
一九〇九—一三年に對する%	100.0		
生産の割合			
世界生産に對する合衆國(%)	五.五	五.六	五.一
世界の輸出			
億磅.....	二八.二	三二.五	三二.五
一九〇九—一三年に對する%	100		
合衆國の輸出			
億磅.....	二〇.〇	三.二	二〇.八
一九〇九—一三年に對する%	100		
世界輸出に對する合衆國輸出の割合(%)	七〇.九	五〇.五	六六.〇

近年生産の點でも輸出の點でも合衆國は世界經濟に比べて發展のテムボが遅い。この根本原因は害虫の蔓延と關聯する豊度の低下(これが作付面積擴大のテムボと生産量との間の不釣合を招來した)、また一九二六年の低い棉花價格及び國內消費の増大である(國內消費の増大については前に成り詳細に論述した)。正にこの事情こそ、近年例外なくあらゆる穀物に對して生じた價格水準よりも相對的に高い價格水準を世界棉花市場で維持する可能性をアメリカ農民に與へたのである。

吾々のアメリカ農業輸出状態の分析は最も壓縮した形態で次の基本的結論に導くことができる。

一 全體を取つて見ると、アメリカ農業は毎年益々國內市場への依存を深めてゐる、國內市場の擴大はたゞ比較的急速な工業の發展速度を反映するに過ぎない。アメリカの對内外政策の根本的動力は現在大工業資本の利害圈内にある。農民と彼等を擁護し、農業輸出に融資する或る一部銀行資本との輸出利益はアメリカ經濟の構成的再編成の壓迫によつて第二義的なものとして背後に引き下つてしまつた。

二 その國內市場への農業復歸過程は農業のあらゆる部門で平行しては行はれ得ない。この傾向は牧畜生産及び飼料用穀物生産で殊に強力である。これに反して、廣汎な人口層の榮養豫定表の變化、即ち肉類及び酪業生産物のより多量な消費への移行は小麥消費の相對的減退を招いた。食料生

四 アメリカ合衆國に於ける農民恐慌



産問題は國內市場では近々のうちには解決出来ない問題だ。正にそれ故にアメリカ食料用穀物輸出の運命は目下のところ世界市場の發達とこの景況とに非常な程度で依存してゐるのである。

三 アメリカ農業の世界市場に對する最も強い依存性は技術的及び工業的栽培物の生産の領域で示されてゐる。自國工業の棉花消費の増大にもかゝらず、價格形成的要因は今日まで世界經濟の全景況によつて決定されてゐる。やゝ微弱な形態ではあるが同じことは煙草についてもいふことができる。アメリカ農業のこの部門は永い間アメリカ輸出の重要な部門として存在するであらう、そしてアメリカ煙草業及び棉花業の輸出利益はなほ永い間ヨーロッパとアメリカの經濟的相互關係上決定的役割を演ずるだらう。

#### 四 農民生産物の價格運動

世界農業及びアメリカ農業に於ける根本的な構成的變化の分析は以上で終つたから、戦後の農業價格運動の分析に進むことができる。この研究はまた、一定の商品群の相對的價格水準の激變が資本主義經濟の諸條件の下では自ら國民的収入の不可避的な再分配を招き、またあらゆる根本的生產要因を新價格水準に適應させ様とする努力を生まねばならない限り、現在のアメリカ合衆國農業恐慌の直接的顯現を暴露する點で吾々を援助しなければならぬ。

アメリカ合衆國に於ける價格問題の本質は、アメリカ農民の見地から見ると、次の様な彼等にとつて極めて本質的な事情のなかに現れてゐる、即ちこの農民は彼の消費する工業生産物には關稅によつて獲得されたアメリカ國內市場の高い價格を支拂はねばならぬにもかゝらず、農場で彼の生産する生産物には低い世界市場價格を受取るといふ事情のなかに。アメリカ農民經濟は商品資本主義經濟の殆んど純粹な典型であり、その全生産の七五%を下らない部分を市場に持ち出すのであるが、彼等にとつて工業生産物と農業生産物との間のあらゆる不利益な價格關係は農場企業の収益性の不可避的減退と彼等の勞賃の低下、投下資本に對する受取利子の低落、地價の下落を意味しなければならぬ。以下吾々は右に述べたあらゆる生産要素に起る變化の量的性質を示さう。

戦後の合衆國に於ける價格變動を説明するためには、アメリカ農務省が算定し、その月次出版物で規則的に公表するところの所謂農業生産物の價格指數と農民の購買力指數とを利用することが最も教示深い。勿論この指數は完全な正確さと徹底的な完全さとを要求することができない。しかしそれは規則的に測定されるといふ優越性を持つてをり、従つて動的系列を比較すればとにかく一定の期間内に生ずる變化の性質を曝くに違ひないのである。次に掲げる數字は一九二九年の『農業狀態』十一月號から取つたものである。

#### 四 アメリカ合衆國に於ける農民恐慌



一九二〇——一九二九年の合衆國に於ける價格運動と農民の購買力（一九二〇年八月—一九二四年七月—一〇〇）

年	農民生産物(三十品)の總價格指數		農民が購買する生産物の價格指數		農民が賣買する價格指數の比	
	一	二	三	四	二對三	三對二
一九一〇	100	100	100	100	100	100
一九一三	100	100	100	100	100	100
一九一九	109	109	105	102	102	102
一九二〇	105	105	106	99	99	99
一九二一	116	116	116	75	75	75
一九二五	147	147	159	92	92	92
一九二六	136	136	156	87	87	87
一九二七	131	131	154	85	85	85
一九二八	139	139	156	90	90	90
一九二九	138	138	155(7)	89(7)	89(7)	89(7)
一九二九年一月	133	133	155	86	86	86

七月	140	155	90
九月	141	155	91
十月	140	155(7)	91(7)
十一月	136	155(7)	88(7)
十二月	135	155(7)	87(7)

(7) 暫定數。

一九〇九——一九一四年の戦前五ヶ年を基礎に取り、アメリカ農民の購買力運動を観察すると、吾々は戦後の動態の極めて獨特な特殊性にぶつかると。戦時及び戦後の最初の年即ち一九一五——一九二〇年の價格水準の不斷に昂騰しつゝあつた時期には、この昂進が大體工業でも農業でも平行して行はれてゐる。一九一九年に近い頃には農民の購買力は、それが農民消費商品價格に對する農民生産商品の價格指數關係によつて與へられる限りでは、戦前の水準と比べて上騰さへした。一九二一年の恐慌は農民經濟に殊に兇暴な打撃を與へた。この年には農民指數は一一六に低下し、工業指數は一五六であつた。この指數關係は農民に都合悪く激變した(全部で二四ポイントも)。一九二二乃至一九二五年の時期はアメリカ農業の慢性的恐慌といふ標識の下を經過した。しかし生産量の



減少は次の事情を招致した、即ちこの期間には工業指數が僅かに三ポイントしか上昇しないといふのに、農民の價格指數は一六から一四七に、つまり三一ポイント方も上昇した。一九二五年はヨーロッパの不作が影響してアメリカ農業恐慌がやゝ緩和された時代であつた。しかし次の時期一九二六——一九二八年には再び農業價格の低落、農民購買力の低下といふ標識の下を通過した。なぜならば工業價格はこの期間に比較的取るに足らぬ動搖を示してゐるからである。一九二九年には購買力指數が一九二五年の九二に比べて八五に低下したことが分る。一九二八年の昂騰は同年末の新たな可成りの價格激落と交代してゐる。一九二九年一月購買力指數は八六に低下してゐる、たゞアメリカ合衆國自體及びカナダの不作豫想の影響、アメリカ工業の高い景氣昂進と關聯して牧畜及び園藝生産物の價格上昇は漸次農業生産物指數を一四一（一九二九年九月）の水準にまで導いてゐる。それでもやはり工業商品指數（一五四）よりも非常に低い。この場合確信を以つて言へることは、始まりかけたアメリカ工業の景氣悪化と關聯してアメリカ農民の總購買力指數は一九二九年には一九二八年よりも低いだらうといふことである。

しかしながら破局的價格慘落がアメリカ農業の全部を一樣に襲つたと考へてはならない。農業經濟の個々の部門の状態について前に分析したことから勿論それは自明のことである筈だ。吾々は次

表で個々の部門によつて差異ある状態を數字的に表現する。

農民生産物の價格指數（一九〇九年八月—一九一四年七月—一〇〇）

年	穀物	生産的 家畜	酪業生 産物	小麥業の 生産物	棉花及び 棉花種
一九一三.....	九三	一〇八	一〇〇	一〇一	九七
一九二〇.....	三三	一七三	一八	三三	二四
一九二一.....	三三	一〇八	一四	一六一	一〇一
一九二二.....	一〇五	一三三	一四	一三九	一五
一九二五.....	一五	一三九	一七	一六一	一七
一九二七.....	三六	一三九	一三	一四一	一六
一九二八.....	三〇	一五〇	一四〇	一五〇	一五
一九二九.....	三三	一五	一四〇	一五九	一四
一九二九年一月.....	二五	一四六	一四	一六一	一四
九月.....	三三	一五	一三	一六五	一四
十月.....	三六	一五二	一四	一八一	一四

四 アメリカ合衆國に於ける農民恐慌



十一月……………	二八	一九	一四三	一〇〇	一三三
十二月……………	二九	一四	一四〇	一〇四	一三〇

一九二〇年で最大の價格急騰を、その價格形成が主として世界經濟情勢の諸要因によつて決定されてゐるやうな生産物について見る事ができる。その市場が根本に於いて國內に存在する生産物は極めて大きい安定性を示した、例へば家畜、酪業生産物等これである。一九二一—二二年に現れた破局的價格慘落はまたもや基本的輸出商品に特に鋭く反映した。穀物の價格水準は一九二〇年には戦前の水準よりも二三一%も高かつたが一九二二年には僅か一二%高く、一九二二年にはたつた五%しか高くなかつた。一九二〇年に近く棉花の價格水準は戦前五ヶ年の平均水準にまで低下した。それに反して酪業生産物の價格水準は決して二三以下には下らなかつた。同一のことは家禽業生産物の價格についてもいひ得る。やゝ例外なのは一九二一—二二年の家畜の價格運動である。しかし次の全期間にはそれがたとへば穀物や棉花すらよりも頗る大きい内部抗争の力を示してゐる。前者の指數は一九二七年一二八まで低下し、一九二九年一月近くには一一五といふ未曾有の低水準まで低落した。棉花の價格は一九二六年と一七二七年には一二二及び一二八の水準に保たれてゐた。農業生産物と工業生産物との價格の不均等の問題は本質的には特に戦後の問題といふ譯ではな

い。この不均等はたゞ資本主義的生産様式に特有な工業と農業との發展速度の不均等を物語るものだ。工業が、専ら國內市場の充足を目當てとして行はれるといふ資本主義發展の一定段階に於いては、工業價格の變動はその初期には殆んど専ら工業の食料及び原料の基礎であるところの農業の景氣を著しい程度で反映するものである。工業の國內市場からの解放と外國の農業的工業原料及び食料品原料の輸入への移渡とは工業發展の初期に確立された相互關係を破壊する。農業自體は工業の發展速度に依存するに至るのである。

かくて現實の價格運動は相互に關聯し合ひ、相互に條件付け合ふ無數の多種多様な要因の運動の相錯綜する結果である。大戰までアメリカ合衆國に於ける商品價格の一般的發達は農業價格の特に急速な上騰といふ特徴を持つてゐた。一八九六年から一九一三年に至る十八年の期間を取つて見ると、吾々は一般物價指數が年に二・三%しか騰貴しないのに、農業價格は年平均三・四%の騰貴であつたことを認め得る。一般物價指數はこの期間に、アメリカ勞働局の統計によると、六六・七から一〇〇に上昇した。同一期間に農民商品は五五・〇から一〇〇に増加したのだ。かくて一般に商品價格はかなり激しく昂騰してゐる。だがアメリカ經濟が一九二一年の恐慌の後を受けて比較的好轉した一九二二—一九二七年の六年間といふより短い期間を取つて見ると、この一般的昂進期に疑もな



く價格低落の傾向を見るのである。最近公表された二卷から成る委員會の報告中にあるのだが、合衆國に於ける戦後の價格運動問題の特殊研究の統計によると、一九二二—一九二七年に於ける物價指數の年平均低落は〇・一%と決定されてゐる。この場合特徴あることは、この低落が専ら非農産業産物の價格低落(年平均一・八%)によつて條件付けられてゐたことである。

一九二〇—一九二二年の農産價格の激落は次の數年間に微弱ではあつたが反對の傾向を惹き起した。價格反騰は年〇・七%と決定されてゐる。勿論このことから農産物と工業生産物の反騰、工業生産物の反落といふ様な價格の反對傾向に關する結論を作つては正しくないだらう。これは單に基本的商品群の價格の内的順應過程を反映するところの表面的現象に過ぎない。この問題についてはもつと長い期間に亘つての多數の商品指數を比較すればいくらか明確な觀念を得ることが出来る。

一八一〇—一九一三年には特別に猛烈な價格激落が農民生産物と食料生産物とを襲つた。殊に一九一六年から始つて群指數の動態を注意深く比較して見ると、容易に次のことが分る、即ち農産價格については直線的に發展して來たところの全然一樣な昂騰傾向を確認することができる。さらにはつきりとした確信を以つて次の様に言ふことができる、殘餘の商品群の價格昂騰傾向は農産物と工業生産物の價格水準の上昇に對する反應に過ぎないと。戦後の物價運動は、吾々が前述した通り、正反

對の傾向を示してゐる。農産指數は前進しないで、一般的物價運動の遙か後方にある。この點にアメリカの農業と工業との戦後の發展の深刻な不均等が現れてゐる。それはまた各基本的經濟領域内の個々の商品の矛盾撞着した價格運動にも現れてゐる。アメリカ資本主義に於ける恐慌の諸モメント—一般的恐慌のであつて、部分的恐慌ではない—の成熟は就中殊に明瞭に金屬の價格指數の相對的低落に示されてゐる、これは生産手段生産の擴大の比較的緩慢なテムボ、事實上の蓄積テムボの緩慢化の反映である。

一八九〇—一九二八年の合衆國に於ける物價運動(8)

(一九一三年=100)

年	一般指數	農民生産物	食料生産物	衣服	金屬	建築材料
一八九〇	八〇・五	六九・八	六六・四	九四・九	一一五・九	八一・九
一八九六	六六・七	五五・〇	六六・七	七五・八	七六・四	六八・五
一九〇一	七九・三	七三・六	六六・六	八一・〇	一〇三・五	六八・一
一九〇六	八八・六	八〇・三	八三・二	六九・二	一二三・八	九三・二
一九一一	九三・〇	九三・〇	六六・五	九五・八	八九・〇	九七・六

四 アメリカ合衆國に於ける農民恐慌



一九一六	一三・八	一三・八	一三・二	一七・〇	一六・八	一三〇・三
一九二〇	三三・二	二二・九	二九・七	二五・五	一九・七	三六四・一
一九二一	一四・九	一三・七	一四・〇	一七・五	一九・〇	一六五・四
一九二六	一五・〇	一四・三	一五・九	一七・九	一六・七	一七三・四
一九二七	一四・八	一四・五	一四・九	一七・二	一三〇・三	一六三・六
一九二八	一四七・四	一五〇・四	一五四・一	一六九・六	一三六・二	一六三・五
一九二九	一四四・八	一四八・九	一五三・六	一六五・〇	一三三・三	一六八・四

(8) 勞働局指數。

五 農民收入の動態と構成

吾々は前に一九二〇—二一年に於ける農民經濟生産物の價格下落が工業商品の價格下落よりもずつと激しかつたことを示した。一般指數に比べて低い農民物價水準は不可避的に最も破壊的な形態で農民經濟の收入に、また同國の國民總收入に對する農民經濟の比重に影響しなければならなかつた。毎年雜誌『收穫と市場』に發表される美事に作成されたアメリカ農務省の統計は戦後の農民收入額に起つた諸變化について一般的概念を與へることができる。

總生産額は最悪の恐慌年度には、アメリカ農民にとつて最も有利だつた一九一九—二〇年經濟年度に比べて五〇%も低下した。一九二四—二五年から尖鋭化する恐慌は慢性的不況と入れ代つた。戦後十年の後半は〔生産〕總額が百六十五億弗と百七十二億弗の間を比較的少く變動して過ぎ去つてゐる。アメリカ農民經濟の高い商品性はあらゆる盲目的市場變動に對するその特殊な經濟的感受性を條件付けてゐるのだ。一九二一—二二年には總貨幣收入額が七十一億弗といふ低い限りに達してゐるが、その翌年には或る上昇を見、それが一九二五—二六年に總貨幣收入は百一億弗に、即ち四三%増加した。主として世界棉花價格の低落と關聯して一九二六—二七年には状態が僅かに悪化した後、翌年收入はやゝ好轉を示したが、やはり一九二六—二七年よりも一層低い水準にあつた。

一九一九—二〇年乃至一九二八—二九年に於ける農民經濟の總生産と總收入

(單位十億弗)

經濟年度	總生産額	飼料、種子等の價額	總收入		總收入に對する貨幣總收入の%	
			合計	農場に於ける食料生産物及び消費對象の價額		
一九一九—二〇	三四・〇	八・三	一五・七	二・九	一三・八	八・五

四 アメリカ合衆國に於ける農民恐慌



一九二〇—二一	一七・八	五・一	一三・七	二・六	一〇・〇	七・七
一九二一—二二	一三・九	三・七	九・二	二・一	七・一	七・二
一九二二—二三	一四・九	四・五	一〇・四	二・二	八・二	六・八
一九二三—二四	一六・二	五・〇	一一・三	二・四	八・九	六・八
一九二四—二五	一七・一	五・一	一二・〇	二・三	九・七	八・〇
一九二五—二六	一七・〇	四・三	一二・七	二・五	一〇・一	七・五
一九二六—二七	一六・五	四・四	一二・一	二・六	九・五	六・五
一九二七—二八	一七・二	四・八	一二・三	二・四	九・九	八・五
一九二八—二九	一七・一	二・六	一二・五	二・六	九・九	七・二

吾々は農民經濟の純收入の動態を分析するに先立つて、アメリカ農業の重要な部門に於ける總收入の運動についてなほ數言を費さなければならぬ。なぜならば吾々はアメリカ農業の特殊性の結果全體の運動なるものが單にその個々の部門の非常に多種類の矛盾した運動の合計に過ぎないといふことを忘れてはならないからである。

農民經濟の總收入の構成（單位十億弗）

年	穀物	生産的家畜	果實及び蔬菜	棉花及び棉花種	酪業及び家禽生産物	其他	合計
一九一九—二〇	三・〇	三・三	一・七	二・三	三・六	一・八	一五・七
一九二〇—二一	二・三	二・三	一・七	一・三	三・五	一・六	一三・七
一九二一—二二	一・三	一・九	一・四	〇・八	二・九	一・〇	九・二
一九二二—二三	一・四	二・二	一・五	一・六	三・三	一・三	一三・三
一九二四—二五	一・六	二・九	一・五	一・五	三・六	一・二	一三・三
一九二六—二七	一・五	三・〇	一・四	一・五	三・八	一・二	一三・五

この統計は、吾々が前にアメリカ農業輸出と輸出價格運動を分析した際、どの程度まで農民經濟の個々の部門が恐慌の被害を蒙るかといふ問題について作つた結論の正當さを確證するものだ。穀物生産の總收入は高景氣の一九一九—一九二〇年の額の約五〇％に當つてゐる。牧畜の收入は九〇％の高水準に達し、しかも酪業經濟及び家禽業の收入は一九一九—一九二〇年の記録の水準を突破した。この表は、根本に於て牧畜と家禽業にその經濟の基礎を置くところの農民の經濟狀態が一時改善されたといふのにアメリカ經濟は恐慌狀態にあつたことを見事に説明するものとして役立つことができる。

四 アメリカ合衆國に於ける農民恐慌



さて總收入の分配と利用並びに農民の總收入の動態を考察しやう。  
全農民支出は次の表に發展した形態で示されてゐる。

一九一九—二〇年乃至一九二八—二九年の農民收入の分配 (單位十億弗)

年	全總收入	雇傭勞働への支拂	生産用支出	租稅	賃借料支拂 (農民へに非ず)	利拂 (農民へに非ず)	農場で消費された食料及燃料	其他の必要を充すための貨幣收入
一九一九—二〇	二五・七	一・五	三・三	〇・三九	一・七	〇・六	二・九	五・一
一九二〇—二一	二二・七	一・七	三・七	〇・五五	一・四	〇・九〇	二・六	一・八
一九二一—二二	九・二	一・一	二・四	〇・五八	一・〇	〇・八四	二・一	一・二
一九二二—二四	二・三	一・二	二・八	〇・六三	一・〇	〇・七七	二・四	二・五
一九二六—二七	二・二	一・二	三・〇	〇・六五	一・〇	〇・七五	二・六	二・九
一九二七—二八	二・三	一・二	三・〇	〇・六	一・〇	〇・七五	二・五	三・二
一九二八—二九	二・五	一・二	三・一	〇・六	一・〇	〇・六	二・六	三・一

農民經濟——これは百パーセントに資本主義的形態の經濟である。農民は市場生産をなす工業的企業の例に倣つてその經濟を指導し、しかも工業商品の大消費者であるばかりでなく、また彼は萬

事資本主義的に物を考へてゐる。勞賃の支拂その他生産的支出 (機械の償却、肥料代、固體液體燃料、その他種々の補助材料) を差引いた殘餘の相對的純生産は次の様に分配されてゐる。農場及び建物所有者に支拂ふ賃借料は總收入の九・八%と決定されてゐる。總收入の約六・五%は農民の高利貸及び個人的負債の利拂ひとして銀行資本のふところに入る。總收入の約五%強は租稅の形態で國家——聯邦政府及び州——に取られてしまふ。僅かに前表及び前々表に掲げられた合計が農民の事實上の總收入である。この總收入は農民の損益表の中で次の三つの部分に分割されなければならぬ、即ち農民の前貸資本の利子、企業利潤及び農民とその家族の勞賃。しかしこの農民收入の要素を分析する前に、豫め農民經濟の基本的支出項目をやゝ詳細に分析する必要がある。

前述の各項目の總支出に於ける比重は最近十ヶ年間に次の様に變化した (總收入額に對する%で。次表参照)。

純收入は總收入額の約四三——四五%に當つてゐる。しかもこの部分は近年自己の農場で生産された生産物の農民消費と買入消費用生産物との間に殆んど均等に分配された。農民は總收入の約一五%を地代として地主に、利子を銀行信用に支拂つてゐる。雇傭勞働への支拂及び種々の生産的支出は總收入額の三分ノ一以上を吸收する。

四 アメリカ合衆國に於ける農民恐慌



年	雇傭労働への支拂	其他の生産的支出	租税	賃借料	負債の利息	農場で消費されたもの	其他の必要を充すための貨幣收入
一九一九—二〇	九・五	二一・〇	二・五	一〇・九	五・〇	一八・四	三三・七
一九二〇—二一	一三・九	二九・一	四・三	一一・〇	七・一	三〇・九	一三・九
一九二一—二二	一〇・七	二四・五	五・五	九・二	六・八	三〇・九	三三・四
一九二二—二三	一〇・二	二四・六	五・三	八・六	六・三	三三・三	三三・八
一九二四—二五	一〇・〇	二四・〇	五・三	八・五	六・一	一九・八	三三・三
一九二六—二七	一〇・〇	二五・一	五・三	八・四	六・一	二〇・五	三三・八

今や吾々は農民經濟の總收入の分析に入ることができる。アメリカ農業に投下された總資本額は一九二八—二九年に五百八十六億弗と評價された。この額のうち三百二十五億弗は農民自身の資本勘定と見なければならぬ。殘餘の二百六十億弗——これは農民によつて農業に投下された資本ではない。投下資本の利子として使用された總收入の部分は一九二八—二九年に農務省によつて二十七億五千萬弗と決定された、しかも農民投資に對する利拂は僅か十一億九千萬弗に過ぎない。これは、アメリカの農業に投下された資本が年四・七%以上はもたらさないこと、しかも農民の投下部分は僅か三・七%であることを意味する、なぜならば高利貸債務及び個人信用の利子率は實際

は一九二八—二九年に四・七%でなく、六・四%と決定されてゐるからである。吾々は左に戦後數年間の投下資本の運動及び利拂額を示すアメリカ農務省の算定を掲げる。

一九一九—二〇年乃至一九二八—二九年の投下資本とその収益性(單位十億弗)

年	全投下資本現在額	農民投資の現在額	全投下資本に對して	農民投資額に對して	全資本に對して	農民資本に對して
一九一九—二〇	七三・〇	四一・一	〇・四	一・七	〇・五	△四・二
一九二〇—二一	六三・七	三四・六	〇・八	〇・八	一・二	△三・三
一九二一—二二	六〇・四	三三・〇	二・一	〇・五	三・五	一・二
一九二二—二三	五八・三	三二・八	二・五	〇・九	四・三	二・九
一九二四—二五	五八・三	三三・一	二・七	一・二	四・七	三・六
一九二六—二七	五八・三	三三・一	二・七	一・二	四・七	三・六
一九二七—二八	五八・三	三三・一	二・七	一・二	四・七	三・六
一九二八—二九	五八・六	三三・五	二・八	一・二	四・七	三・七

この表では次の諸コメントを強調することが重要である。資本投下の減少は基本的には農民資本の許に起つた、それは四百六十九億弗から三百二十五億弗へ、即ち三分ノ一も減少した。農民が投下したのではない資本額は同期間中に僅か三百二十四億弗から二百六十一億へ、即ち五分ノ一以下

四 アメリカ合衆國に於ける農民恐慌



しか減少しなかつた。こゝで重大なことは、戦時戦後のインフレーション時代から繼承した高利貸その他の負債の重荷が、商品の價格水準の激落、農民經濟の收入及び地價の激落にもかゝらず、依然として農民を重壓し續けてゐたことだ。農民經濟を壓迫する利拂ひといふ負擔の意義は第四段及び第五段目の數字から分る。一九一九—二〇年には全投下資本に對する利子總計五十億三千萬弗のうち二十三億二千五百萬弗は銀行資本の利拂に充當し、多額の合計（二十六億七千五百萬弗）が自己の投下資本に對する利子に該當するものとして農民の占有に歸した。次の二つの恐慌年度——一九二〇——二一年及び一九二一——二二年には利子として農民が餘儀なく支拂ふに至つたのが最初の年度に二十億九千五百萬弗、後の年度には十五億七千二百萬弗である。これはたゞ自分の收入を減ずるといふ犠牲を拂つてのみなし得ることであつたし、況んや農民の投資に對する利子計算を行ふことはとても出来なかつた。反對にこの項目には純赤字が生じたのである。近年はこの状態がいくらか好轉した、しかしやはり酷く不利である。一九二八——二九年には二百六十一億二千二百萬弗といふ銀行及びその他の貸付資本は、農務省の同じ統計によると、十五億六千三百萬弗をもたらした、しかるに三百二十五億三千三百萬弗といふ農民の投資に對しては僅かに十一億九千百萬弗を數へ得るに過ぎない。なほこの點については次のアメリカ農業に投下された資本の個々の範疇によ

る利子動態の比較を掲げることが興味深い。

次表は最近十ヶ年間に於ける全資本と個々の資本範疇とについての利子水準の運動を説明することが出来る。

經濟年度	農業に投下された全資本の利子	高利貸の利子及び負債	貸借料として支拂れた利子	農民投下資本に對する利子(9)
一九一九—二〇	六・三	六・七	八・三	五・七
一九二〇—二一	〇・五	七・〇	七・三	△四・三
一九二一—二二	一・二	六・八	五・七	△二・三
一九二二—二三	四・五	六・四	七・一	三・三
一九二三—二四	四・三	六・三	七・一	二・九
一九二四—二五	四・七	六・三	七・二	三・六
一九二五—二六	四・七	六・四	七・三	三・七
一九二六—二七	四・七	六・四	七・三	三・七
一九二七—二八	四・七	六・四	七・三	三・七
一九二八—二九	四・七	六・四	七・三	三・七

(9) 全生産的支出と農民への賃銀を差引いた殘額。

銀行や利子付資本に農民が支拂ふ利子は近年いづれの年も農民投資への利子の水準よりもずつと高かつた。多くの場合農民投資への利子はゼロにまで低下してゐる。このことは農民資本の農業か

四 アメリカ合衆國に於ける農民恐慌



ら工業または商業への逃避を著しく説明するものである。農民投下資本に對する利子を計上し、これを農民の總收入から差引くと、農民の企業利潤と農民家族の勞賃とを含む残額が出る。農務省は平均的な農民の家庭に對してかゝる組織的計算をしてゐる。最近十年間の結果を比較對照すると合衆國に於ける農民の平均收入の分析にとつて極めて興味ある材料が與へられる。

一 農民經濟の平均總收入の動態 (單位弗)

年	全純收入(資本利子、企業利潤及び農民の勞賃)	一農場當り投下資本の利子(10)	企業利潤と勞賃
一九一九—二〇	一、三四六	三三八	九一八
一九二〇—二一	六八四	三六七	三九七
一九二一—二二	五四	三四三	二七一
一九二二—二三	六八二	三四二	四一
一九二三—二四	七六六	三三三	五三四
一九二四—二五	八五四	三三〇	六三四
一九二五—二六	九三三	三三一	六九一
一九二六—二七	八六三	三三六	六三六

一九二七—二八	八九六	三三八	六六八
一九二八—二九	九〇一	三三三	六六九

(10) 利子は四・五%の水準で計算された。

かくて、若し一定の利子水準に對する資本主義的權利によつて彼に歸屬する收入の部分を特別に圖表中に作るといふ資本主義的精神から農民を引き離すならば、農民の企業家としての收入の合計プラス彼の勞賃及び彼を補助する家族成員の勞賃であるところの收入の殘餘の部分は農業勞働者の平均賃銀水準とあまり變りがないだらうし、工業勞働者の平均賃銀よりは遙かに低いだらう。比較のために吾々は左に平均農民經濟の年収入(投下資本の利子を含まず)、農業勞働者の平均賃銀額(年當り)及び工業勞働者の年平均賃銀の戦後の運動を掲げやう。この統計はアメリカ農務省の出版物から借りたのである。左に掲げる表の中で農民の純收入率には前の計算といくらか偏差があるが、それはこの場合には農民の年平均収入が農場建物に對する家賃として六十弗ばかり増加されたことと云ふことで説明される。



農民の賃銀（及び企業利潤）、農業労働者及び工業労働者の賃銀

年	農民の年 賃銀額		農業労働者の年賃銀		工業労働者の年賃銀		一九一九—二〇年に對する指數%	
	年賃銀	（食事なし）	年賃銀	（食事なし）	年賃銀	（食事なし）	農民の賃銀	工業労働者の賃銀
一九一九—二〇	九六	六八	一、二七九	一〇〇	一〇〇	一〇〇	100	100
一九二〇—二一	四五七	七二	一、三三七	四七	一一五	一〇〇	115	100
一九二一—二二	三三一	五三	一、二一五	三四	七七	八七	87	87
一九二二—二三	五〇一	五〇五	一、二〇八	五一	七四	九四	94	94
一九二三—二四	五九四	五六一	一、三六八	六一	八三	九	9	9
一九二四—二五	六八四	五七	一、三六四	七〇	八三	九	9	9
一九二五—二六	七五一	五七四	一、二九三	七	八四	101	101	101
一九二六—二七	六六六	五六八	一、三〇五	七	八六	103	103	103
一九二七—二八	七七八	五八四	一、二九九	七	八六	103	103	103
一九二八—二九	七九	五八四	一、三三〇	七	八六	104	104	104

アメリカの農民層は自作農たると小作農たるとを問はず、小中資本家より成り、彼等は大利子付

資本、銀行資本及び工業資本に依存してゐる。我々は前に見たが、借地料及び高利貸及び個人負債に對する利子の高い水準は一時的な價格慘落の場合には、往々資本主義的農民を殆んど農業労働者の平均賃銀水準を超えない報酬を自己の労働に對して受取るところの労働者の状態に於いた。地主に支拂はれる借地料及び農業に投下された銀行資本に對する利子は農業生産物市場の一般的景氣にも生産費にもお構ひなしである。だから市場價格の水準と生産費との間に開きが生ずるや否やそれは農業の恐慌状態を惹き起し、これを保持するのだ。吾々が最後に掲げた表は、利子として利付資本及び銀行資本に支拂はれる農民収入の部分の量が非常に大きくて、それは農民資本の利子と雇傭労働によつて農業で作られた餘剩價值の一部とを吸集してゐる程である、といふ状態をあますところなくはつきりと曝露してゐる。全くその通りだから農業労働者の状態は事實上工業に従事する労働者の状態よりも著しく劣悪なのである。

一九一九—二〇年に比較して一九二一—二二年度の恐慌には農業の賃銀が二三%方低下した、しかるに工業労働者の賃銀低下は一三%であつた。翌一九二二—二三年には農業の賃銀水準がさらに低下した、しかるに工業では同年は好轉の年であつた。賃銀額の一般的傾向は上向いてゐた。そして同年には農業に於ける賃銀水準と工業に於けるそれとの間の不釣合は極めて大であつた、即

四 アメリカ合衆國に於ける農民恐慌



ち農業が七四、工業が九四である(一九一九—二〇年=一〇〇)。翌一九二三—二四年に始つた農業の賃銀騰貴は一九二六—二七年にその最高限度(指數八六)に達し、それ以來状態は變化しなかつた。一九二八—二九年には農業労働者の賃銀水準が一九一九—二〇年の状態から益々遠去かつた(一四%も)、しかるに工業では同一一九一九—二〇年に比べて若干(四%)の増加をさへ認めろのだ。だが一九一九—二〇年を比較の起點とすることを止めて、その代りに出發點として戦前五ヶ年一九一〇—一九一四年を取ると、次のことが分る、一九二二年即ち最低賃銀額時代には工業に於ける賃銀指數は一九七(一九一〇—一四年=一〇〇)であり、しかるに農業では一四六であつた。これは工業労働者に比べて農業労働者の賃銀が二六・九%も相對的に低下したことを意味する。一九二八年にはこの不釣合(工業の二三二、農業の一六九)は減じなかつたのみか、農業恐慌の尖鋭化と關聯して若干増加さへした。一九二九年七月には僅かばかり好轉して、農業の賃銀指數が一七三に上昇し、工業の賃銀指數はいくらかもつと僅かばかり上昇した—二三二(一九二八年)から二三五へ。一般にかう言ひ得る、アメリカ農業労働者は二重搾取の重荷を感じつゝあると。農民は地主及び貸付資本勘定を決済し得るばかりでなく、自己の天與の労働の一部分を放棄し得るために彼の労働者から莫大な餘剩價値を搾取しやうとするのだ。

しかしながら小中農業資本——自作農及び小作農——の大資本への依存性は商品市場で非常にはつきり示されてゐる。大資本の運輸統制は農業生産物の中央市場への輸送に對する高い運賃を彼に保證する。エレベーター貯藏業に對する金融統制は大商品商業資本に農民に手数料を課する可能性を與へる。農業輸出の複雑な組織は大銀行の手中にあつて、農業商品の取引所相場や市場相場に決定的壓力を持つてゐる。

農業生産物の分配領域では獨占的商品商業及び貨幣資本が無組織の分散せる農民大衆と對立してゐる。しかしそれと同時に獨占的工業資本は農民に彼等の生産要具及び手段または農民の消費對象を高い價格で賣る可能性を持つてゐる。吾々は既に本論文の冒頭で關稅立法の領域に於ける工業資本の政策を示した。工業商品の高い國內價格水準は高い關稅組織によつて人為的に維持されてゐるのだ。同様の結果は事實上市場統制を確立する目的で工業及び商品資本を結合する複雑な商業網の助けで、國內市場に對する統制を確立することによつて達成される。合衆國に於ける商業利潤の高い水準は次の事實の反映に過ぎない、即ち生産に於て得られる餘剩價値の著しい部分を商業資本に讓渡するその代償として工業資本が高い價格の維持をやつてゐることこれである。

最後にその市場に於ける一舉一動が大資本の統制下にあるといふのが農民の状態である。彼は自



分の生産物をその實際の原價よりも安く賣らなければならず、工業生産物にはその原價よりも高く支拂はなければならぬ。吾々が前に掲げた農民の實収入の動態及び構成の分析は大資本のアメリカ農業統制を反映するものだ。

アメリカ農民經濟の収益性を完全に特徴付けるためには、なほ農民収入の國民總収入に於ける比重の變化といふ問題に論及し、農業の一人當り平均収入を全國民經濟のそれに比較しなければならぬ。この問題を分析するに當つて吾々は遺憾乍ら全國民收入についてもその個々の部分についても多少不正確な評價を取扱はなければならない。合衆國で適用された貨幣收入の評價方法は極めて杜撰である。全國民經濟の純生産を比較することならば勿論簡單にやれるだらう。しかしこの場合類別物價指數を作成しやうとすると甚だ夥しい困難が生ずる。以下の説明で吾々は郡委員會の勞作たる二卷の書物『最近の經濟的變化』に發表された諸材料、即ち論文『國民收入とその分配』を利用する。著者の材料選擇や作成方法には吾々は不満足であるが、それにもかゝはらずより優良な材料がないから吾々はこの計算を利用しなければならない、但し時に觸れて修正をする權利はこれを留保する、さうしなければ數字は事物の眞想について誤つた觀念を與へるかも知れないからである。吾々はその場合一九二八年の『アメリカ勞働年鑑』の諸統計を利用するだらう。

一九一三——一九二六年の合衆國の國民收入の構成

經濟部門	一九一三年		一九二五年		一九二六年(暫定數)	
	十億弗	%	十億弗	%	十億弗	%
農業	五・〇	一四	八・九	二一	八・九	一〇
鑛山業	一・二	三	二・二	三	二・五	三
精工業	七・三	二一	一六・九	三二	一七・八	二二
建築業	一・五	四	三・五	四	三・五	四
交通及び一般利用企業	三・二	九	六・七	八	七・三	八
銀行	九・五	一	一・一	一	一・三	一
商業	四・五	一三	二一・〇	一五	三・五	一五
其他	一一・五	三三	三六・六	三七	三三・一	三六
合計	三五・七	一〇〇	八二・九	一〇〇	八五・七	一〇〇

吾々は一九一三年に於ける農業収入の數字がやゝ少ないと考へる。本當は六〇——六二億弗と評價すべきだらう。とにかく疑のないことは、國民收入に於ける農業比重が戦後激落したことである。この低落は工業及び商業のより急速な發達とか或は農民人口數の著しい絶對的減少とかに關聯

四 アメリカ合衆國に於ける農民恐慌



してゐたばかりではない。農民収入の比重の低落はまた農業生産のより低い価格の反映である。國民収入に於ける農業の比重の更に一層の激落は前掲『アメリカ労働年鑑』に掲げられた數字がこれを示してゐる。この統計によると總収入に對する農業の割合は一九一三年に二〇・六%、一九二五年に一〇・二%と計算することができる。

もつと興味あるのは次の數字である、これは一九一三—一九二七年間の農業生産指數の運動と並んで農業に於ける實収入の動態（一九一三年の價格で）及び農業人口及び全人口一人當りの収入運動を説明してゐる。

年	一九一三—一九二七年の農業貨幣收入		人口一人當り收入(弗)		
	收入(弗)	農業生産の動態	支出された貨幣收入	農業人口	全人口
一九一三	100	100	100	143	368
一九一四	99	111	97	141	360
一九一八	137	123	133	138	379
一九一九	139	124	138	141	368
一九二一	147	133	137	136	385

一九二五	133	118	133	136	411	411
一九二七	—	133	166(11)	133(11)	—	443

(11) 暫定評價。

この表によると一九二五年には實収入（一九一三年の價格で）が一九一三年に比べて一三%増加した。しかるに生産額は二二%の増加であつた。この統計を考察する場合に、こゝでは農民の純収入が問題となつてゐるのではないといふことを眼中に入れてをかなければならない。この中には勞賃からの収入も、また農業及びそれ以外のものに投下した資本に對する利子からの収入も含まれてゐる。主として工業生産物の購入に當てられる農民經濟への現金収入は殆んど倍化された。しかしながら農民の現金収入の増加は總國民經濟のそれよりも相對的に少なかつた。アメリカ農業の一人當り収入（弗貨で）を全人口のそれに比較すると面白い。農業ではこの収入の名目的表現が全人口に對する平均よりも二倍少い、この點では戦後の状態は殆んど變りがなかつた。しかし注意しなければならぬことはこの計算や比較が結局非常に相對的な意義しか持つてゐないことだ。第一に農業ではあらゆる収入源泉を決定的に捉へることが困難であり、その上こゝでは支出額が甚だ少い。都會人口の多くの支出——住宅、世帯の切盛り——は農業では最少限度まで切りつめられる。

四 アメリカ合衆國に於ける農民恐慌



農民の豫算表の構成を分析すればこの問題についてもつと明瞭な觀念を得ることができらう。しかし本論文の埒内ではこの問題について手許にある材料をあますところなく分析する可能性を我々は持たない。

#### 六 戦後のアメリカ農業に於ける技術的變化

吾々は今までアメリカ合衆國に於ける戦後の農業恐慌の出現の原因と形態との研究に従つて來た。吾々はなほ次のことを示さなくてはならない、慢性的不況の影響を受けて農民生産の技術的基礎の再建過程はどう行はれてゐるか、また生産費の低下といふ方法による諸條件への適應過程はどう行はれてゐるか。物價下落と農業生産の収益性の低下とは農民の都會への逃亡或は一農業部門から他の農業部門への資本の大量の移動を招來するばかりではない。それは恐慌出現の半面に過ぎない。その他の半面は基礎資本擴大の確固たる過程と農民經濟のより高度の技術的組織的基礎への移渡とである。

近年アメリカ合衆國には農業總生産の物理的數量の増大といふ疑もない事實を見る。この生産増加は價格安定、又は價格下落といふ環境の中でさへ行はれた。それは作付面積が減少し、生産に従事する労働者の數が減少したにもかかわらず行はれたのだ。労働を節約する機械的力及び機械の強

大な發達の影響は既にアメリカ農民の生産費水準に強く現れることができた。全恐慌期はアメリカ合衆國史上未曾有の農業上の技術的革命といふ標識の下を通過してゐる。前世紀の九十年代には農業のより高度の技術的基礎への移渡が馬の牽引といふ土臺の上で行はれ、労働機械の適用は動物の持つ素朴な動力の程度によつて必然的に制限されてゐたが、この時代と違つて近年の技術革命は新労働機械を農業に採用するといふよりは寧ろ新動力機——内燃モーター——の大規模な採用といふことにあるのだ。

農業に適用された舊労働機械は既に前世紀の最後の十年の初頭から、その規模と抵抗力とを相當に増大することによつてより強力な新動力機に適應させられてゐた。このことはあらゆる農業部門に強大な變化を捲き起した。

アメリカ合衆國に於ける労働生産性の増加についての一般的概念は次の統計が與へることができ、それは農業に従事せる労働（農業に従事せる農民の労働及び雇傭労働）數量の相對的變化、生産の物理的増加の程度及び従業者一人當り生産増大の指數に關するものである。數字は前述の書物『合衆國に於ける最近の經濟的變化』から借りたものである。

アメリカ農業に於ける労働生産性の動態

#### 四 アメリカ合衆國に於ける農民恐慌



期間及び經濟部門	從業者數(單位千)		從業者數		初期の指數		初期の指數	
	初期	終期	從業者數	從業者數	初期の指數	初期の指數	生産増加	從業者一人當り生産
一八九八—一九〇〇—一九〇八—一〇								
一、農業	10,700	11,600	100.5	113	116			
二、精工業	5,100	7,430	140.5	150	107			
三、全國民經濟	17,570	21,435	133.0	144	118			
一九〇八—一〇—一九一八—二〇								
一、農業	11,400	11,300	99	119	110			
二、精工業	7,430	10,930(12)	147	155.5	99			
三、全國民經濟	21,435	25,335	118	139.0	117.5			
一九一八—二〇—一九二四—二六								
一、農業	11,300	10,700	95.0	114.0	110.0			
二、精工業	10,600(13)	9,810	93.5	133.5	134.5			
三、全國民經濟	35,165	33,440	93.0	118.0	127.0			
一八九八—一九〇〇—一九二四—二六								

一、農業……………10,700 10,700 100 153 153.0

二、精工業……………5,100 9,810 188.0 268 143.5

三、全國民經濟……………17,570 33,440 134.5 326 176.0

(12) 從業者數に若干偏差があるが、これは人口調査によつて調査された企業の規模に變化があつたし、工業の若干部門を除外してもゐるからである。

(13) 生産の物理的容積の指數も、また從業者一人當り生産も一定期間の價格によつて生産價額を計算すると、いふ基礎の上に作成されてゐる。一般指數を作成する場合には個々の各經濟部門の相對的重量を注意に入れ、てゐる。一般指數中には農業及び精工業以外に、この場合吾々がそれを除外し得ると考へた鑛山業及び交通業の指數も入つてゐる。

右に掲げた表の統計によつて農業に於ける労働者一人當り生産高は二十六年間(一八九八—一九〇〇年から一九二四—二六年まで)に全部で五三%増加した、しかるに精工業ではこの増加が非常に小さい數字(四二・五%)で表現されてゐる。しかしながら農業労働生産性の平均的増大はこの時期には常に次の様なテムポで上昇したことを指摘することが大切である。一八九八—一九〇〇年から一九〇八—一〇年に至るまでの十年間にその増加は六%であり、一九〇八—一〇年から一九一八—二〇年に至る次の十年間には二〇%、最後の六年間には同じく二〇%であつた。この統計によると精工業では一九〇八—一一年乃至一九一八—二〇年の十年間は從業者一人當り



の生産が少しも増加せず過ぎた、これは新部門の工業生産に於ける例外的な激減の影響に明らか  
に歸すべきである。この期間に於ける精工業の労働者数の増大は前十年間の四〇％に對して四七％  
と決定されてゐる。これに反してアメリカ農業は従業者数を若干（一％）減少してこの十年を終つ  
た、しかるに生産の物理的容積は一九％も増加したのである。

これらの數字はアメリカ精工業及び農業の技術的變化のテムボの比較に關して一般に流布してゐ  
る觀念と一致するところが少い。これらの數字はアメリカ經濟に起りつゝある動的過程を理解する  
ために重要な意義を持つてゐる。しかし吾々は、アメリカ國勢調査局がやゝ異つた標準で一八九九  
——一九二五年間について作成した労働生産性の指數と比較することによつて、それを若干檢證せ  
ざるを得ない。吾々はそれをやゝ壓縮した形態で一九二八年の『商業年鑑』（一七及び一九頁）によ  
つて掲げやう。

従業労働者の生産と數との一般指數

經濟部門	労働者數(單位千)	指數(一八九九年=100)	一労働者 當り生産
農業	一八九九年 10,500 一九二五年 10,500	100	145
鑛山業	600	165	171

精工業	五,200	97.3	188
交通業	939	184.3	191
合計	17,339	231.4	247

この統計によると、一労働者當り生産は農業では二十世紀の最初の二十六年間に四五％増加した、  
だが精工業では前の資料による五三％及び四二・五％に對して四八％である。吾々は國勢調査局の統  
計の方がより正しいと考へたい。尤も『合衆國に於ける最近の經濟的變化』中の統計は後で計算さ  
れたのだが。吾々の意見では、著者はその計算に當つて二つの誤謬を犯した。第一に彼は常に純生  
産の代りに總生産を取つて農業の生産額を誇大視してゐる。第二に彼は工業生産の量を計算する際  
若干の不正確を許してゐる。しかしながらこれの數字が眞理にどれだけ近いかといふ問題を吾  
々がどう解決しやうが二つの計算からは次の結論が出て來る、農業における近年の労働生産性の増  
大は合衆國史上未曾有のものである、六年間に一八——二〇％、一九〇九年から一九二五年に至る  
十五年間に三五——四〇％、二十六年間に四五——五三％。同數の労働者——千五十萬人——が一  
九二五年には一八九九年より一倍半も多量の農業生産物を生産したのだ。

四 アメリカ合衆國に於ける農民恐慌



ゐたか？ この問題に答へるためにはアメリカ農業の動力的基礎の發達とその技術的水準との分析を壓縮した形ででもよいから與へる必要がある。

アメリカ農業において馬の牽引が機械的動力に移り始めたのは二十世紀の最初の十年の終りであつた。しかしながらこの過程が初めて急速に發展したのは戦争の時であつた。鋼鐵製の馬——あらゆる種類の石油動力——が戦後燕麥を食ふモーター——馬、騾、牛の動物力——を駆逐し始めてゐる。この移渡の結果は未だ評價し難い。しかしこの技術的變化の意義がアメリカ農業にとつても、また世界農業にとつても十八世紀に於ける工業の技術革命の意義にも劣らないだらうといふことは信じ得るのである。農業に於ける動力——その能力、經濟性——は全農業經濟の性質を決定する根本的決定的要因である。工業及び農業のエネルギー充用度の相對的數量に關して一般に普及してゐる觀念は、工業に適用される動力量が農業に適用される量よりも測り知れない程多いといふことから出發してゐる。實際かゝる觀念は事物の眞想についての不十分な知識に立脚するものだ。この問題を闡明するためには次のアメリカの状態に關する特色ある統計を掲げれば充分だ。前世紀の五十年代の終り、アメリカ合衆國工業史の黎明に同國で消費された全動力の三分ノ二は農業に（役畜として）割當てられてゐる。第一回アメリカ人口調査の年——一八四九年には精工業及び鑛山業で充用

された動力は全體でアメリカ國民經濟で消費された全動力の一・五%と決定され、農業ではそれが六五・五%と決定された。一八九九年近くには即ち重工業發達開始期には、現存動力に於ける農業及び工業の比重は農業三六・六%と決定されたが、精工業及び鑛山業は全體で一九・五%と決定された、即ち農業は殆んど二倍も多量の動力を使用したのである。一九二三年の農業及び工業の比重は一〇・五%及び一〇・七%である（客用自動車を含まず）(14)。比較するために一九二八年國務省が出版した一八四九年乃至一九二三年間の合衆國の動力經濟に關する特殊研究の統計をも掲げやう。この資料によると工業及び農業のエネルギー充用度は次の様に變化した。

一八四九——一九二三年の合衆國工業及び農業の動力エネルギー(單位百萬馬力)(15)

年	農業	精工業	鑛山業	全國民經濟	農業	精工業	鑛山業	合計
一八四九……	六・六	一・一	〇・五	一〇・一	二八	一一	二	一六
一八五九……	九・七	一・六	〇・五	一五・八	四二	一六	五	三九
一八六九……	九・六	二・三	〇・五	一九・一	四二	三三	一三	三〇
一八七九……	一三・六	三・四	〇・五	二八・八	五九	三四	三三	四四
一八八九……	一九・八	五・九	一・三	四七・八	八四	五九	四三	七四

四 アメリカ合衆國に於ける農民恐慌



一八九九……三・五	一〇・一	二・〇	六四・七	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一九〇九……三・一	一八・七	四・六	二六・九	三三	一五	一六一	一八一
一九一九……四・七	二五・五	六・七	一九・二	一八六	二九二	三三四	三〇〇
一九二三……四・四	三三・〇	七・五	二〇八・四	二〇三	三八	二六三	三九九

(14) 『合衆國に於ける動力能力及び生産』研究の統計。  
 (15) 同書。

成程、農業に充用される動力の發展テムボは精工業、殊に鑛山業よりはやゝ遅い、しかしながらやはりそのテムボは農業が使用する全動力量を他の前記二經濟部門よりも高い水準に維持するため充分なほど急速である。特徴あることは、農業に充用される動力の絶對的增加が一八九九年以來工業の充用度の増加と殆んど完全に同一であることだ。二十四年間——一八九九年から一九二三年まで——に工業におけるエネルギー充用の増加は二千三百萬馬力に等しく、同時に農業における充用度も二千三百萬馬力増加した。前に掲げた數字から分ることは、この注意がひとつくるめにした全期間に對して正しいばかりでなく、その個々の部分——一八九九——一九〇九——一九一九年、及び一九一九——一九二三年——についても正しいことである。

しかしながらこの問題は他の半面を持つてゐる。種々なる經濟部門に於ける動力の發展テムボを比較する場合には生産の増大テムボ及び生産過程に従事する労働者數の増加の一般的テムボを注意に入れる必要がある。若しこの二つのモーメントをさらに加味すると光景は激變してアメリカ農業に有利となる。西ヨーロッパの農業では、進歩と言へば土地面積單位の生産性を増加し、それと平行して單位面積への投下労働量を増加する目的で農業を集約化する方向に向つて行はれたし、引續き行はれてゐるが、この西ヨーロッパの農業とは反對に、アメリカ農業の特徴は主として従業者當り生産額の増加にあるのだ。アメリカ合衆國に於ける雇傭労働問題はヨーロッパ農業労働者の賃銀と比較してより高い賃銀水準といふことにある。アメリカ農業はその生産物の一大部分を世界市場に輸出しなければならぬから、この不釣合は農業に於ける技術的基礎の向上と労働生産性の増加といふ方法で労働者一人當りの生産を増加して初めて均等化され得るのである。

次表には、従業者一人當りエネルギー充用度と生産の一般的増加との平行的發展を示す統計が類別されてゐる、この統計は前述の資料から取つた。残念乍ら統計は一九一九年までしかない。しかしながらそれは戦後の全時期の根本的傾向を暴露してゐる。比較のために精工業に於ける平行的發展をも與へやう。

四 アメリカ合衆國に於ける農民恐慌



一八〇九乃至一九一九年の農業發展の基本的指數(16)

(一八九九年=100)

指數	一八八九年		一八九九年		一九〇九年		一九一八年	
	農業	工業	農業	工業	農業	工業	農業	工業
一、主要動力の強度(馬力)……	八四	五	100	100	133	155	186	383
二、労働者數……	八三	八〇	100	100	110	135	104	170
三、生産増加……	七五	七五	100	100	133	150	137	210
四、労働者一人當り動力エネルギー……	101	100	100	100	110	155	179	164
五、労働者一人當り生産……	九三	九四	100	100	101	110	133	139

(16) この表の統計は前述のアメリカ合衆國の動力經濟研究から取つたものである。前に掲げた工業に於ける労働率指數とや、相違があるが、それは工業生産部門の分類がやゝ變つて來てゐるからである。

この表中最後の二欄の意義を強調することは殊に重要である。農業に従事する労働者一人當り平均エネルギー充用度は一八八九年と一八九九年との間の期間殆んど變化がなかつた(極く僅かではあるが減少さへした)、一方工業労働者のエネルギー充用度は増加した(四五%)。最初の十ヶ年一八九九—一九〇九年には農業に於ける労働者一人當り動力量は比較的僅かばかり増加した(一〇%)、

しかるに精工業ではその増加のペースは相變らず急速であつた。一九〇九—一九一九年の十ヶ年間に事態は激變した。この期間に農業労働者一人當り動力量は絶對數で二・五二馬力から四・一〇馬力に増加した、しかるに精工業ではこの増加が著しく小さな數——三・一三馬力から三・三三馬力へ——で表現された。ともかく労働者一人當り平均エネルギー充用度の點で常に工業に先んじてゐた農業は二十世紀の最初の十年の末には工業のやゝ背後に取り殘された(農業では——二・五二馬力、工業では——三・一三馬力)。近年には精工業に對する農業の優越が再び復活して來た。

この農業に於ける技術的變化の直接的結果として労働者一人當り生産量の激増を擧げなければならぬ。一九〇九—一九一九年に工業では労働者一人當り生産が全體で七・五%増加した、しかるに農業ではこの増加が、表中に掲げられた統計によると、全體で三〇%である。かゝる農業労働率の變化は不可避的にアメリカ合衆國の農業經濟及び全國民經濟に×××影響を及ぼさなければならなかつた。

次の表は一八六九—一九三三年に於ける合衆國農業の技術的基礎に起つた諸變化について明瞭な觀念を與へてゐる。

四 アメリカ合衆國に於ける農民恐慌



合衆國農業の動力的基礎の動態と構成 (絶對數單位千馬力)

年	役畜	蒸氣機械及 びタービン	内燃動力機	風動力機	買入動力で働く 電氣モーター	合計
一八四九	六、五九七	—	—	—	—	六、五九七
一八五九	九、六五五	—	—	—	—	九、六五五
一八六九	九、五八八	—	—	—	—	九、五八八
一八七九	一三、一六四	五〇〇	—	—	—	一三、七六四
一八八九	一八、六三六	一、〇〇〇	—	—	—	一九、八三六
一八九九	一九、三二九	二、五〇〇	五、〇〇〇	—	—	三三、五一九
一九〇九	二一、八五七	四、五〇〇	四、〇〇〇	—	—	三一、一〇七
一九一九	三三、三四三	三、五〇〇	一六、〇〇〇	—	—	四三、七三三
一九二二	一九、八四〇	三、〇〇〇	三一、九二〇	—	—	四七、四二〇

相對數 (各年の總計=100)

年	役畜	蒸氣機械及 びタービン	内燃動力機	風動力機	買入動力で働く 電氣モーター	合計
一八四九	100.0	—	—	—	—	100.0
一八五九	100.0	—	—	—	—	100.0
一八六九	100.0	—	—	—	—	100.0
一八七九	九六.四	三.一	—	〇.五	—	100.0
一八八九	九四.八	四.四	—	〇.八	—	100.0
一八九九	八七.三	九.八	二.〇	〇.九	—	100.0
一九〇九	七三.二	一三.〇	二一.七	一.三	〇.八	100.0
一九一九	五〇.九	八.〇	三六.六	一.一	三.四	100.0
一九二二	四一.七	六.三	四六.三	一.一	四.六	100.0

役畜數の増大が緩慢になり始めたのは既に前世紀の八十年代の末からである。それ以來農業では益々擴大する規模で蒸氣力の充用が起り始めた。一九〇九—一九年間の農業エネルギー充用度の激増、動力資源の三千百十萬馬力から四千三百七十萬馬力への増加は農民の保有する役畜を、非常に僅かであるが若干増加するといふ結果を招致した。翌年には激烈な恐慌に見舞れてゐる。燕麥や大麥を食ふモーター——馬及び騾——は石油動力機に驅逐され始める。後者は二十世紀の初頭以

四 アメリカ合衆國に於ける農民恐慌



來動物力ばかりでなく蒸氣力とも激しく挑戦しながら除々に農業の全部門に浸透してゐる。一九〇九年から一九二三年に至る十四年間に内燃動力機によつて供給される機械的エネルギーの量は千八百萬馬力も増加した。同期間にあらゆる殘餘のエネルギー源泉は（電氣力殊に風力を除外して）、その農業に於ける比重が減少した結果後方に押しやられたばかりでなく、絶對的減少をも示してゐる。役畜の利用から得るエネルギー量は二百萬馬力も減少し、蒸氣力からのそれは百五十萬馬力減少した、尤も電氣力の充用は百九十萬馬力増加した。石油モーターの勝利的行程はアメリカ農業のエネルギー一般勘定に於けるその比重の増加數で分る。一八九九年の二%から、それは一九〇九年の一・七%、一九一九年の三六・六%及び一九二三年の四六・三%へと増大した。最近は動力の最も重要な源泉となつた。かくてこの期間にエネルギー的基礎の激しい量的變化が行はれたばかりでなく、その構成の決定的變化、純粹に質的な事物の變化が行はれたのだ。動力の源泉としての役畜の驅逐は長い間飼料栽培の耕作に従事してゐた多くの面積を解放する。石油動力の浸透は極めて強力な新機械の採用のためにその基礎を作り出してゐる、馬の牽引がエネルギーの源泉として優越してゐた時にはかゝる新機械の利用などは思ひも及ばぬことであつた。

最近數年間にこのアメリカ農場に於ける馬匹數の減少過程はより一層促進された。エドウィン・

デー・ノルスはアメリカ農業を一般的に概観せる『最近の諸變化』で農場に於ける馬及び騾の數に關する次の統計を掲げてゐる。

農場に於ける馬及び騾の數（一月一日調査單位百萬頭）

年	馬	騾	合計
一九一〇	一九・八	四・二	二四・〇
一九一四	二一・〇	四・四	二五・四
一九一八	二二・六	四・九	二七・五
一九一九	二二・五	五・〇	二七・五
一九二三	一七・九	五・七	二三・六
一九二六	一五・八	五・七	二一・五
一九二七	一五・一	五・七	二〇・八
一九二八	一四・五	五・六	二〇・一
一九二九	一四・〇	五・四	一九・五

馬匹數は特に激減し、十一年間——一九一八——一九二九年——に三分ノ一以上も減少した。騾

四 アメリカ合衆國に於ける農民恐慌



數は一九二三年に到達した水準のところ安定した。しかし最近年には驟についてもその減少過程が始つてゐる。これは南方穀物地方(こゝでは土地耕作が著しく驟の助けで行はれる)にも勞働器具が侵入したこと、關聯してゐる。

役畜數の減少過程と平行してトラクター——農業に石油動力を充用するための最も普及し殆んど世界的な形態となりつゝあるトラクターが益々廣汎に使用されつゝある。トラクターは穀物栽培が廣く發達してゐる廣漠たる所謂中央西部で最も廣汎に使用されてゐる。しかしながらその充用範圍が穀物農場の耕作にのみ限られてゐると考へてはならぬ。それは南方棉花及び煙草栽培地方、東方馬鈴薯州、また西部及びミシシッピ以東の牧畜及び酪業地方にも急速に侵入しつゝある。ノルスはアメリカ農業で活動しつゝあるトラクター數並びにトラクター建造の平行的發達について次の統計を掲げてゐる。

トラクター生産、販賣及び農場に於けるトラクター數

年	生産	合衆國で農場で使用されてゐるの販賣もの(一月一日調査)
一九一〇	四、〇〇〇	—
一九一四	一〇、〇〇〇	—

一九一六	二九、六七〇	二七、八一九
一九一八	一三、六九七	二六、四七〇
一九二〇	二〇三、二〇七	二六三、九八八
一九二二	九、六九二	一〇一、一九三
一九二三	一四、五九〇	一一七、七〇一
一九二四	二九、三〇五	九九、〇一一
一九二五	一六七、五五三	一三二、九九八
一九二六	二〇〇、五〇四(17)	一六〇、六三七
一九二七	一七二、一三七	九九、四九一
一九二八	—	—

(17) 暫定數。

一九二〇年には五〇エーカーを持つ一六九個の農場が一臺のトラクターを持つてゐたのに對して一九二五年にはその面積五〇エーカー及びそれ以上の各七八農場につき一臺のトラクターを持つてゐた。一九三〇年近くには合衆國のトラクター數は約百萬を以つて數へることができ、五〇エーカ

四 アメリカ合衆國に於ける農民恐慌



一及びそれ以上の面積を持つ各四農場がトラクター一臺持つ譯である。

新らしいより高度の技術的基礎への移渡が直接作業機械にどんな影響を與へたかは、トラクターに刈入機及び打穀機とを結合したものが即ちコンバインが穀物經濟に廣く充用されてゐることがその例として役立つことができる。夥しい研究はコンバインが穀物の生産費を一五——二〇%方引き下げたことを證明した。それは收穫を速に仕遂げ、穀物の粒を齊一にする可能性を與へる。コンバインの侵入のテムボはアメリカで近年販賣されたコンバインの數に關する國勢調査局の次の統計から窺知することができる、即ち一九二三年には一、〇九九臺、一九二四年には一、五九〇臺、一九二六年には三、五六三臺、一九二六年には六、二七七臺、一九二七年には一一、二二一臺であつた。小麦地方では充用機械の數が特に激増した。一九二七年にカンサス州には一二、七八二臺、オクラハム州には五、七四六臺、テキサス州には二、八九〇臺のコンバインが計算された等々。

トラクターの充用は播種するための地盤準備について全く新らしい可能性を與へてゐる、トラクターは氣候の影響を受けず、地盤の濕潤にも無關係である。それは終日土地耕作に働き得る。トラクターは作業機の根本的再建造の可能性を與へる。特別製の圓狀鋤、新形態新規模の耕作機は動物労働を節約し、土地耕作の一般的方法を改良し得る様な諸條件を作り出してゐる。

石油動力を農業に充用する第二の形態は自動車——貨物自動車及び客用自動車である。若しトラクターが土地耕作方法及び收穫實現方法に革命をもたらす使命を持つてゐたとすると、自動車は農業經濟の他の重要な方面——即ち農場自體の内部及び外部との運輸を革命化してゐる。農場と市場との關係は密接且容易となつてゐる。自動車は殊に農民を鐵道への依存から解放してをり、それは牧畜生産物特に酪業生産物の輸送に當つて大きな意義を持つてゐる。

#### 七 結論と見透し

吾々のアメリカ農業問題の分析の諸結果はその一般的特徴を示すと次の様に定式化することができる。

一、アメリカ農業は戦前全く國內市場の消費力に適應する方向に向つて決定的に發達した。同國工業化の急速なテムボは、一方では自國農業生産物の國內市場の強大な擴張をもたらし、他方では高い關稅障壁の保護の下に行はれた工業化は、アメリカ合衆國の工業生産物のより高い價格水準、従つてまたアメリカ農業の費用の増大といふ結果を招來した。この事情は新興國及び急速に發展しつつある農業國即ちロシアとかカナダとかアルゼンチンとかに比べて世界市場におけるアメリカ農業の競争力の減退となつて現れなければならなかつた。それ故に既に前世紀の末葉から世界穀物輸



出に於ける合衆國の比重の相對的低下過程が起り、作付面積及び穀物生産の増大のテムボは人口増加から遅れ、國內市場の需要に適應しやうとする農民の努力の結果穀物生産が牧畜及び酪業生産へと移動しつゝある。

一、ヨーロッパ農業がまだ没落と解體の状態に止り續けてゐた世界戦争と戦後の初年との時期、世界市場に於ける多少重要な要因としての東部及び南ヨーロッパの顛落、工業商品の價格よりも著しく激烈に昇騰した世界穀物價格の奔騰——すべてこれらのことはアメリカ合衆國農業の發達諸條件の變化といふ直接の結果をもたらした。耕地は増大し、交戦し荒廢したヨーロッパの需要を専ら充すことに向けられた生産が成長した。農業生産物國內市場の擴大は集約的農業部門——牧畜、家禽業、園藝——の生産物及び工業原料——煙草、棉花等々——についてのみ見ることが出来る。この場合次のことを指摘することが大切である、即ちこの農業生産の増加は、エネルギー充用度の一般的上向の土臺の上での生産力増加及びそれのより高度な技術的組織的段階への移渡との一時的急速な過程の下で行はれたといふことだ。

三、戦後の世界農業恐慌はヨーロッパ農業の再建の結果世界穀物市場に生じた不均等の反映である。隔洋地方の穀物生産の擴大は巨大な輸出増加によつて條件付けられてゐた。ヨーロッパの再建

は農業生産物の過剰生産を惹き起し、世界價格の低下を惹き起した。カナダ、アルゼンチン、及びオーストラリアと世界市場で角逐するアメリカ合衆國の地位はアメリカ合衆國の工業價格のより高い水準、高い勞賃、鐵道運輸の運賃昂騰によつて困難となつた。成程より高度な技術の侵入は勞働生産性を増加し、一生産當りの生産費を低減することができた。だがこの高度な技術の侵入過程はまだその發展の段階にある。それはやはりまだあらゆる農業部門に採用し得るものと考へることができない。アメリカ農業恐慌は次の點に現れてゐる、即ち色々の原因から、主として資本がない結果その經濟をより効果的な技術の基礎の上に再建し得なかつた全ての農民經濟が破滅し、都市に去りつゝあること。これに反して、アメリカ經濟學者の多くの研究が主張してゐる様に(18)、農業生産の合理化とそのより高度の新技術の採用とは生産的支出を激減し、現在の世界市場の諸條件の下で、即ち現在の低廉な價格の土臺の上でもなほ農業を有利なものとする可能性を與へた。

(18) 有名なイー・ミードやヴェ・オストロレンクの著書のことをも言ふ。

四、アメリカ合衆國に高い資本主義的借地料が存在するといふ特殊な條件、高い物價及びインフレーション信用政策時代の結果であるところの高利貸及び個人的負債の高い水準は恐慌撲滅過程を著しく緩慢にし、阻害してゐる。高い借地料と負債に對する高い利拂ひとの存在は、價格が低下す



るその度合に従つて特に耐え離いものとなつてゐる。資本主義的借地人及び負債を負ふ農民はあらゆる農業価格の（僅かであつても）下落によつて不可避免的に大なる困難に陥らざるを得ない。より高度の技術を基礎とするあらゆる生産費の殺滅は不可避免的に地主及び抵當銀行に農民が支拂ひを餘儀なくされてゐる利子の比重を増大させなければならない。農民の信用動員の自由は最少限度となる。と同時に商品及び信用市場に對する大獨占資本の統制は農民にとつては、彼が賣らねばならぬ價格と彼の生産物の市場價格との間の大きな開きとなつて現れる。この開きは商品商業資本及び貨幣資本のポケットに入る。獨占工業資本は、農民の生産かまたは農民の消費かに入る工業生産物の高い價格によつて農民が農業労働者から搾取する餘剩價値の一部を取り上げてゐる。

五、戦後のアメリカ農業恐慌は、一般にあらゆる農村恐慌と同じく、農業資本の比較的不動性、そのより緩慢な回轉度、戦後のアメリカ工業發展の緩慢なテムポの結果、長びく慢性的不況といふ型態を取らなければならないだらう。都會に出て行く農民の子弟及び農場を放棄する借地農はどこかの工業部門に急速に這入りこむとは考へることができない。外國労働者移住制限にもかゝらず、アメリカ合衆國の失業者は近年停滯狀態の現象となつた。交通業、自動車製造業の領域及び無數の娛樂、享樂場（映畫、劇場）に多くの従業者が吸集される結果工業の景氣上昇年度には失業は潜在

的形態を取つてゐるが、特に激烈といふ程でなくともあらゆる景氣の惡化、工業生産量の收縮毎にそれは驚くべき數に達してゐる。こんな諸條件の下にあつても農民は、若し農業經營が彼に投下資本に對する低い利子として比較的僅かの収入と平均農業労働者の賃銀とを與へるならば、その土地に止るのである。これは市場の需要に對する生産規模の適應過程を緩慢にし、過剰生産は慢性的現象となる。

六、價格を釣上げて自己の狀態を改善しやうとするアメリカ農民の闘争は効果なきものと判定される。大工業資本の利益は、商品を低廉化し外國市場に於ける競争能力を高める目的で、食料生産物の低い價格を基礎として一層大規模に大衆的商品の生産を發展させることにあるのだ。現關稅率の引上げ及び新關稅の制定といふ方法での農業商品國內市場の保護は、アメリカ農業がまだその生産の巨大な部分を外國市場に投げ出すことを餘儀なくされてゐる限り、充分な効果をもたらすことができない。その上、高度に分化し、高度に商品的なアメリカ合衆國の農業の事情の下では、一農業生産物の價格引上げは工業及び都會消費者の利益に反するばかりでなく、農業の狀態にも著しく反映しなければならぬ。南部の棉花栽培業者及び煙草栽培業者は穀物や牧畜生産物及び園藝生産物を買ふことを餘儀なくされてゐる。これと同じことがカルフォルニアやフロリダの園藝家や葡萄栽培



培業者にも當はまる。小麦地方は牧畜生産物を、東部地方は酪業生産物を買ひ、また馬鈴薯生産州は小麦と飼料用穀物とを買ふ。かくて中小農業資本——農民層——はその大工業資本との闘争に於て必然的に個々分散状態に止まる運命を持つてゐるのである。

七、近き將來に於けるアメリカ農業の進化は内的矛盾の極度に尖鋭化した環境の中で行はれるだらう。戦後の時期の變化した諸條件への適應過程は最初は農民人口數の一層の減少及び一層急速な技術的基礎の再建を齎らさなければならぬ。農業の外國貿易關係の發展傾向は依然として一樣でない。農業の工業原料輸出の領域ではアメリカ合衆國はなほ數年の長きに亘つて外國市場に依存するであらう。その他の生産物については状態があまりはつきりしてゐない。一方に於て、國內消費の増大は漸次輸出生産を減退させるに違ひない、だが他方に於ては、新生産技術の發達は、自由地若しくはたゞ半自由地が豊富な場合にその競争力を増大するといふ意味でアメリカ農業に取つて世界市場の一般的條件をも變化し得る。すべてが世界農業の發展速度に、主としてその工業化のテムボに懸つてゐる。若しアメリカ合衆國がこの點で競争國を著しく凌駕することができるならば、即ちアメリカ農民がカナダやアルゼンチンと比べて労働の生産性と従業者一人當りの平均的生産とを著しく増加することができるならば、合衆國は一方に於ける工業の一時的な急速な發展にもかゝ

はらず、世界市場で強固な地位を新たに獲取することができるであらう。國際穀物市場に於けるアメリカの近き將來の見透しがどうあらうと、世界農業恐慌はこゝ暫くはアメリカ資本主義の一般的矛盾の發展を猛烈に尖鋭化するところの一モーメントとして止るであらう。



### 五 アメリカ労働者階級の状態

#### 労働調査協会

【労働調査協会 Labor Research Association 編輯『労働者事實書』Labor Fact Book 第四、第五、第六章】

#### 第一 合衆國の工業労働者

一、主要職業群 全國産業會議事務局の發表によれば、一九二五年の收入ある仕事についてゐる者四千二百九十一萬人といふ確認を基礎として、その二九・九%といふ最大群が製造及び機械工業に従事してゐた。各種の農業がその次で、商業が第三、事務的な仕事は第四、そして家庭的個人的な仕事は第五であつた。種々な職業群の數字は次の様である。

製造及び機械工業	數	%
製造及び機械工業	一、八二〇、〇〇〇	二九・九

農業、林業、牧畜	一〇、五〇〇、〇〇〇	二四・五
商業	四、六〇〇、〇〇〇	一〇・七
事務員の仕事	三、八二〇、〇〇〇	八・九
家庭的個人的仕事	三、五九〇、〇〇〇	八・四
運輸	三、二八〇、〇〇〇	七・六
専門的な仕事(教員・醫者・辯護士等)	二、三〇〇、〇〇〇	五・五
礦物採取	一、一五〇、〇〇〇	二・七
公職	七六〇、〇〇〇	一・八
計	四二、九一〇、〇〇〇	一〇〇・〇

合衆國內の收入ある職についた人間の割當に關するすべての數字は、該統計が事務労働者を彼が備はれてゐる産業に配屬させてゐないので、不充分である。しかしそれでもその數字は他の資本主義國の收入ある職を持つ人間の産業別配分とさつと比較することはできやう。

合衆國	イギリス	ドイツ	フランス	
農業	二四・五	七・一	三〇・五	四一・五
五 アメリカ労働者階級の狀態				三七



鑛業、製造業、運輸	四〇・二	五四・五	四六・〇	三六・一
商業	一〇・七	一三・五	一一・七	一〇・四
事務的な仕事	八・九	……	……	……
家庭的個人的仕事	八・四	一一・五	四・四	三・九
その他すべて	七・三	一三・六	七・四	八・一
計	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇

二 労働者と雇傭者 合衆國に於ける賃銀及び俸給労働者の總數は約三五、〇〇〇、〇〇〇人である。いままでのところ細目が解つてゐる最近の一九二〇年に、賃銀及び俸給取被傭者は收入ある人間の七八%であつた。残りの二二%は雇傭者であるか、獨立の營業を營んでゐるか、自由職業をもつてゐるかであつた。この後の組で最も多數は、農業（小農場主）と商業（小商店主）であつた。獨立した雇傭者即ち自立者の數は繼續的に減少してゐる、その一方被傭者の數は着々と増大してゐる。國家經濟調査局は一九二六年三月の『ニュース公報』News Bulletin の中で、一九二〇年と二五年の間に、雇傭者即ち自立者の數は一〇、〇四九、〇〇〇人から九、九七六、〇〇〇人に減少したが、被傭者は二九、九五九、〇〇〇人から三三、八九七、〇〇〇人に殖えた、と評價してゐる。

三 最も多くの労働者を備つてゐる製造工業 「組合」組織の目的のためには、どの製造工業が最も多數の労働者を備つてゐるか、何の位の工場が各製造工業にあるか、を知つておくことが大切である。次の表は一九二七年の『製造業統計』から輯めたもので、この年に少くとも十萬の労働者を使用した二〇の製造工業を示してゐる。

	労働者數	工場數
木材及び製材工業製品	五二〇,五〇〇	二,〇七一
木綿製品	四六七,六〇〇	一,三四七
鑄物及び機械工場	三九七,八〇〇	八,三八八
鐵道工場	三九七,一〇〇	一,七九四
銑鐵及び鋼鐵	三八九,三〇〇	六〇一
自動車類	三六九,四〇〇	一,四七七
印刷及び出版	三六一,七〇〇	三三,五四一
電氣機械	三四一,六〇〇	一,七七七
靴	一〇三,一〇〇	一,三五七

五 アメリカ労働者階級の状態



編物製品	一九〇,三〇〇	一,八六九
男子服	一八六,七〇〇	四,二一八
家具	一八六,三〇〇	三,三三三
製パン	一七三,〇〇〇	一八,二二九
婦人服	一四四,五〇〇	七,五八八
羊毛及び毛絲	一四四,四〇〇	七,五九九
粘土製品と陶器	一三七,七〇〇	二,一六三
絹製品	一三七,六〇〇	一,六四八
紙とバルブ	一三三,四〇〇	九三九
屠獸と肉詰物	一二九,一〇〇	一,二五〇
葉巻と紙巻煙草	一二六,二〇〇	一,九九七

一九二七年に五萬以上十萬以下の労働者を雇傭してゐる他の製造工業は、罐詰、ゴム、タイヤ、紡績の染色と仕上げ、石油精製、硝子、造船、皮革、及び化學製品であつた。

四 婦人労働者 被服、食料、飲料等の品目の工場生産が増大したために、婦人は非常な程度で家庭内の經濟的機能を失つた。生計を維持するために、彼女達は工場、店舗、事務所其他賃銀を貰つて働けるところに出てゆかねばならない。一九二〇年に、合衆國中で八百萬以上の婦人と少女が賃銀或は俸給を得るために働らいてゐると報告された。その他に四十五萬以上の者が何等かの産業或は職業で自立し或は他人を傭つてゐた。これは収入ある仕事についてゐる婦人總數が一九一〇年のそれに比し約五十萬増加したことである。たゞ家婢と農場労働者が減少しただけである。一九二〇年以來一層急速な割合で引續き増加した、一九三〇年の豫測數は約一千萬人であつた。一九二〇年には、収入ある仕事についた八百五十五萬の婦人が次のやうな主要職業群に配分されてゐた。

家庭的個人的仕事	二,一八七,〇〇〇
製造及び機械工業	一,九三〇,〇〇〇
事務的な仕事	一,四三六,〇〇〇
農業	一,〇八四,〇〇〇
専門的な仕事(附添人等々を含む)	一,〇一六,〇〇〇
其他	九〇七,〇〇〇

五 アメリカ労働者階級の状態



合計.....八、五〇、〇〇〇

被服、煙草、絹、リンネル、裁縫、レースと刺繍、キャンデイ、紙函、ノート及び紙袋を含む一箇の製造工業では、婦人の方が男よりも多かつた。最も多いのは被服の二十七萬二千人、紡績の十六萬六千人であつた。

合衆國中でも多く婦人を備つてゐる所は中央政府で、一萬六千の婦人労働者がゐる。中央政府の使用人の半分は婦人である。

夫の賃銀の低いことが既婚婦人にますます多く家庭外で有給の仕事を見つけることを強制してゐる。一九二〇年の統計は百九十二萬の既婚婦人が収入のある仕事についてゐると報告した。これは既婚婦人が十一人毎に一人の割合で働らいてゐることを意味する、一九一〇年にはその割合は二十二人に一人であつた。この數は引續き増大してゐる、殊に商業と事務においてさうである。種々の都市で見られる状況を基礎にして、既婚婦人労働者の總數は今では約二百七十五萬と算定されてゐる。

婦人労働者は同一の仕事で、男よりも普通半分乃至三分ノ一少い給料をもらつてゐる。合衆國婦人局の理事者は最近言つた、『婦人の低い賃銀は、婦人の低い生活水準をつゞけさせるばかりでなく

かへり加へてすべての労働者の賃銀と生活水準を引下げる傾きがある。

婦人は屢々健康にとつて重大な脅威であるやうな條件の下で働くことを要求される。継続的な佇立、かがまつた姿勢で継続的に腰掛けてゐること、重いものを持ちあげること、ベンゾールや鉛毒の危険等が特に婦人に重大な影響を與へるところの工業における健康脅威の一例である。

五 青年労働者 一九二〇年には、合衆國中の十六才から十九才の青年の半分以上が労働してゐた。是等四百萬の青年労働者の約三分ノ二は男で三分ノ一が女であつた。一九二〇年以後、青年労働者の數は非常に増大したが、同年にそれは主要職業群へ次のやうに配分されてゐた。〔年齢は數へ年でなく滿——譯者〕

一六一一九歳の労働者數

製造及び機械工業.....一、二七、三〇〇

農業.....一、〇〇、〇〇〇

事務的な仕事.....五九〇、七〇〇

商業及び運輸.....五五、三〇〇

家庭的個人的仕事.....二六四、二〇〇

五 アメリカ労働者階級の狀態



鑛山及び石切場……………九七、五〇〇  
 其他……………一六六、九〇〇

合計……………三、五八八、九〇〇

若い労働者は屢々、同じ仕事をしてゐる年長の労働者が得るものよりも遙かに低い支拂ひをうけて、しかもその年齢にとつては不適當な仕事を背負はされる。同時に、反動的な労働組合は、色んな徒弟的な制限でもつて彼等を引とめ、彼等が一人前の労働者として認められる邪魔をしてゐる。(グレース・ハチンズ著『産業における青年』インタナショナル・パンフレットを見よ。)

六 少年労働者 合衆國の全日労働をやつてゐる少年の數については、一九二〇年の統計より以後の數字がない。この年に十乃至十五才の少年一、〇六〇、九〇〇人が、即ちこの年齢の少年人口の約十二ノ一が、給料のために働いてゐると報告された。これらの労働少年の三分ノ一以上は十四才以下であつた。三分ノ二が男で三分ノ一が女であつた。その職業別は

一〇—一五才の少年労働者數

農業……………六四七、三〇〇  
 製造及び機械工業……………一八五、三〇〇

商業及び運輸……………八二、三〇〇  
 事務的な仕事……………八〇、一〇〇  
 家庭的個人的仕事……………四、〇〇〇  
 鑛山及び石切場……………七、二〇〇  
 其他……………四、七〇〇  
 合計……………一、〇六〇、九〇〇

これらの數字は、しかしながら、その當時にとつても、實際を非常に過小に見積つてゐる。報告された少年の半分以上は農業に傭はれてゐた。しかしこの統計は殆んど農事が行はれてゐない冬の真中に取られたものである。この計算が六ヶ月後に行はれたならば、記録された少年農業労働者の數は三乃至四倍になつたであらう。その頃以後、少年の臨時及び出稼農業労働、また學校の放課後と土曜日曜(屢々夜遅くまで)に定期的に傭はれる少年が非常に増加した。これらの放課後労働者の主要な仕事は、新聞雑誌の配達或は販賣、商店の物賣り、配達、熟練或は半熟練の仕事(ペンキ職、大工、機械工、屠殺者、印刷者)、家庭的な仕事、キヤデー、不熟練の仕事(靴磨き、球戯場のゲーム取り、エレヴェーターボーイ)、事務の仕事、それに被服、造花、札つけ、といったやうな

五 アメリカ労働者階級の狀態



ひどく汗をしばられる屋内労働、等である。これらの大多数は修練、安定、或は賃銀増加の希望を全然與へない袋小路のやうな仕事である。

七 黒人労働者 合衆国内の黒人は一九二〇年に約一千五十萬人、即ち全人口のほぼ一割を數えた。百五十萬人を除く全部が南部諸州に住んでゐる。アーカンソーとルイジアナの一部分から東の方南カロライナにいたる隣接諸州をつらねる劃然とした黒色帯がある。一九二〇年にはこの地帯に約三百三十二萬の黒人がゐて、同地方の住民の大多數を占めてゐた。一九二〇年の郡では彼等は住民の五〇%乃至七五%を占め、三十六の郡では七五%以上を占めてゐた。

一九一〇年から一九二〇年の間に、労働してゐる黒人男子の數は、全體としても、また二十七萬六千を減じた農業を除く重要な各職業群においても、増大した。黒人婦人の労働するものは全體として減少した、農業では四十四萬、家庭的な仕事では六萬三千を減じた。働いてゐる者の數が減少したにもかかはらず、全黒人男子數の八一・二%、十萬以上の全黒人婦人數の三八・九%が収入ある仕事についてゐる、これに比較して全人口のそれは男子が七八・二%、同年齡の婦人が二一・一%である。

一九二〇年の『職業統計』は次のやうに主要産業群への黒人労働者の配分を示してゐる。

	男	女
農業.....	一、五六、六〇〇	六一、三〇〇
家庭的個人的仕事.....	二七〇、〇〇〇	七九〇、六〇〇
製造及び機械工業.....	七二、八〇〇	一〇五、〇〇〇
運輸.....	三〇八、九〇〇	三、五〇〇
商業.....	一三、三〇〇	一一、一〇〇
鑛山及び石切場.....	七、九〇〇	三〇〇
其他.....	一九、四〇〇	四八、四〇〇
合計.....	三、三三、九〇〇	一、五七一、三〇〇

一九二〇年には、二百萬以上の黒人、即ち収入ある仕事についてゐる者の五分ノ二が、農業に従事しており、その殆んど全部が南部に往んでゐた。約九十二萬五千が農業者で、その中の四分ノ三が小作農、そして百二十萬が農業労働者であつた。百萬人以上が家庭的個人的仕事についてゐた。約九十萬人が製造業機械業で働いてゐた。これらのうち熟練或は半熟練者も多かつたが、大多數は不熟練労働者であつた。

五 アメリカ労働者階級の狀態



主要な職業群の人間をその總數に比較すると、一九二〇年に黒人數は、家庭的個人的仕事にある者の三一・二%、農業では一九・九%、製造及び機械工業では六・九%、商業と運輸では四・八%、そして専門的な仕事では三・七%であつた。一九二〇年においてさへも、鋼鐵工業に傭われてゐる半熟練及び不熟練労働者は總數の一四%であつた。一九二八年にはシカゴの大肉類罐詰會社の被傭者の三〇%が黒人であつた。

一八九〇年と一九二〇年の間に現れた仕事についてゐる黒人に關する著しい傾向は、エル・ヂェイ・グリーンとシー・デー・ウッドスンによつて、『黒人賃銀取得者』の中で概括されてゐる。

『第一に、全人口に對する黒人の割合よりも、収入ある仕事についた者の總數に對する黒人の割合の方が増加する傾向である、第二に、一八九〇年以後、彼等のグループ内で収入ある仕事についた者の割合を、住民の他のどの分子のそれよりも、高く維持する傾向、第三に、黒人婦人が、住民中のどの他の群の婦人よりも比較的多く仕事に参加してゐること。しかしながら、これらのすべての傾向を通じて織り込まれてゐて、しかもそのすべてに影響し陰影をなげかけてゐるものと著しい進行がある——農業的な仕事と家庭的個人的仕事に傭はれることから、製造及び機械の仕事、商業、運輸の方へ。』

近年數箇の因子が結びついて、黒人の産業における重要性を増大させた。農業恐慌が百萬に近い人間を土地からほうり出した。この前の帝國主義戰爭中の北部と中西部における労働者の需要、それに伴ふ一時的な事業擴張、他國からの移住に對してますますきつくなる制限、それが黒色地帯の黒人に對する特に亂暴な迫害と結びついて、黒人の北部工業中心地への移住を招來した。一九一四年以後百萬人以上が北部に移つた、その大多數は一九一六年から一九二四年の間に移つて行つたのである。

黒人の都市への大衆的移住は次の數字の中に示されてゐる。これは國勢調査報告からとつたもので、田舎と都會に住む黒人の割合をあげてゐる。

年	田舎	都會
一八九〇	八〇・六	一九・四
一九〇〇	七三・三	二二・七
一九一〇	七二・六	二七・四
一九二〇	六六・〇	三四・〇

南部では黒人に對する偏見が最も著しかつた。黒人は殺人的私刑(後章を見よ)と、社會的、政



治的、經濟的生活のあらゆる局面に反映されてゐる悪意ある差別との犠牲である。彼は小作人、分益農、農場労働者として搾取されており、奴隸化と、鎖つなぎの虐待と借金奴隸とに悩まされてゐる。彼は「劣者」と見なされ、社會的に排斥され、實際上はすべての權利を奪われてゐる。

北部で黒人が多くなつたために、ここでも隔離と差別待遇とが増大してゐる。産業において雇傭者共は、黒人をストライキ破りとして手なづけようとする時以外には、非常に色々な差別待遇を行つてきた。或る者は黒人労働者を傭ふことを拒絶するか、でなければ彼等に『黒人の仕事』しか與へなかつた、それはその工場内で最も荒い、汚い、暑い、面白くない仕事である。他の者は黒人を同じ仕事でも他人より低い賃銀で働かせた。白人労働者を監督するやうな地位へのぼることは黒人には拒否されてゐる、そして失業時代には大抵一番先にくびにされる。(チェイムズ・アレン「アメリカの黒人」インタナショナル・パンフレットを見よ、なほ『黒人と組合』の項を見よ。)

八 外國生れの労働者 前世紀を特徴づけたアメリカ工業の巨大な擴大は、外國生れの労働者無しでは不可能であつた。一八二〇年から一九二〇年迄に、四千二百萬に近い移住者が合衆國に居を定めた。彼等は長時間と低賃銀でもつて、つらい危険な仕事をさせられた。彼等がこの國の言葉と制度になれてゐないために、彼等は容易に強奪と濫用の犠牲になつた。政治上の權利を得ることは

彼等にとつては困難にされてゐた。(外國生れの者の、迫害の項を見よ。)

一九二〇年の統計の時には、一三、九二一、〇〇〇人、即ち住民の一三%が外國生れであつた。

彼等は實際、東洋と南アメリカを含む地球上の各國からやつてきた。しかし、十四ヶ國が各々二十五萬或はそれ以上を供給してゐた、即ち、

ドイツ……………	一、六六、〇〇〇	イタリー……………	一、六一〇、〇〇〇
ロシア……………	一、四〇〇、〇〇〇	ポーランド……………	一、一四〇、〇〇〇
カナダ……………	一、二八、〇〇〇	アイルランド……………	一、〇三九、〇〇〇
イギリス……………	八二、〇〇〇	スウェーデン……………	六二六、〇〇〇
オーストリア……………	五七六、〇〇〇	メキシコ……………	四七六、〇〇〇
ハンガリー……………	三九七、〇〇〇	ノールウェー……………	三六四、〇〇〇
チェコスロヴァキヤ……………	三六二、〇〇〇	スコットランド……………	二五五、〇〇〇

一九二〇年の七百七十五萬の外國産労働者の殆んど半數は製造工業或は機械工業にゐた。約八分の一は農業に、商業と家庭的な仕事とは各々約十分の一であつた。次にあげるのは、一九二〇年の、十萬或はそれ以上の外國生れの労働者を有する特別な非農業的職業と、その産業内の全労働者



に對する彼らの割合である。

	外國產勞働者數	全部に對する割合
石炭坑勞働者	二七、六〇〇	三六%
大工	三二、三〇〇	三五
被服(半熟練)	二六、四〇〇	四三
熔鑛爐及び綱鐵伸べ工場(半熟練及び體力勞働)	二六、七〇〇	四七
他の綱鐵工業	三三、五〇〇	四四
木綿工場	一〇八、五〇〇	元
機械工、工場大工、道具製作者	二八、〇〇〇	四
鐵道、電車勞働者	一四、九〇〇	三三
召使、給仕	三二、八〇〇	三

外國生れのを各重要産業群に従事してゐる全員と比較すれば、鑛業では三五%、製造及び機械工業では二八%、家庭的個人的仕事では二三%、商業で二〇%、運輸では一八%、公職では一七%専門的仕事では一一%、農業と事務勞働では九%である。

九 生活費 一九一九年に、合衆國勞働統計局は、一人の父と一人の母と三人の子供からなる一家族のために必要な食料、被服、住居其他の必要費の實際量の最少限度の目録をつくりあげた。一九三〇年六月に、十個の都市で、勞働局によつて計上されたこの家庭豫算の額は、シーネクタデイの二、〇二四弗からサンフランシスコの二、四六八弗まで並んだ。

全國産業協議局の算定によれば、生活費は南部の紡績業町の方がニュー・イングランドの都市よりも高く。

十 賃銀 一九二九―三〇年の工業恐慌以前は、合衆國の三千三百萬の賃銀勞働者が、平均一週約二五弗を得てゐた。半分以上が平均以下であつた。僅か十分ノ一以下が一週に四〇弗ほど得てゐたに過ぎなく。

或る産業では勞働者平均一週二〇弗以下であつた。それには木材(製板工業)、煙草、木綿及び編物、キャンデー、罐詰物、男物シャツ等が含まれてゐた。鐵道勞働者のほぼ四分ノ一は二〇弗以下を得てゐた。オハイオ、ペンシルヴァニア、アラバマ、及びあまり重要でない若干の石炭地方の瀝質石炭坑夫もこの群に入つてゐた。工業での『はした仕事』は一時間平均四五セント以下であつた。一日平均二弗五〇セント以下の農業勞働者がすべての男子勞働者の中で最も給料が悪かつた。



婦人は男子よりも拂ひが少い。男でも女でも南部諸州が最も賃銀が安い。合衆國婦人局の研究はオハイオ州の婦人労働者の半分は一週に一四弗以下を得てゐること、ミシシッピとアラバマでは、婦人労働者の半数は一週九弗以下で、賃銀が最も低いことを示してゐる。

一九二九年の終り、恐慌が深刻になつて以來、全般的な賃銀切下げが行はれた。一九三一年の一月、二月、三月の間に、三十八の製造工業で一〇乃至三〇%の切下げが行はれたことを、合衆國労働統計局の報告は確認してゐる(一九三一年五月)。紡織、木材、銑鐵及び鋼鐵が、最も大きな給料減額を報告した産業群であつた。

第一級の鐵道について、聯邦商業委員會の數字は、職場労働者、肉體労働者、列車及び機關運轉労働者の平均週給の減額を示してゐる。

色々な職業では労働者を解僱し、そのあとを補ふのにひどく低下された給料ですることによつて、もつとひどい切下げが行はれた。多くの場所では婦人が以前男子のやつてゐた仕事に差向けられた。

賃銀は支拂方法の變更によつて間接に切下げられた。多くの産業における操短は、時間〔賃銀〕率或は出來高〔賃銀〕率が切下げられなかつた所でさへも、週あたりの取得を減少させた。

國內のあらゆる部分からくるフェデーレテッド・プレスの報告は、世界戦争前以來の最低賃銀が支拂はれたことについて語つてゐる。その數箇の例、道路労働者、イリノイでは一時間二七・五セント、カンサスでは一日二弗、南カロライナでは一時間一五セント。夜番、ミネアポリス商業課、一週十弗。アラバマの工場大工、一週十五弗。シアトル近くの木材工場の労働者は一時間一八セント、カルフォルニアの女給は全然チップだけ。

投資者の通報機關、スタンダード統計會社は、一九三〇年十月に、賃銀切下げ、短時間労働、使用人數減少等が一しよになつて、一九三〇年中に労働階級に支拂はれた賃銀總額を、一九二九年の賃銀總額より二〇%だけ減少させたと推算した。

一九三〇年と一九三一年の初期とに、この國の凡ての地方では黑人労働者の賃銀が決定的に低下した。全國都市聯盟は、南カロライナのスパータンバーグでは、黑人労働者の賃銀が五乃至二〇%低下したと報告した。シヤトルでは家庭内労働者の一月の賃銀は三〇弗といふのが普通で、『木材小舎の男は一時間一八セントといふ低賃銀である。』ヴァーヂニアのリッチモンドでは、建築労働者の賃銀は一時間三五セントから二〇乃至二五セントに引下げられた。ミシガンのグランドラ・ピッツァは、一〇乃至二〇%の賃銀切下げを承認することによつてのみ、黒人はその仕事口を保つこと



ができた。

一九三一年五月の合衆國婦人局の報告によると、マサチューセツツの紡織中心地では放棄された工場財産を受けついで新會社が、一週間の全時間労働に對して三乃至四弗といふ低賃を婦人に支拂つてゐた。この地方では一週間全労働には五弗、六弗、七弗、といふ割合が普通であつた。マサチューセツツの州最低賃銀法によつて州政府に與へられた武器であるところの『道徳的強制』も、この新型の汗搾り工場經營に對しては無力であつた。州労働課の職業婦人部で、ニウヨーク市の婦人労働者について、一九二九年秋から一九三一年二月までの間に、多くの産業内で賃銀切下げのあつたことを報告してゐる。事務労働者は賃銀をひどく切下げられた。恐慌以前には、事務員の賃銀は一週一〇弗乃至一二弗で、全體の平均は一五弗と一八弗の間であつた。一九三一年二月には、事務員は一週に八弗乃至一八弗しか貰へず、しかも、遙かに高い水準の教育を要求された。ツイストの給料は一五弗乃至二二弗から、一二弗乃至二一弗に引下げられ、一二弗といふのが寧ろ普通となつた。速記者は一層悪くなつた、彼等の割合は労働者一五弗、熟練者三五弗の相場から、九弗と二〇弗に下つた。『産業公報』(ニウヨーク)からとつた比較數字はニウヨーク市の婦人工場労働者の賃銀減額を示してゐる。

週當り收得額

産業	一九二九年一月	一九三一年一月	減額
金屬及び機械	一七・六	一五・三	二・三
木材製造	一七・六	一六・〇	一・七
毛皮、皮革及びゴム製品	三三・九	一八・七	四・三
藥品、油、飲料等	一六・三	一五・七	〇・六
印刷及び紙製品	一九・七	一八・三	一・四
紡織	一八・七	一七・五	一・二
被服及び婦人帽子	三三・五	二二・八	一・七
食料及び煙草	一八・九	一八・七	〇・三
平均	二二・四	二〇・八	一・六

十一 資本家階級と労働階級の收得 一九二一年から一九二九年までに、資本家階級はますます多くの國民的『繁榮』の分前を取つてゐた。合衆國製造業統計は次のことを示してゐる、即ち、一九二一年に資本家階級(資本家政府、地主と銀行家、産業の所有者及び管理者を含む)は製造者に



よつて附加された價格の約四八%を受取つた、一九二九年までに彼等は六〇%以上を受取つてゐた——アメリカの製造業においていまだかつてない大きな分前である。鐵道の總收入の中、一九二〇年には五五・四%が俸給と賃銀に當てられたが、一九二九年には僅か四二・六%であつた。

一九二九—三一年の世界恐慌の間、資本家階級は主要な重荷を労働者に轉嫁し、國民收入の中労働者の分前を押し下げた。一九三〇年中に労働階級に支拂れた賃銀總額は、一九二九年の分より少くとも二五%は少いと推算されてゐるのに、大會社も、多くの小經營も、据置利益金を利用して、株式に對していつもどほりの支拂ひをした。

合衆國では他の國々においてよりも、産出される總價格に比較して賃銀が安い。關稅委員會の前メンバー、デイヴィッド・デュー・ルイスによれば、『アメリカの鋼鐵労働者は、百弗の賃銀に對して八一噸の鉄鐵を産出するが、イギリスの鋼鐵労働者はそれだけの賃銀に對して四一噸を産出する。』アメリカの労働者は百弗の賃銀に對して一五、八三九ポンドの石鹼を造る、イギリスの労働者は同賃銀に對して僅か八、五五九ポンドしか造らない。

十二 労働時間 合衆國労働統計局が調査した、南部五州と北部五州を含む、木綿製品を製造する十一州では一週間の平均労働時間が一九二六年の五三・三時間から一九二八年の五三・四時間へ

と、すこしばかり増加した。南部五州の平均は五五・六時間であつた。

一九二九年に、八つの産業群において労働組合員の平均時間は一週四四・八時間であつた。一九二九年には約百萬の労働者が一週五日労働であつた、これは労働局の推算である。

一九二七年には、全ての製造業では週平均労働時間が四九・六時間であつた、これはフーヴァーの『最近經濟變動委員會』の報告である。或る産業ではその平均が遙かに長かつた。合衆國労働統計局の特別調査によれば、鉄鐵及鋼鐵業における週平均労働時間は、一九二二年の五四・四から一九二九年の五四・六時間に増大した。労働者の四分ノ一は一週七日労働——一九二六年以來の増加——であつた。そして熔鑛爐係りの一%はまだ一日十二時間労働であつた。一九二九年に行はれた調査によつて一五五の鐵工場で、労働者の五三%が十時間或はそれ以上働き、二七%が一週七日働いてゐたことがわかつた。

合衆國內の三百五十一箇の都市において、街上労働者はまだ一日に十時間、一週間に六十時間働いてゐる、それは一九二九年に合衆國労働統計局によつて發見された。運轉手、荷馬車馭者、馬方は、一週間平均五四時である。各州間のバス運轉手の労働時間は制限が無い。

十三 スピード・アップ 『普通の労働者が、さうしやうと心がけさえすれば、過度な骨折りをし



なくとも、その正規の労働時間中の努力を倍加することができる、といふことはよく知られた事實である。』この労働者の一人として承認しない聲明は、工業技術協會の一九二七年度大會の時、あるエヂソンの工場の管理者によつて行はれたのである。

労働者のスピード・アップと搾取強化とは世界戦争以後の工業管理の基調である。スピード・アップは請負仕事とボーナス仕拂によつて、ベルトとコンヴェーヤーによつて、また其の他の工夫によつて完成されてゐる。最も速い労働者に『公平な』賃銀を與へるやうに調節された出來高歩合を持つ單一出來高賃銀拂は何も新しいことではない。戦争以來色んなボーナスの方法が廣く用ひられるやうになつた。或るスピード・アップ技師は集團ボーナスが好いと言ふ、なぜならば、彼等に言はせると、さうすれば労働者がお互をせき立てて『節約された時間をその組の他の仕事に利用する』からださうである。他の者は、より一層融通性があり、競争といふより一層根本的な衝動に對して訴へるところが多いから、個人別ボーナス制が好いと言つてゐる。

個人制ボーナスの一例はベドリー (Bedaux) 法である。これは各労働者の仕事を、その一定の數がそれぞれの時間内に完成されねばならない單位に分割する。この『正規の』出來高に對して、労働者は基本的時間割の仕拂を受ける。出來高が少なければ仕事をとりあげられてしまふ。若し一人の労働者が『正規の』出來高以上を仕上げれば、プレミアムが貰える、その四分ノ三がその労働者のものとなり、四分ノ一は小頭其他の所謂間接労働者のものになる。

全國産業協議會事務局は一九二九年に千二百の工場を調査し、出來高拂ひ或は或る特殊な賃銀の『刺戟法』が、千五百人以上の労働者を備つてゐる大工場の九七%で用ひられてゐることを發見した。彼等は言つた、『世界の國々を通じて工業の競争がますます激しくなるにつれて……アマリカ製造業者は賃銀支拂ひの「刺戟法」がますます緊要なことに氣がつくであらう。』

すべてこのやうな方法は、その公然の目的であるスピード・アップのみでなく、賃銀低下、労働者が當然受けるべき〔賃銀〕額についての不斷の不安定、それに増大する就業の不安定を意味することは、労働者はみな知つてゐる。

ベルト或はコンヴェーヤー法は特に大量生産を行ふ大工場で採用されてゐる。この場合労働者は『線』の動きに束縛されてゐる、それでボス共は労働者を急ぎ立てるために『刺戟法』による必要がなす。

ハドスン・モータ工場では、ベルトが一九二八年には一分間に約十三呎動いてゐた、十年前には一分間三呎だつた。



ヴァイクター・ラデオ工場では一九三〇年十一月に、ベルトが一セットを一労働者の前に置く時間を、十秒から八秒に切下げた。賃銀は同率のまま、工場は一週五日を廢して四日だけ仕事をした。

普通スピード・アップは作業の数を減ずるやうな技術上の變化を伴ふ。すると労働者の数が減ぜられ、仕事にとどまつてゐる者は増大された重壓の下で働かねばならない。

紡織の場合には、『引伸し』の本來の意味は、一人一人の労働者の受持つフレーム數或は機數の増加といふことである。

瀝青炭坑山で『整理法』といふのは、必要な場合には、時間を伸しても、毎日の割宛高を仕とげることである。

現代式の機械装置をもち、十二時間労働ではなく八時間労働をやる熔鑛爐では、『大多數の工場では労働力が再組織されて、非常に僅かな労働者しか傭ひ増しをせず、しかも全労働時間は實際に減少してゐる、といふ工合である。時間短縮は労働者の緊張味を輕減した、それで人は一層繼續的に仕事をさせておくことができる。このことが屢々以前には必要であつた仕事の結合或は廢止を惹き起してゐる。』

十四 労働者一人當り生産額 労働者の平均産出高は世界戦争以來急速に押しあげられた。この資本主義的工業の尖鋭な競争と慢性的過剰能力の時期に、雇傭者達は、生産費切下げと競争者より安値にするための重要な手段として、それ相應の賃銀の増大無しに——或は積極的に賃銀切下げをもつて——生産高の増大を要求してゐる。この労働者一人當りの産額の増大は、労働者によつて産出される總價格の中の資本家の分前を増大させた。

一九二七—二八年度の合衆國商務省の年報の中の算定によれば、戦後八年間に増大させられた平均生産高は、農業において二七%、鑛業（石油を含む）において三八%、製造業において四三%、鐵道事業において一二%であつた。この四つの群を一しよにすると、労働者の平均生産高は三三%、即ち戦後のこの八年間に、その前の二十年間の約二倍、増大したことになる。

『最近經濟變動』についてのフーヴァー委員會は、労働者一人當り生産高は、一九一九年から一九二七年までに、製造業において五三・五%、鐵道において約一七%増加した。

聯邦商業委員會が年々發表する數字は、一九二七年から一九二九年への鐵道生産力が約六%増加したことを示してゐる。一人一時間當りの運轉個數は、一九二〇年の一〇一から一九二九年の一二四に殖えた、これは九年間に二三%の増加である。



全體としての製造業では、一九二九年の近似的數字が労働者一人あたりの附加した價值を三、六三七弗と言つてゐる。卸賣物價の變動を斟酌しても、このことは一九二七年から一九二九年の平均増加が八・八%であつたことを示してゐる。

熔鑛爐については、平均生産額の數字は一八五〇年以來あらゆる統計ができてゐる。一八五〇年には二〇、二九八人の労働者が五〇四、〇〇〇噸を生産した。一九一九年には、四萬三千人以上が備はれて三一、〇一五、〇〇〇噸を生産した。一九二七年には、僅か二七、五九八人だけが備はれて（一八五〇年よりは約三分ノ一多いが、一九一九年より三分ノ一少い）、三六、二三〇、〇〇〇噸を生産した。一九二七年の労働者一人當り生産額は、一九一九年の七一六噸、一八五〇年の二五噸に對して、一、二九六噸であつた。（『月刊労働評論』一九二八年六月。）

労働者一人あたり平均生産額の増加は、各實際労働時間の増大を控目に物語つてゐる。一九一九年と一九二七年との、一人一時間當り生産額の數字がとつてある三十五の各種製造業の工場では一時間當りの平均増加が七四%であつた、

一九一四年から一九二七年に至る一人一時間當り生産力の増加は、『月刊労働評論』（一九三〇年三月）の中で、十一種の工業について算定されてゐる。

一人一時間當り生産力指數（一九一四年を一〇〇とし）  
一九一九年 一九二七年

ゴム・タイヤ	一九九	三九二
自動車	一四二	二七六
石油精製	九七	一八二
製粉	九五	一五九
鉄鐵及び鋼鐵	一〇〇	一五五
セメント製造	一〇一	一五四
皮鞣し	一〇三	一四二
砂糖精製	九六	一三三
紙及びバルブ	一〇五	一四〇
屠獸と肉罐詰	九六	一三六
靴	一〇八	一三四

是等の數字は靴の二四%からゴム・タイヤの二九二%に至る増加を示してゐる。この増加の多く

五 アメリカ労働者階級の狀態



は一九一九年以後に起つた。

工業内に据付けられ、労働者一人當りが使用する馬力は、一八九九年の二・一ユニットから一九一四年の三・二ユニット迄増加した、平均一年三・五%の増加である。戦争以後の年に、それは一九一九年の三・二ユニットから一九二七年の四・六ユニットになつた、平均一年に三・九%の増加である。

平均以上に生産力の増大した例を次にあげる。

百二十人からなる自動的な一單位が、一日に八千の自動車の車體を、即ち六秒毎に一つを造ることが出来る。一つ一つの車體は五百五十二の作業を、即ち一日の生産高には四百五十萬の作業を要する。最後の組立ての所では、一日に百萬のリヴェットが、壓搾空氣で車體に打ちつけられる。(『ウォール街雜誌』一九二九年五月五日。)

木材業者は持運び自在の動力鋸を採用して、手挽きの七呎横搔鋸を驅逐した。二人の伐出し人足が汗を垂らして三十分間でなし得ることが、この動力鋸では四分間でできる。(『フェデレーテッド・プレス』一九二九年七月三十一日。)

牛乳配達のための新型トラックは『ステップ・エヌ・ドライブ』と呼ばれてゐる。運転者がその操

縦輪に向つて立つてゐる。止まるたびに振り向くとぢきに積んであるものを取出せるやうになつてゐる。この動作の節約は『直ちに時間の節約となる。』(『フェデレーテッド・プレス』一九三〇年、六月三日。)

プロウイソにあるシカゴ・アンド・ノースウェスタン鐵道會社の荷積場は、機械化の一つの勝利だとよばれてゐる。貨車は重力で轉轍され、車輛緩急機が制動手を廢止した。この一つの荷積場の完成が、一日に六十四機關時間を節約し、八組の機關手と火夫を廢止した。(『フェデレーテッド・プレス』一九三〇年六月十九日。)

シカゴの煉瓦製造機は一時間に四萬の煉瓦を拵へる。以前には一人が八時間かゝつて四百五十拵へてゐた。

コンクリートの道路を拵へる者の一組は、一九一九年以前には、約七十四人でできてゐて、一日に三百三十呎までの舗道を拵へてゐる。一九二八年には四十五人からなる一組が屢々八百呎の舗道を一日に仕上げた。一人當りの仕事は、道路舗装四・七呎から一七・七呎に増大した。

自働式電話は従業員の上を廢止した。インヂャナのテル・ホウトでは、以前百五十人の従業員が傭はれてゐたが、自働式になつてからはたゞの十四人になつた。モンタナのバットでは人數が